

平成 29 年度
名古屋市立大学大学院薬学研究科
自己点検・評価報告書

2017

目次

1	博士学位取得者	1
2	修士学位取得者	4
3	講演会等（2017年1月から2017年12月）	8
4	研究業績目録（2017年1月から2017年12月）	17
	薬化学分野	18
	精密有機反応学分野	21
	薬品合成化学分野	24
	生体超分子システム解析学分野	26
	コロイド・高分子物性学分野	28
	生命分子構造学分野	31
	分子生物薬学分野	46
	薬物送達学分野	48
	生薬学分野	51
	衛生化学分野	58
	遺伝情報学分野	59
	細胞分子薬効解析学分野	61
	病態生化学分野	65
	薬物動態制御学分野	67
	病態解析学分野	71
	細胞情報学分野	73
	神経薬理学分野	75
	医薬品安全性評価学分野	78
	病院薬剤学分野	81
	臨床薬学分野	89
5	科学研究費等補助金	94
6	新聞報道等（2017年1月から2017年12月）	105
7	進路および就職状況	110
8	在籍者名簿	114

1 博士学位取得者

報告 番号	博士の学位を授与された者			博士課程の修了等の状況		主論文名	授与 年月日	主査	副査 (指導 教員)	副査	副査	副査
	博士の専 攻分野の 名称	(ふりがな) 氏名	性 別	大学院名	研究科 (専攻)名							
甲第 326号	博士 (薬学) ※旧課程	(やまもと せいじ) 山本 清司	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 (旧)医療機能薬学専攻	膀胱上皮におけるMR-ENaCシグナルに着目した蓄尿症状の病態解明	H 29.3.31	鈴木	木村	肥田	山村	—
甲第 327号	博士 (薬科学)	(はしざき まさのり) 橋崎 将典	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 創薬生命科学専攻	非接触睡眠計を用いた大規模データ分析による日本人の睡眠に関する疫学的研究	H 29.3.31	青山	糸	服部	山村	—
甲第 328号	博士 (薬科学)	(やましろ たかひろ) 山城 貴弘	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 創薬生命科学専攻	ヒトPCFTの葉酸輸送機能に対するmyricetinの持続性阻害作用の分子機構	H 30.3.26	林	湯浅	頭金	岩尾	—
甲第 329号	博士 (薬科学)	(しゃいまもはめどら まだん えらぶど いぶら ひむ) SHAIMAA MOHAMED RAMADAN ELABD IBRAHIM	女	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 創薬生命科学専攻	Development of nanomedicines as drug delivery systems for cancer and malaria parasites	H 30.3.26	湯浅	尾関	牧野	平嶋	—
甲第 330号	博士 (薬科学)	(こう しょうり) 高 勝莉	女	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 創薬生命科学専攻	生薬・漢方薬成分のグルコーストランスポーターに対する作用	H 30.3.26	樋口	牧野	湯浅	尾関	—
甲第 331号	博士 (薬学)	(みむら よしひさ) 三村 佳久	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	小腸におけるatenolol輸送に関わるトランスポーターの探索とフラボノイド類の阻害効果の解析	H 30.3.26	牧野	湯浅	松永	山村	—
甲第 332号	博士 (薬学)	(ごとう かな) 後藤 佳奈	女	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	メチルマロン酸血症およびプロピオン酸血症の代謝酵素活性測定法の確立と患者における酵素活性測定	H 30.3.26	松永	木村	林	青山	—
甲第 333号	博士 (薬学)	(さながわ あきまさ) 真川 明将	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	がん化学療法におけるB型肝炎に着目した医療安全対策と大規模データベースを活用した抗癌剤の薬剤疫学研究	H 30.3.26	鈴木	木村	頭金	尾関	—
甲第 334号	博士 (薬学)	(まつき かつひと) 松木 克仁	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	3型リアノジン受容体機能と細胞内Ca ²⁺ 濃度制御機構の解析	H 30.3.26	木村	今泉	松永	平嶋	朝霧

報告 番号	博士の学位を授与された者			博士課程の修了等の状況		主論文名	授与 年月日	主査	副査 (指導 教員)	副査	副査	副査
	博士の専 攻分野の 名称	(ふりがな) 氏名	性 別	大学院名	研究科 (専攻)名							
甲第 335号	博士 (薬学)	(ほしかわ あきひろ) 星川 晃宏	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	DDSキャリアを目指したドラッグプラットフォームと しての金ナノ粒子の有用性に関する研究	H 29.3.31	山中	尾関	中川	田中	—
甲第 336号	博士 (薬学)	(のだ たけひろ) 野田 剛弘	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	関節腔内投与徐放性製剤の開発と局所薬物動 態の評価	H 29.3.31	平嶋	尾関	湯浅	奥菌	—
乙第 197号	博士 (薬科学)	(あだち ゆうすけ) 安達 祐介	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	細胞膜透過性と薬理活性の評価に基づいた細 胞内タンパク質を標的とするペプチド医薬品の 研究	H 29.9.28	尾関	中川	梅澤	佐藤	—
乙第 198号	博士 (薬科学)	(にしだ はるゆき) 西田 晴行	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	酸関連疾患治療の課題克服を目指したカリウム イオン競合型アシッドブロッカー(P-CABs)の探 索合成研究	H 29.9.28	樋口	中川	中村	山村	—
乙第 199号	博士 (薬科学)	(なかむら ちえこ) 中村 智恵子	女	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	薬事行政機関における薬剤疫学評価の重要性 とその評価体制の導入に係る研究	H 30.2.28	肥田	頭金	鈴木	牧野	—

2 修士学位取得者

学位番号	分野名	氏名	性別	論文題目	日付	主査	副査	副査	副査
2099	生薬学	田 川 婷	女	甘草の副作用、偽アルドステロン症の原因物質の探索	H29.9.28	牧野	松永	梅澤	—
2100	薬化学	小口 瑠菜	女	低酸素環境を作り出すための光応答性酸素消去剤の開発	H30.3.26	中川	樋口	井上	—
2101	薬化学	田丸 廉太	男	Aminophenol構造を有し青色光で制御可能なH ₂ O ₂ ドナーの合成と機能評価	H30.3.26	中川	梅澤	林	—
2102	薬化学	若森 久幸	男	Cysteine persulfide検出蛍光プローブの開発	H30.3.26	中川	中村	池田	—
2103	精密有機反応学	天野 太成	男	ポケット構造を有するポルフィリン及びその金属錯体の一般的合成法とその触媒的アルカン酸化選択性	H30.3.26	樋口	中村	池田	—
2104	薬品合成化学	有馬 竜平	男	抗腫瘍性サポニン・シラシロンドE-1の合成研究 —量的供給を指向したアグリコンCDE環部改良合成法の開発—	H30.3.26	中村	樋口	池田	—
2105	薬品合成化学	陰 未来	女	新規イソベンゾフラン発生法を基盤とする連続型反応の開発とモルヒナン骨格構築への応用	H30.3.26	中村	中川	梅澤	—
2106	生体超分子システム解析学	大倉 宇海	女	グリア細胞におけるcalcineurin欠損が小腸の変性・炎症と消化・吸収不良を引き起こす	H30.3.26	平嶋	湯浅	岩尾	田中
2107	生体超分子システム解析学	草田 智之	男	抗原親和性が制御するマスト細胞の炎症性メディエータ選択的分泌におけるv-SNAREの役割	H30.3.26	平嶋	青山	井上	—
2108	生体超分子システム解析学	服部 幸希	女	マスト細胞の分泌顆粒に局在するCaチャンネルOrai-2による脱顆粒制御機構	H30.3.26	平嶋	白根	山村	—
2109	生命分子構造学	柚木 康弘	男	概日リズム発信を担う時計タンパク質の相互作用解析	H30.3.26	加藤	中川	糸	—
2110	生命分子構造学	與語 理那	女	免疫グロブリンGとFcγ受容体の溶液中における相互作用解析の技術基盤の確立	H30.3.26	加藤	林	肥田	—
2111	分子生物薬学	小島 舞子	女	ヒストンメチル化酵素CARM1スプライシングバリエーションの発現および機能の解析	H30.3.26	白根	肥田	井上	長田
2112	薬物送達学	後藤 瑛一	男	肺胞マクロファージを標的とした多孔性PLGAマイクロ粒子の粒子設計	H30.3.26	尾関	湯浅	鈴木	—
2113	薬物送達学	太根 将史	男	アミノ基修飾シクロデキストリンをドナーとしたリポソーム内難溶性薬物封入技術の開発	H30.3.26	尾関	湯浅	牧野	—
2114	生薬学	久保 優人	男	ウスバサイシンにおける培養細胞系の確立とアリストロキア酸生合成遺伝子の探索	H30.3.26	牧野	中川	佐藤	—
2115	遺伝情報学	永井 貴広	男	OAS3を標的とする人工mRNA安定化技術の開発	H30.3.26	星野	林	肥田	—

学位 番号	分野名	氏名	性別	論文題目	日付	主査	副査	副査	副査
2116	遺伝情報学	古舘 和也	男	miRNA医薬安定化技術の開発	H30.3.26	星野	伊藤	頭金	—
2117	遺伝情報学	堀田 昂志	男	脊髄小脳変性症原因因子Ataxin-2によるストレス顆粒形成機構	H30.3.26	星野	服部	条	—
2118	細胞分子薬効解析学	萩原 由実子	女	松果体Ca ²⁺ 活性化Cl ⁻ チャンネルを構成するTMEM16A/TMEM16Bのホモ・ヘテロ複合体	H30.3.26	今泉	青山	大澤	山村
2119	細胞分子薬効解析学	古川 奈美	女	門脈圧亢進症におけるCa ²⁺ 活性化Cl ⁻ チャンネルTMEM16Aの発現抑制機構	H30.3.26	今泉	木村	岩尾	山村
2120	病態生化学	加藤 路尚	男	リーリンの不活化におけるADAMTS-2の寄与に関する解析	H30.3.26	服部	星野	井上	—
2121	薬物動態制御学	鈴木 香帆	女	ヒトiPS細胞由来腸管上皮細胞モデルにおける小腸特異的トランスポーター機能の検証	H30.3.26	湯浅	頭金	岩尾	—
2122	薬物動態制御学	菱川 洋輔	男	小腸における担体介在性ATP輸送機構の解析	H30.3.26	湯浅	牧野	山村	—
2123	細胞情報学	鈴木 千晶	女	転写共役因子TAZはp53活性制御を介して細胞がん化に寄与する	H30.3.26	林	星野	朝霧	—
2124	細胞情報学	田中 孝仁	男	リジルオキシダーゼLoxl2によるSnail安定化を介した上皮間葉転換(EMT)制御	H30.3.26	林	平嶋	松永	—
2125	細胞情報学	田中 輝	男	ストレス応答性転写因子ATF4の活性化をモニターするスクリーニング系の樹立と化合物の探索	H30.3.26	林	牧野	長田	—
2126	神経薬理学	石倉 啓一郎	男	神経障害性疼痛における脊髄後角RhoキナーゼおよびPKC γ の役割	H30.3.26	条	青山	牧野	大澤
2127	神経薬理学	中川 寛之	男	ショウジョウバエの新規オクトパミン受容体の機能解析	H30.3.26	条	飯島	青山	—
2128	神経薬理学	坂 豪祐	男	ショウジョウバエの睡眠を制御する中心複合体の神経回路の解析	H30.3.26	条	星野	飯島	—
2129	神経薬理学	丸岡 純也	男	糖尿病マウスの認知機能障害における海馬アストロサイトの役割	H30.3.26	条	服部	田中	大澤
2130	レギュラトリーサイエンス	岡本 秀人	男	Lapatinibによる特異体質性副作用の発症メカニズムの解析	H30.3.26	頭金	肥田	朝霧	—
2131	病院薬剤学	北川 絢恵	女	シスプラチン投与による腎障害及び修復時のメチルアルギニン濃度変化	H30.3.26	木村	肥田	岩尾	—
2132	病院薬剤学	富田 なつみ	女	食塩感受性高血圧を伴う腎障害に対するPDE5阻害薬タダラフィルの有効性	H30.3.26	木村	松永	青山	—

学位 番号	分野名	氏名	性別	論文題目	日付	主査	副査	副査	副査
2133	臨床薬学	大西 琢	男	マイクロカプセル内でのヒトiPS細胞由来肝スフェロイドの作製	H30.3.26	松永	尾関	林	—
2134	臨床薬学	杉本 章	男	マルチキナーゼ阻害薬スニチニブによる血小板減少の機序の解明	H30.3.26	松永	木村	頭金	—
2135	病態生化学	牧野 誠	男	新規リーリン結合分子ニューロピリン-1に関する解析	H30.3.26	服部	糸	田中	—

3 講演会等

(2017年1月から2017年12月)

開催日： 平成 29 年 1 月 24 日
講演会名： 日本薬学会東海支部特別講演会
講師名： 小野 孝彦
所属： 国際医療福祉大学熱海病院 腎臓内科・漢方内科 教授
演題： 腎臓・血管病への当帰・地黄含有処方の効果～臨床から基礎研究への期待～
世話分野： 生薬学分野

開催日： 平成 29 年 1 月 24 日
講演会名： 第 11 回神経薬理学特別セミナー
講師名： 村山 正宜
所属： 理化学研究所・脳科学総合研究センター
演題： マウスにおける皮質トップダウン回路が触覚知覚とその記憶に与える影響
世話分野： 神経薬理学分野

開催日： 平成 29 年 1 月 31 日
講演会名： 日本薬学会東海支部特別講演会
講師名： 清水 孝恒
所属： 星薬科大学
演題： マウス骨肉腫幹細胞と疾患克服への挑戦
世話分野： 細胞分子薬効解析学分野

開催日： 平成 29 年 2 月 2 日
講演会名： 第 12 回神経薬理学特別セミナー
講師名： 佐野 浩子
所属： 久留米大・分子生命科学研究所
演題： ショウジョウバエの協調的制御
世話分野： 神経薬理学分野

開催日： 平成 29 年 2 月 21 日
講演会名： 如月会
場所： 名古屋大市立大学 医学部研究棟 11 階講義室 B
世話人： 名古屋市立大学病院薬剤部

開催日： 平成 29 年 3 月 4 日
講演会名： 第 43 回糖尿病薬物療法研究会
講師名： 土川睦子
所属： 高橋ファミリークリニック
演題： 多職種連携のチーム医療～フットケアの基本を含めて～
講師名： 野田康弘
所属： 金城学院大学薬学部
演題： フットケアに関わる軟膏剤の基礎
講師名： 林 祐司
所属： 名古屋第一赤十字病院 形成外科
演題： 糖尿病フットケアにかかわる治療
講師名： 富田益臣
所属： 下北沢病院糖尿病センター
演題： 糖尿病内科に求められる “Act Against Amputation”
世話人： 菊池千草（愛知県糖尿病薬物療法研究会）

開催日： 平成 29 年 3 月 11 日

講演会名： 第3回東海あすか学術講演会
場所： 名鉄グランドホテル
世話人： 木村和哲

開催日： 平成29年3月21日
講演会名： 日本薬学会東海支部特別講演会
講師名： 岡本 健太 博士
所属： The Laboratory of Molecular Biophysics, Department of Cell and Molecular Biology,
Uppsala University, Sweden Researcher
演題： Electron microscopy and FEL studies on large and giant amoebal viruses
場所： 名古屋市立大学大学院薬学研究科 研究棟2階会議室
世話人： 佐藤 匡史

開催日： 平成29年3月25日
講演会名： 東海漢方シンポジウム
場所： 名古屋大学医学部附属病院 鶴友会館
世話人： 木村和哲他

開催日： 平成29年4月19日
講演会名： 第168回薬学談話会
講師名： 久松洋介先生
所属： 名古屋市立大学
演題： 位置選択的置換反応を利用したシクロメタレート型イリジウム錯体の合成と生物学的応用
世話分野： 薬化学分野

開催日： 平成29年4月20日
講演会名： 医薬品産業特論
講師名： 松永伸之先生
所属： 武田薬品工業 医薬研究本部 代謝疾患創薬ユニット 主席研究員
演題： 製薬企業における創薬研究
世話分野： 精密有機反応学分野

開催日： 平成29年4月29日
講演会名： 薬剤師フォーラム in Nagoya
場所： 名古屋マリオットアソシアホテル
世話人： 木村和哲

開催日： 平成29年5月8日
講演会名： 日本薬学会東海支部特別講演会
講師名： Distinguished Professor Valentino J. Stella
所属： The University of Kansas
演題： A Case for Prodrugs: Considerations in Designing and Developing Prodrugs
世話分野： 薬物送達学分野

開催日： 平成29年5月20日
講演会名： 薬品合成化学分野公開セミナー
講師名： 阿部 匠 博士
所属： 北海道医療大学薬学部
演題： 触媒的カスケード反応の開発と天然物合成への展開
世話分野： 薬品合成化学分野

開催日： 平成 29 年 5 月 20 日
講演会名： 第 81 回 日本生化学会中部支部例会・シンポジウム
「タンパク質の細胞内ダイナミズム」
場所： 名古屋市立大学薬学部 宮田専治記念ホール
主催： 日本生化学会中部支部、日本生化学会
共催： 名古屋市立大学大学院薬学研究科、
科学研究費補助金 新学術領域研究「動的秩序と機能」
世話人： 加藤 晃一

開催日： 平成 29 年 5 月 25 日
講演会名： 桜山薬剤師連携セミナー
場所： 名古屋市立大学 医学部研究棟 2 階
世話人： 木村和哲

開催日： 平成 29 年 5 月 27 日
講演会名： 瑞穂薬剤師会研修会
共催： 名古屋市立大学薬剤師会
講師名： 依田 暁
所属： 金山レディースクリニック
演題： 子宮内膜症と子宮腺筋症の病態と薬物治療
世話人： 牧野 利明

開催日： 平成 29 年 5 月 31 日
講演会名： 第 13 回神経薬理学特別セミナー
講師名： 林 悠
所属： 筑波大学・国際統合睡眠医科学研究機構
演題： 睡眠の進化と意義～マウスと線虫の遺伝学によるアプローチ～御
世話分野： 神経薬理学分野

開催日： 平成 29 年 6 月 1 日
講演会名： 糖尿病イブニングセミナー春学術講演会 2017
講師名： 土川睦子
所属： DM-NURSE-LAB
演題： 糖尿病患者の AIP (Aging-in-place) の実現に向けて
講師名： 田中智洋
所属： 京都大学医学研究科メディカルイノベーションセンター
演題： これからの肥満合併糖尿病の診療にどう取り組むか
世話人： 菊池千草 (桜山糖尿病勉強会)

開催日： 平成 29 年 6 月 9 日
講演会名： 山手イブニングセミナー
講師名： 豊田 太郎 准教授
所属： 東京大学大学院総合文化研究科
演題： Locomotion and Transformation of Underwater Micrometer-Sized Molecular Aggregates under Chemical Stimuli
場所： 分子科学研究所 山手 3 号館 9 階東 セミナールーム
世話人： 加藤 晃一

開催日： 平成 29 年 6 月 10 日

講演会名： 第44回糖尿病薬物療法研究会～糖尿病療養指導実践ワークショップ～

講師名： 釣谷大輔

所属： 浜松医科大学内科学第二講座

演題： 患者の受け入れを考慮したインスリン治療の実践～チーム医療としての取組みも含めて～

世話人： 菊池千草（愛知県糖尿病薬物療法研究会）

開催日： 平成29年6月22日

講演会名： 日本薬学会東海支部特別講演会

講師名： 味八木 茂

所属： 広島大学

演題： 新たな細胞間コミュニケーション因子“エクソソーム”の関節疾患や組織再生への関与マウス骨肉腫幹細胞と疾患克服への挑戦

世話分野： 細胞分子薬効解析学分野

開催日： 平成29年6月26日

講演会名： 山手イブニングセミナー

講師名： 荒川 和晴 准教授

所属： 慶應義塾大学環境情報学部・先端生命科学研究所

演題： クマムシ乾眠機構の適応と進化

場所： 分子科学研究所 山手3号館2階西 大会議室

世話人： 加藤 晃一

開催日： 平成29年7月14日

講演会名： 第171回薬学談話会

場所： 名古屋市立大学大学院薬学研究科・研究棟北棟2階会議室

世話人： 堀田祐志

開催日： 平成29年7月16日

講演会名： 平成29年度新任・中堅薬剤師研修会

場所： 名古屋大学医学部附属病院 中央診療棟3階 講堂

世話人： 木村和哲

開催日： 平成29年7月22日

講演会名： 瑞穂薬剤師会研修会

共催： 名古屋市立大学薬剤師会

講師名： 牧野 利明

所属： 名古屋市立大学大学院薬学研究科生薬学分野

演題： いまさら聞けない生薬・漢方薬

世話人： 牧野 利明

開催日： 平成29年7月31日

講演会名： 第14回神経薬理学特別セミナー

講師名： 伊藤 正芳

所属： Janelia・Rubin 研究室

演題： Genetic dissection of neuroendocrine system in the Drosophila brain.

世話分野： 神経薬理学分野

開催日： 平成29年9月2日

講演会名： Nagoya Insulin Skill-up Academy for Pharmacists

場所： 愛知県産業労働センターウィングあいち

講師名： 朝倉俊成
所属： 新潟薬科大学薬学部臨床薬学研究室
演題： インスリンデバイス手技指導の実際とポイント
世話人： 木村和哲

開催日： 平成 29 年 9 月 2 日
講演会名： 第 4 階愛病薬メデイカル研修会
場所： 名古屋市立大学病院 臨床シュミレーションセンター
世話人： 木村和哲

開催日： 平成 29 年 9 月 2 日～3 日
講演会名： 第 2 回 日本薬学教育学会大会
場所： 名古屋市立大学薬学部
大会長： 林 秀敏

開催日： 平成 29 年 9 月 10 日
講演会名： 第 33 回（2017 年）名古屋市立大学薬学部卒後教育講座 9 月期
講師名： 肥田重明
所属： 名古屋市立大学大学院薬学研究科衛生化学分野
演題： 抗体を含むバイオ医薬品の可能性
講師名： 吉田隆雄
所属： 小野薬品工業株式会社オンコロジー創薬研究部第二研究室
演題： 免疫チェックポイント阻害剤ヒト型抗 PD-1 抗体ニボルマブ
世話人： 鈴木 匡、岩尾岳洋（生涯教育委員会）、菊池千草（薬友会卒後教育担当理事）

開催日： 平成 29 年 9 月 29 日
講演会名： 第 173 回薬学談話会
講師名： 朝霧 成挙 先生
所属： 名古屋市立大学 大学院薬学研究科 病態解析学分野 准教授
演題： 骨・関節破壊メカニズムの探究と薬物標的
世話人： 薬学談話会世話人（座長：寺坂和祥）

開催日： 平成 29 年 9 月 30 日
講演会名： 瑞穂薬剤師会研修会
共催： 名古屋市立大学薬剤師会
講師名： 難波 大夫
所属： 名古屋市立大学大学院医学研究科呼吸器・免疫アレルギー内科学
演題： 関節リウマチの治療ストラテジー
世話人： 牧野 利明

開催日： 平成 29 年 10 月 8 日、9 日
講演会名： 第 50 回日本漢方交流会全国学術総会
講師名： 牧野 利明
所属： 名古屋市立大学大学院研究科生薬学分野
演題： 身近な薬用植物
講師名： 笛木 司
所属： マツヤ薬局
演題： 開局薬剤師の考証研究
講師名： 仙頭 正四郎
所属： 高雄病院京都駅前診療所

演題： 臓腑の視点から皮膚疾患に挑む漢方療法・温腎理気発揚

講師名： 高橋 楊子

所属： 上海中医薬大学付属日本校

演題： 舌診の基礎と臨床応用

講師名： 龍神 綾子

所属： りゅうじん医院

演題： 皮疹の部位から湿疹を治す方法

世話人： 牧野 利明

開催日： 平成 29 年 10 月 12 日

講演会名： 第 17 回名市大頭脳循環セミナー

講師名： Prof. David M. Chenoweth

所属： University of Pennsylvania

演題： Design and synthesis of new chemical tools for probing, manipulating, and imaging biological systems

世話分野： 薬化学分野

開催日： 平成 29 年 10 月 15 日

講演会名： 第 33 回（2017 年）名古屋市立大学薬学部卒後教育講座 10 月期

講師名： 杉浦真弓

所属： 名古屋市立大学大学院医学研究科産科婦人科学分野

演題： 不育症のエビデンス

講師名： 小澤和枝

所属： オアシスセンター

講師名： 山田靖子

所属： 株式会社エル・シー・エス福祉事業本部サービス企画管理室

演題： 地域で切れ目のない医療と介護を確保するために、薬剤師に期待すること

世話人： 鈴木 匡、岩尾岳洋（生涯教育委員会）、菊池千草（薬友会卒後教育担当理事）

開催日： 平成 29 年 10 月 21 日

講演会名： 東洋医学研究財団設立 40 周年記念東洋医学に関する市民公開講演会

講師名： 松岡 尚則

所属： 東邦大学東洋医学講座客員講師・公益財団法人研医学会研究員

演題： 薬はどのように始まったか～その遡及と考察

講師名： 武田 時昌

所属： 京都大学人文科学研究所

演題： 漢方医学の本質とは何か～技術的伝統の遡及的考察

世話人： 牧野 利明

開催日： 平成 29 年 10 月 28 日

講演会名： 瑞穂薬剤師会研修会

共催： 名古屋市立大学薬剤師会

講師名： 利根 義人

所属： 大塚製薬工業 OS-1 事業部

演題： 冬季の脱水と経口補水療法のすすめ～日本小児救急医学会ガイドライン 2017 を含めて～

世話人： 牧野 利明

開催日： 平成 29 年 11 月 6 日

講演会名： 日本薬学会東海支部特別講演会

講師名： 村上誠

所属： 東京大学医学部
演題： 脂質代謝の新機軸：ノックアウトからメタボロミクスへ
世話分野： 病態生化学分野

開催日： 平成 29 年 11 月 8 日
講演会名： 日本薬学会東海支部特別講演会
場所： 名古屋市立大学病院 3 階大ホール
講師名： 高柳 広
所属： 東京大学 大学院医学系研究科 免疫学
演題： 骨免疫学と自己免疫疾患
世話分野： 衛生化学分野、病態解析分野

開催日： 平成 29 年 11 月 9 日
講演会名： 糖尿病イブニングセミナー秋学術講演会 2017
講師名： 早川麻理子
所属： 名古屋経済大学人間生活科学部管理栄養学科
演題： 幸せな人生をサポートする糖尿病食事療法～ Delicious Good Diet Revolution～
講師名： 釣谷大輔
所属： 浜松医科大学内科学第二講座
演題： インスリン教科療法を再考する～CGM を用いて検討した結果から～
世話人： 菊池千草（桜山糖尿病勉強会）

開催日： 平成 29 年 11 月 10 日
講演会名： 第二回オブジーボ適正使用講演会
場所： 名古屋市立大学病院 4 階 第一会議室
世話人： 木村和哲

開催日： 平成 29 年 11 月 12 日
講演会名： 第 33 回（2017 年）名古屋市立大学薬学部卒後教育講座 11 月期
講師名： 遠山竜也
所属： 名古屋市立大学大学院医学研究科乳腺外科学分野
演題： 薬剤師として知っておきたい乳がん治療の up-to-date
講師名： 和泉邦彦
所属： 新潟大学医学部災害医療教育センター
演題： 災害医療に求められる知識・技能・態度～法制度からフィジカルアセスメント、心の問題まで～
世話人： 鈴木 匡、岩尾岳洋（生涯教育委員会）、菊池千草（薬友会卒後教育担当理事）

開催日： 平成 29 年 11 月 18 日
講演会名： 第 45 回糖尿病薬物療法研究会
講師名： 新井孝文
所属： 名古屋掖済会病院薬剤部
演題： 病棟における持参薬管理の現状について
講師名： 佐竹正子
所属： 薬局恵比寿ファーマシー
演題： 薬局で行う糖尿病薬物療法のポリファーマシー～低血糖などの有害事象の予防対策～
講師名： 田中智洋
所属： 名古屋市立大学大学院医学研究科消化器・代謝内科学
演題： 週 1 回 DPP4 阻害薬が拓く新時代の糖尿病治療
世話人： 菊池千草（愛知県糖尿病薬物療法研究会）

開催日： 平成 29 年 11 月 25 日
講演会名： 瑞穂薬剤師会研修会
共催： 名古屋市立大学薬剤師会
講師名： 長久保久仁子
所属： (株) メディカルファーマシー／ミキ薬局
演題： ～経口抗がん薬における薬薬連携の進め方
講師名： 後藤 亜紀
所属： 大鵬薬品工業 (株)
演題： 消化器癌治療における経口抗がん剤の位置づけ
世話人： 牧野 利明

開催日： 平成 29 年 11 月 30 日
講演会名： Aichi-pharmacist Top of Meeting
場所： ストリングスホテル名古屋
講師名： 松原和夫
所属： 京都大学医学部附属病院薬剤部
演題名： 病院とかかりつけ薬局との連携
世話人： 木村和哲

開催日： 平成 29 年 12 月 1 日
講演会名： 第 27 回日本循環薬理学会
場所： 愛知県産業労働センター「ウインクあいち」
世話人： 今泉 祐治

開催日： 平成 29 年 12 月 15 日
講演会名： 桜山薬剤師セミナー
場所： 名古屋市立大学病院 10 階
開催目的： 糖尿病治療に関する薬薬連携
世話人： 木村和哲

開催日： 平成 29 年 12 月 29 日
講演会名： 第 15 回神経薬理学特別セミナー
講師名： 伊藤 正芳
所属： Janelia・Rubin 研究室
演題： Genetic dissection of neuroendocrine system in the Drosophila brain.
世話分野： 神経薬理学分野

4 研究業績目録

(2017年1月から2017年12月)

【薬化学分野】

(原報)

Lue Sun, Takashi Moritake, Kazuya Ito, Yoshitaka Matsumoto, Hironobu Yasui, Hidehiko Nakagawa, Aki Hirayama, Osamu Inanami, Koji Tsuboi
Metabolic analysis of radioresistant medulloblastoma stem-like clones and potential therapeutic targets
PLOS ONE, **12**, e0176162 (2017)

John J. Ferrie, Naoya Ieda, Conor M. Haney, Christopher R. Walters, Itthipol Sungwienwong, Jimin Yoon, and E. James Petersson
Multicolor protein FRET with tryptophan, selective coumarin-cysteine labeling, and genetic acridonylalanine encoding
Chem. Commun., **53**, 11072-11075 (2017)

Hana Okuno, Naoya Ieda, Yuji Hotta, Mitsuyasu Kawaguchi, Kazunori Kimura, Hidehiko Nakagawa
A yellowish-green-light-controllable nitric oxide donor based on *N*-nitrosoaminophenol applicable for photocontrolled vasodilation
Org. Biomol. Chem., **15**, 2791-2796 (2017)

(総説・著書・総合論文など)

中川秀彦
光誘起反応に着目したケージド NO 開発と生物応用
ファルマシア, **53**, 886-890 (2017)

(学会発表)

川口充康、池川祥平、家田直弥、中川秀彦
Sirtuin 蛍光プローブの開発と生細胞イメージング
日本酸化ストレス学会東海支部 第 5 回学術集会, 2017 年 2 月 18 日, 名古屋, O-6

中川秀彦
光誘起化学反応に基づいた生物活性分子の光制御と生体機能制御
日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月 24-27 日, 仙台, S59-5

國枝一輝、山内啓雅、川口充康、家田直弥、中川秀彦
阻害剤スクリーニングを志向した PAD 活性検出蛍光プローブの開発
日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月 24-27 日, 仙台, 27PA-am016

川口充康、池川祥平、家田直弥、中川秀彦
SIRT6 活性検出蛍光プローブの開発とケミカルスクリーニング
日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月 24-27 日, 仙台, 27PA-am023

家田直弥、奥野華、堀田祐志、川口充康、木村和哲、中川秀彦
可視光で制御可能な *N*-nitrosoaminophenol 型 NO ドナー類の開発
日本ケミカルバイオロジー学会第 12 年会, 2017 年 6 月 7-9 日, 札幌, O-39

川口充康、韓湘、家田直弥、河野邦行、青木淳賢、中川秀彦
ENPPI 活性検出蛍光プローブの開発と阻害剤探索および生理活性評価
日本ケミカルバイオロジー学会第 12 年会, 2017 年 6 月 7-9 日, 札幌, P-010

國枝一輝、山内啓雅、川口充康、家田直弥、中川秀彦
PAD 活性検出系の構築を目的とした消光性蛍光基質の開発
日本ケミカルバイオロジー学会第 12 年会, 2017 年 6 月 7-9 日, 札幌, P-036

家田直弥、奥野華、堀田祐志、川口充康、木村和哲、中川秀彦
可視光で制御可能な NO ドナーの開発と生体応用
第 70 回日本酸化ストレス学会学術集会, 2017 年 6 月 28-29 日, つくば, O-43

犬飼雄哉、川口充康、家田直弥、中川秀彦
ニトロニルニトロキシドの化学的性質を利用した NO 蛍光検出薬の開発
第 70 回日本酸化ストレス学会学術集会, 2017 年 6 月 28-29 日, つくば, P-83

國枝一輝、山内啓雅、川口充康、家田直弥、中川秀彦
化学反応性に基づいた新規シトルリン検出蛍光プローブの開発
第 63 回日本薬学会東海支部 総会・大会, 2017 年 7 月 8 日, 岐阜, F-9 【学生優秀発表賞】

家田直弥、奥野華、堀田祐志、川口充康、木村和哲、中川秀彦
可視光で制御可能な NO ドナー類の合成と血管弛緩制御への応用
第 63 回日本薬学会東海支部 総会・大会, 2017 年 7 月 8 日, 岐阜, F-10

川口充康、韓湘、家田直弥、河野邦行、青木淳賢、中川秀彦
ENPPI 蛍光プローブおよび阻害剤の開発と生理活性評価
第 11 回バイオ関連化学シンポジウム, 2017 年 9 月 7-9 日, 東京, 2PB-20

山田輝、川口充康、家田直弥、中川秀彦
caspase-1 活性を利用した単一細胞 pyroptosis 可視化プローブの開発
第 35 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 2017 年 10 月 25-27 日, 名古屋, 1P-031

山内彩樺、家田直弥、堀田祐志、川口充康、木村和哲、中川秀彦
赤色光作動性 NO ドナーの合成と機能評価
第 35 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 2017 年 10 月 25-27 日, 名古屋, 1P-033

國枝一輝、山内啓雅、川口充康、家田直弥、中川秀彦
光誘起電子移動を利用したシトルリン検出蛍光プローブの開発
第 35 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 2017 年 10 月 25-27 日, 名古屋, 1P-034

太田悠平、脇田弘臣、家田直弥、川口充康、中川秀彦
Peptidase の基質認識の違いを利用した CARM1 活性評価系の開発
第 35 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 2017 年 10 月 25-27 日, 名古屋, 1P-035

川口充康、韓湘、家田直弥、河野邦行、青木淳賢、中川秀彦
ENPPI 活性検出蛍光プローブの開発とケミカルスクリーニング
第 35 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 2017 年 10 月 25-27 日, 名古屋, 1P-036

家田直弥、川口充康、中川秀彦
黄緑色光で制御可能な NO ドナー誘導体の合成と機能評価

第 35 回メディシナルケミストリーシンポジウム、2017 年 10 月 25-27 日、名古屋、1P-037

若森久幸, 川口充康, 家田直弥, 中川秀彦

Dinitrobenzene 骨格を有する cysteine persulfide 検出蛍光プローブの合成と機能評価

第 27 回日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術集会 2017、2017 年 11 月 26 日、鈴鹿、F-20 【ベストプレゼン賞】

Naoya Ieda, Hana Okuno, Yuji Hotta, Mitsuyasu Kawaguchi, Kazunori Kimura, and Hidehiko Nakagawa.

Development of Visible light-controllable NO donors and their biological applications

8th Joint Meeting of Society for Free Radical Research Australasia and Japan eith International Symposium on Coenzyme Q10, 2017 年 12 月 9-12 日, Hachioji, 15 【Young Investigator Award】

Kai Kitamura, Mitsuyasu Kawaguchi, Naoya Ieda, Kauhiro Hishikawa, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata, Hidehiko Nakagawa.

Photo-controllable Mitochondria-targeting Nitric Oxide Releasers and Modulation of Mitochondrial Dynamics

8th Joint Meeting of Society for Free Radical Research Australasia and Japan eith International Symposium on Coenzyme Q10, 2017 年 12 月 9-12 日, Hachioji, 22

【精密有機反応学分野】

(原報)

Yuichi Amano, Naoki Umezawa, Shin Sato, Hisami Watanabe, Takashi Umehara, Tsunehiko Higuchi
Activation of lysine-specific demethylase 1 inhibitor peptide by redox-controlled cleavage of a traceless linker.

Bioorg. Med. Chem., **25**(3), 1227-1234 (2017).

Shin Aoki, Yosuke Hisamatsu

Design and Synthesis of Luminescent Ir Complex-Peptide Hybrids for Theranostics of Cancer.

Annals of Pharmacology and Pharmaceutics, **2**, 1118, (2017).

Ryota Hidese, Ka Man Tse, Seigo Kimura, Eiichi Mizohata, Junso Fujita, Naoki Umezawa, Tsunehiko Higuchi, Tadayuki Imanaka, Tsuyoshi Inoue, Shinsuke Fujiwara

Active site geometry of a novel aminopropyltransferase for biosynthesis of hyperthermophile-specific branched-chain polyamine.

FEBS J., **284**, 3684-3701 (2017).

Allan Patrick G. Macabeo, Peter Yuosef M. Rubio, Tsunehiko Higuchi, Naoki Umezawa, Christian Faderl, Simon Budde, Porferio S. Bangcaya

Polyoxygenated seco-cyclohexenes and other constituents from *Uvaria valderramensis*.

Biochemical Systematics and Ecology, **71**, 200-204 (2017).

Hiroshi Suzuki, Kanako Inabe, Yoshinori Shirakawa, Naoki Umezawa, Nobuki Kato, Tsunehiko Higuchi
Role of thiolate ligand in spin state and redox switching in the cytochrome P450 catalytic cycle.

Inorg. Chem., **56**(8), 4245-4248 (2017).

Yuichi Amano, Masaki Kikuchi, Shin Sato, Shige-yuki Yokoyama, Takashi Umehara, Naoki Umezawa, Tsunehiko Higuchi

Development and crystallographic evaluation of histone H3 peptide with N-terminal serine substitution as a potent inhibitor of lysine-specific demethylase 1.

Bioorg. Med. Chem., **25**(9), 2617-2624 (2017).

Kenta, Yokoi, Yosuke Hisamatsu, Kana Naito, Shin Aoki

Design, synthesis, and anticancer activities of cyclometalated tris(2-phenylpyridine)iridium(III) complexes with cationic peptides at the 4'-position of the 2-phenylpyridine ligand.

Eur. J. Inorg. Chem., **44**, 5295-5309 (2017).

Yosuke Hisamatsu, Sarvendra Kumar, Shin Aoki

Design and synthesis of tris-Heteroleptic cyclometalated iridium(III) complexes consisting of three different nonsymmetric ligands based on ligand-selective electrophilic reactions via interligand HOMO hopping phenomena.

Inorg. Chem., **56**(2), 886-899 (2017).

Yuichi Tamura, Yosuke Hisamatsu, Sarvendra Kumar, Taiki Itoh, Kyouhei Sato, Reiko Kuroda, Shin Aoki
Efficient synthesis of tris-heteroleptic iridium(III) complexes based on the Zn²⁺-promoted degradation of tris-Cyclometalated iridium(III) complexes and their photophysical properties.

Inorg. Chem., **56**(2), 812-833 (2017).

Yosuke Hisamatsu, Nozomi Suzuki, Abdullah-Al Masum, Ai Shibuya, Ryo Abe, Akira Sato, Sei-ichi Tanuma, Shin Aoki
Cationic amphiphilic tris-Cyclometalated iridium(III) complexes induce cancer cell death via interaction with Ca²⁺-calmodulin complex.
Bioconjugate Chem., **28**(2), 507-523 (2017).

(学会発表)

本間 紘次郎, 竹田 圭介, 加藤 信樹, 梅澤 直樹, 樋口 恒彦,
フェノキシド生成をトリガーとする化学発光・蛍光プローブの pH 適用範囲拡張のための分子内水素結合戦略.
日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月 25 日 (仙台) ; 25R-am01.

寺前 将太, 小林 由布子, 大久保 恵理奈, 青柳 忍, 加藤 信樹, 梅澤 直樹, 樋口 恒彦
ルテニウムポルフィリンの酸化触媒能に及ぼす β 位臭素置換基の効果.
日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月 26 日 (仙台) ; 26V-pm03.

中村 圭佑, 天野 祐一, 梅澤 直樹, 樋口 恒彦
外部刺激に応答して切断される新規無痕跡型リンカーの開発.
日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月 27 日 (仙台) ; 27PA-am024S.

梅澤 直樹, 天野 祐一, 佐藤 心, 渡辺 寿美, 梅原 崇史, 樋口 恒彦
一時的な環状化を用いた還元環境応答型 LSD1 阻害ペプチドの開発.
第 12 回ケミカルバイオロジー学会, 2017 年 6 月 8 日 (札幌) ; P111.

井鍋 佳菜子, 鈴木 潤, 白川 慶典, 梅澤 直樹, 加藤 信樹, 樋口 恒彦
シトクロム P450 触媒サイクルにおけるスピン状態とレドックス変換におけるチオラート軸配位子の役割.
第 27 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム, 2017 年 6 月 17 日 (東京) ; O-09.

Shirakawa, Y, Niwa, Y, Umezawa, N, Kato, N, Higuchi, T
Chemical Property of Elemental Substituents of Heme Thiolate Complex.
6th Asian Conference on Coordination Chemistry (ACCC6), 2017 年 6 月 24-28 日 (メルボルン) .

Inabe, K, Suzuki, H, Shirakawa, Y, Umezawa, N, Kato, N, Higuchi, T
Role of Thiolate Ligand in Spin State and Redox Switching in the Cytochrome P450 Catalytic Cycle
6th Asian Conference on Coordination Chemistry (ACCC6) . 2017 年 6 月 24-28 日 (メルボルン)

久松 洋介, 梅澤 直樹, 樋口 恒彦
ヘミン認識能を有する分子ピンセットの開発.
第 11 回バイオ関連化学シンポジウム, 2017 年 9 月 8 日 (東京) ; 2PA-34.

樋口 恒彦
ルテニウムポルフィリンの酸化触媒活性に及ぼすピロール β 位ハロゲン基の効果.
第 120 回触媒討論会, 2017 年 9 月 11 日 (松山) ; 1H04 A1.

梅澤 直樹, 天野 祐一, 北川 宙輝, 佐藤 心, 菊地 正樹, 渡辺 寿美, 梅原 崇史, 樋口 恒彦
LSD1 を阻害する還元環境応答性環状ペプチドの開発.
第 35 回メディスナルケミストリーシンポジウム, 2017 年 10 月 25 日 (名古屋) ; 1P-001.

中村 美里, 久松 洋介, 梅澤 直樹, 樋口 恒彦

活性酸素種との反応を引き金として金属毒性の減弱能を狙った分子の開発.

第 35 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 2017 年 10 月 26 日 (名古屋) ; 2P-019.

久松 洋介, 梅澤 直樹, 樋口 恒彦

ヘミンを認識するピンセット型ホスト分子の設計・合成と生物活性評価.

第 35 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 2017 年 10 月 26 日 (名古屋) ; 2P-022.

天野 太成, 稲垣 秀樹, 久松 洋介, 加藤 信樹, 梅澤 直樹, 樋口 恒彦

ビスポケットポルフィリン金属錯体の一般性ある合成とその触媒的なアルカン酸化の選択性.

第 50 回酸化反応討論会, 2017 年 11 月 11 日 (横浜) ; P-09.

Naoki Umezawa, Yuichi Amano, Shin Sato, Masaki Kikuchi, Hisami Watanabe, Takashi Umehara,
Tsunehiko Higuchi.

Redox-responsive activation of lysine-specific demethylase 1 inhibitor peptide.

2nd International Symposium on Biofunctional Chemistry (ISBC2017), 2017 年 12 月 14 日 (Kyoto) ; P-80

【薬品合成化学分野】

(原報)

Hiroyuki Yamakoshi, Akinori Toita, Toshihiro Igari, Keisuke Takeda, Shunichi Hashimoto, Seiichi Nakamura
A double hemiketal formation/hetero-Michael addition approach to the [6,5,5]-dispiroketal system of spiroolides.

Heterocycles, **95**, 934–949 (2017).

Hideaki Kondo, Hiroyuki Yamakoshi, Ayaka Kimura, Seiichi Nakamura

Cyclization of α -diazo esters triggered by oxidation: a facile preparation of 5-aryl-2,3-dihydrofuran-4-carboxylates.

ChemistrySelect, **2**, 5646–5649 (2017).

Minoru Ueda, Syusuke Egoshi, Kosuke Dodo, Yasuhiro Ishimaru, Hiroyuki Yamakoshi, Takeshi Nakano, Yousuke Takaoka, Shinya Tsukiji, Mikiko Sodeoka

Noncanonical function of a small-molecular virulence factor coronatine against plant immunity: an *in vivo* Raman imaging approach.

ACS Cent. Sci., **3**, 462–472 (2017).

(学会発表)

坂上 友花梨, 斎藤 彩有里, 澤山 侑季, 山越 博幸, 中村 精一
鎮痙物質マルリブアセタール炭素置換類縁体の合成研究.

日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月 25 日 (仙台) ; 25PA-am118S.

近藤 秀明, 木村 文香, 山越 博幸, 中村 精一

ベンジル位の酸化に基づく α -ジアゾエステルの環化反応.

日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月 25 日 (仙台) ; 25PA-pm033.

鈴木 恵介, 長野 秀嗣, 山越 博幸, 中村 精一

カスパーゼ 1 阻害物質パークレトリオンの合成研究.

日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月 26 日 (仙台) ; 26S-am13.

長野 秀嗣, 鈴木 恵介, 山越 博幸, 中村 精一 【学生優秀発表賞】

パークレトリオンの合成研究—AD 環部の官能基化—.

第 63 回日本薬学会東海支部大会, 2017 年 7 月 8 日 (岐阜) ; F8.

山内 裕貴, 山越 博幸, 中村 精一

抗腫瘍性サポニン OSW-1 CD 環部の合成研究.

第 7 回 CSJ 化学フェスタ 2017, 2017 年 10 月 19 日 (東京) ; P7-037.

山越 博幸, 鈴木 恵介, 長野 秀嗣, 中村 精一

架橋多環式骨格の一段階構築を基盤とするパークレトリオンの合成研究.

第 43 回反応と合成の進歩シンポジウム, 2017 年 11 月 6 日 (富山) ; 10-10.

陰 未来, 高田 峰辰, 山越 博幸, 中村 精一 【優秀賞】

新規イソベンゾフラン合成法を活用する連続型反応の開発.

第 48 回中部化学関係学協会支部連合秋季大会, 2017 年 11 月 12 日 (岐阜) ; 2PC22.

山内 裕貴, 山越 博幸, 中村 精一

抗腫瘍性サポニン OSW-1 の合成研究 –CD 環部の構築–.

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2017, 2017 年 11 月 26 日 (鈴鹿) ; F-24.

有馬 竜平, 赤堀 禎紘, 山越 博幸, 中村 精一

抗腫瘍性サポニンシラシロシド E-1 CDE 環部改良合成法の開発.

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2017, 2017 年 11 月 26 日 (鈴鹿) ; F-25.

【生体超分子システム解析学分野】

(原報)

Masahiko Tanaka, Tomomi Senda, Naohide Hirashima

Expression of the GluA2 subunit of glutamate receptors is required for the normal dendritic differentiation of cerebellar Purkinje cells.

Neurosci. Lett., **657**, 22-26 (2017).

Satoru Yokawa, Takahiro Suzuki, Satoshi Inouye, Yoshikazu Inoh, Ryo Suzuki, Takao Kanamori, Tadahide Furuno, Naohide Hirashima

Visualization of glucagon secretion from pancreatic α cells by bioluminescence video microscopy: identification of secretion sites in the intercellular contact regions.

Biochem. Biophys. Res. Commun., **485**, 725-730 (2017).

(総説・著書・総合論文など)

平嶋 尚英

エクソサイトーシスのイメージング.

生体の科学, **68**, 452-453 (2017).

(学会発表)

田中 正彦, 大倉 字海, 山本 康介, 平嶋 尚英

GFAP-Cre calcineurin B α ^{fl/fl} mice の小腸における変性と炎症.

日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月 25 日 (仙台) ; 25PB-am165.

伊納 義和, 田所 哲, 平嶋 尚英, 中西 守, 古野 忠秀

正電荷リポソームによるマスト細胞活性化抑制機構の解明.

日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月 25 日 (仙台) ; 25PB-pm003.

真野 安由美, 奥田 梨花, 鈴木 亮, 平嶋 尚英

GUV liposome と細胞の集合体形成における分子間相互作用と接着形態の解析.

日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月 25 日 (仙台) ; 25PB-pm004S.

井上 悠, 長谷川 靖司, 宮地 克真, 山田 貴亮, 中田 悟, 田中 正彦, 鈴木 亮, 平嶋 尚英

三次元培養皮膚の 3D ライブイメージング技術の開発.

日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月 25 日 (仙台) ; 25X-pm16.

木村 友香, 日下部 美帆, 亀川 沙知, 鈴木 亮, 平嶋 尚英

蛍光ビーズを用いたメラノサイトとケラチノサイトにおけるメラノソームの挙動解析.

日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月 27 日 (仙台) ; 27PB-pm072S.

田中 正彦, 大倉 字海, 八木 孝樹, 平嶋 尚英

GFAP-Cre calcineurin B α ^{fl/fl} mice の小腸における変性・炎症と腸管神経系の異常.

第 40 回日本神経科学大会, 2017 年 7 月 20 日 (千葉) ; 1P-180.

Satoru Yokawa, Takahiro Suzuki, Satoshi Inouye, Yoshikazu Inoh, Ryo Suzuki, Naohide Hirashima,

Tadahide Furuno

生物発光イメージング法を用いたグルカゴン分泌の可視化解析系の構築.
第 55 回日本生物物理学会年会, 2017 年 9 月 21 日 (熊本) ; 3Pos202.

草田 智之, 稲本 奨平, 千田 知美, 平嶋 尚英, 鈴木 亮

マスト細胞における分泌顆粒内炎症性メディエーターの不均質性に関する研究.
第 39 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 2017 年 10 月 26 日 (金沢) ; P-14.

Masahiko Tanaka, Maya Fujita, Takaki Yagi, Umi Okura, Jun'ichi Tanaka, Naohide Hirashima
Pathological and inflammatory small intestine caused by calcineurin B1 deficiency in glial cells.
The 47th Annual Meeting of the Society for Neuroscience (Neuroscience 2017), 2017 年 11 月 11 日
(Washington, DC, USA) ; 42.17.

大倉 字海, 平嶋 尚英, 田中 正彦

グリア細胞における calcineurin 欠損が小腸の変性・炎症と消化・吸収不良を引き起こす.
第 40 回日本分子生物学会年会 (ConBio 2017), 2017 年 12 月 8 日 (神戸) ; 3P-1008.

荒目 俊明, 堀江 侑季, 平嶋 尚英, 田中 正彦

Ca²⁺/カルモジュリン依存性蛋白質リン酸化酵素 II α , II β 及び IV のトリプルノックダウンが小脳プルキンエ細胞の樹状突起形成を抑制する.
第 40 回日本分子生物学会年会 (ConBio 2017), 2017 年 12 月 8 日 (神戸) ; 3P-1183.

横川 慧, 鈴木 崇弘, 井上 敏, 伊納 義和, 鈴木 亮, 金森 孝雄, 平嶋 尚英, 古野 忠秀
ビデオレート生物発光イメージング法を用いた膵島 α 細胞からのグルカゴン分泌の可視化解析.
第 40 回日本分子生物学会年会 (ConBio 2017), 2017 年 12 月 8 日 (神戸) ; 3P-1438.

大倉 字海, 平嶋 尚英, 田中 正彦

グリア細胞における calcineurin 欠損が小腸の変性・炎症と消化・吸収不良を引き起こす.
第 40 回日本分子生物学会年会 (ConBio 2017), 2017 年 12 月 9 日 (神戸) ; 4LT24-07.

【コロイド・高分子物性学分野】

(原報)

Naoko Sato, Jumpei Yamanaka, Akiko Toyotama, Tohru Okuzono
Colloidal Crystals with Low Crack Densities Formed on Polymer Hydrogel Surfaces.
Chem.Lett., **46**, 828 (2017).

野澤純, 郭素霞, 胡素梦, 豊玉彰子, 山中淳平, 小泉晴比古, 岡田純平, 宇田聡
コロイド結晶における2次元核形成過程
日本結晶成長学会誌, **44(2)**, 96-102 (2017).

Naoko Sato, Yurina Aoyama, Jumpei Yamanaka, Akiko Toyotama, Tohru Okuzono
Particle Adsorption on Hydrogel Surfaces in Aqueous Media due to van der Waals Attraction.
Sci.Rep., **7**, 6099 (2017).

J. Nozawa, S. Uda, G. Suxia, S. Hu, Akiko Toyotama, Jumpei Yamanaka, J. Okada, H. Koizumi
Two-Dimensional Nucleation on the Terrace of Colloidal Crystals with Added Polymers.
Langmuir, **33 (13)**, 3262-3269 (2017).

(総説・著書・総合論文など)

奥菌 透

序章 物理量と数学 1-3

「レファレンス物理化学」米持悦生, 近藤伸一, 山中淳平 編集, 廣川, 東京, pp.5-15 (2017)

山中淳平, 奥菌 透, 豊玉彰子

2章1節 エネルギー

「レファレンス物理化学」米持悦生, 近藤伸一, 山中淳平 編集, 廣川, 東京, pp.167-183 (2017)

奥菌 透, 山中淳平, 豊玉彰子

2章2節 自発的な変化

「レファレンス物理化学」米持悦生, 近藤伸一, 山中淳平 編集, 廣川, 東京, pp.183-202 (2017)

(学会発表)

山中淳平

人工オパール「コロイド結晶」の作成と応用

第7回化粧品開発展, 2017年1月14日(江東区).

富田友紀, 関友崇, 佐藤直子, 深谷奈央, 西川卓, 今井麻未, 須子美里, 高木美緒, 青山柚里奈, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平, 塚本勝男, 稲富裕光

時分割反射分光法によるコロイド結晶化過程の検討

第31回宇宙環境利用シンポジウム, 2017年1月17日(相模原市).

山中淳平【招待講演】

イオン性界面活性剤を用いたコロイド系の結晶化とクラスター形成

東北大学セミナー, 2017年2月28日(仙台).

豊玉彰子【招待講演】

枯渇引力系コロイドの結晶化

東北大学セミナー，2017年2月28日（仙台）。

青山柚里奈【招待講演】

東北大学セミナー，2017年2月28日（仙台）。

関友崇，奥菌透，豊玉彰子，山中淳平

不均一な濃度場中の荷電コロイドダイナミクス

日本物理学会第72回年次大会，2017年3月20日（吹田）。

山中淳平【招待講演】

コロイド結晶化に対する壁面の影響

東北大学セミナー，2017年6月5日（仙台）。

豊玉彰子【招待講演】

枯渇引力系の最近の進展

東北大学セミナー，2017年6月5日（仙台）。

Tomotaka Seki, Tohru Okuzono, Akiko Toyotama, Junpei Yamanaka

Dynamics of Charged Colloids in Inhomogeneous Concentration Fields.

10th Liquid Matter Conference, 2017年7月19日（スロベニア・リュブリャナ）。

Akiko Toyotama, Junpei Yamanaka, Tohru Okuzono

Eutectic Crystal Structures in Binary and Ternary Charged Colloids due to Depletion Attraction.

10th Liquid Matter Conference, 2017年7月19日（スロベニア・リュブリャナ）。

Tohru Okuzono, Tomotaka Seki, Akiko Toyotama, Junpei Yamanaka

A model of self-electrophoresis of isotropic colloidal particles with chemical reactions.

10th Liquid Matter Conference, 2017年7月19日（スロベニア・リュブリャナ）。

Yurina Aoyama, Akiko Toyotama, Tohru Okuzono, Junpei Yamanaka

Adsorption and Crystallization of Charged Colloids on Polymer Modified Glass Substrates.

10th Liquid Matter Conference, 2017年7月19日（スロベニア・リュブリャナ）。

Naoko Sato, Junpei Yamanaka, Akiko Toyotama, Tohru Okuzono

Particle Adsorption on Hydrogel Surfaces in Aqueous Media due to van der Waals Attraction.

International Conference on Advanced Materials 2017, 2017年8月31日（京都）。

山中淳平【招待講演】

イオン性界面活性剤の吸着を利用したコロイド分散系の秩序構造形成

第68回コロイドおよび界面化学討論会，2017年9月6日（神戸）。

西尾文貴，山中淳平，豊玉彰子，奥菌透

枯渇引力によるコロイドの構造形成に対する静電相互作用の影響

第68回コロイドおよび界面化学討論会，2017年9月8日（神戸）。

野場亮汰，山中淳平，豊玉彰子，奥菌透

荷電コロイド粒子およびその会合体の電場下での運動

第 68 回コロイドおよび界面化学討論会, 2017 年 9 月 8 日 (神戸) .

関友崇, 奥菌透, 豊玉彰子, 山中淳平
不均一な濃度場中の荷電コロイドダイナミクス

第 68 回コロイドおよび界面化学討論会, 2017 年 9 月 8 日 (神戸) .

佐藤直子, 青山柚里奈, 山中淳平, 豊玉彰子, 奥菌透
ファンデルワールス引力による水系媒体中での高分子ゲル表面への粒子吸着

第 68 回コロイドおよび界面化学討論会, 2017 年 9 月 8 日 (神戸) .

青山柚里奈, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平
高分子修飾基板上の荷電コロイド粒子の吸着と結晶化

第 68 回コロイドおよび界面化学討論会, 2017 年 9 月 8 日 (神戸) .

奥菌透, 関友崇, 豊玉彰子, 山中淳平
化学反応を伴う等方性コロイド粒子のダイナミクス

日本物理学会 2017 年秋季大会, 2017 年 9 月 21 日 (盛岡) .

山中淳平, 奥菌透, 豊玉彰子 【招待講演】

荷電コロイド系の構造形成

日本物理学会第 72 回年次大会, 2017 年 9 月 23 日 (盛岡) .

山中淳平, 豊玉彰子, 奥菌透
荷電コロイドの温度誘起結晶化

第 46 回結晶成長国内会議, 2017 年 11 月 28 日 (浜松) .

山中淳平 【招待講演】

コロイド系材料の構造形成と医薬領域への応用

第 18 回製剤機械技術シンポジウム, 2017 年 11 月 30 日 (名古屋) .

【生命分子構造学分野】

(原報)

Tatsuya Suzuki, Megumi Kajino, Saeko Yanaka, Tong Zhu, Hirokazu Yagi, Tadashi Satoh, Takumi Yamaguchi, and Koichi Kato
Conformational analysis of a high-mannose-type oligosaccharide displaying glucosyl determinant recognised by molecular chaperones using NMR-validated molecular dynamics simulation
ChemBiochem **18**, 396-401 (2017).

Takeshi Yoshimura, Akiko Hayashi, Mai Handa-Narumi, Hirokazu Yagi, Nobuhiko Ohno, Takako Koike, Yoshihide Yamaguchi, Kenji Uchimura, Kenji Kadomatsu, Jan Sedzik, Kunio Kitamura, Koichi Kato, Bruce D. Trapp, Hiroko Baba, and Kazuhiro Ikenaka
GlcNAc6ST-1 regulates sulfation of *N*-glycans and myelination in the peripheral nervous system
Sci. Rep. **7**, Article number: 42257 (2017).

Masamichi Nagae, Sushil K. Mishra, Makiko Neyazaki, Rika Oi, Akemi Ikeda, Naohiro Matsugaki, Satoko Akashi, Hiroshi Many, Mamoru Mizuno, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, Toshiya Senda, Tamao Endo, Terukazu Nogi, and Yoshiki Yamaguchi
3D structural analysis of protein *O*-mannosyl kinase, POMK, a causative gene product of dystroglycanopathy
Genes Cells **22**, 348-359 (2017).

Shogo Sawaguchi, Shweta Varshney, Mitsutaka Ogawa, Yuta Sakaidani, Hirokazu Yagi, Kyosuke Takeshita, Toyoaki Murohara, Koichi Kato, Subha Sundaram, Pamela Stanley, and Tetsuya Okajima
O-GlcNAc on NOTCH1 EGF repeats regulates ligand-induced Notch signaling and vascular development in mammals
eLife **6**, e24419 (2017).

Eiji Kurimoto, Tadashi Satoh, Yuri Ito, Eri Ishihara, Kenta Okamoto, Maho Yagi-Utsumi, Keiji Tanaka, and Koichi Kato
Crystal structure of human proteasome assembly chaperone PAC4 involved in proteasome formation
Protein Sci. **26**, 1080-1085 (2017).

Tatsuya Kato, Natsumi Kako, Kotaro Kikuta, Takatsugu Miyazaki, Sachiko Kondo, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, and Enoch Y. Park
N-Glycan modification of a recombinant protein via coexpression of human glycosyltransferases in silkworm pupae
Sci. Rep. **7**, Article number: 1409 (2017).

Gengwei Yan, Takumi Yamaguchi, Tatsuya Suzuki, Saeko Yanaka, Sota Sato, Makoto Fujita, and Koichi Kato
Hyper-assembly of self-assembled glycoclusters mediated by specific carbohydrate-carbohydrate interactions
Chem. Asian J. **12**, 968-972 (2017).

Tatsuya Kato, Kotaro Kikuta, Ayumi Kanematsu, Sachiko Kondo, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, and Enoch Y. Park
Alteration of a recombinant protein *N*-glycan structure in silkworms by partial suppression of *N*-acetylglucosaminidase gene expression

Biotechnol. Lett. **39**, 1299-1308 (2017).

Hirokazu Yagi, Hiroaki Tateno, Kyoko Hayashi, Toshimitsu Hayashi, Katsuhiko Takahashi, Jun Hirabayashi, Koichi Kato, and Masamichi Tsuboi

Lectin microarray analysis of isolated polysaccharides from *Sasa veitchii*

Biosci. Biotechnol. Biochem. **81**, 1687-1689 (2017).

Rina Yogo, Saeko Yanaka, Hirokazu Yagi, Anne Martel, Linoel Porcar, Yutaro Ueki, Rintaro Inoue, Nobuhiro Sato, Masaaki Sugiyama, and Koichi Kato

Characterization of conformational deformation-coupled interaction between immunoglobulin G1 Fc glycoprotein and a low-affinity Fc γ receptor by deuteration-assisted small-angle neutron scattering

Biochem. Biophys. Rep. **12**, 1-4 (2017).

Tadashi Satoh, Chihong Song, Tong Zhu, Takayasu Toshimori, Kazuyoshi Murata, Yugo Hayashi, Hironari Kamikubo, Takayuki Uchihashi, and Koichi Kato

Visualisation of a flexible modular structure of the ER folding-sensor enzyme UGGT

Sci. Rep. **7**, Article number: 12142 (2017).

Soichiro Kitazawa, Maho Yagi-Utsumi, Koichi Kato, and Ryo Kitahara

Interactions controlling the slow dynamic conformational motions of ubiquitin

Molecules **22**, 1414 (2017).

Saeko Yanaka, Toshio Yamazaki, Rina Yogo, Masanori Noda, Susumu Uchiyama, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato

NMR detection of semi-specific antibody interactions in serum environments

Molecules **22**, 1619 (2017).

Saeko Yanaka, Yoshitaka Moriwaki, Tsumoto Kouhei, and Kenji Sugase

Elucidation of potential sites for antibody engineering by fluctuation editing

Sci. Rep. **7**, Article number: 9597 (2017).

Yoshitake Sakae, Tadashi Satoh, Hirokazu Yagi, Saeko Yanaka, Takumi Yamaguchi, Yuya Isoda, Shigeru Iida, Yuko Okamoto, and Koichi Kato

Conformational effects of *N*-glycan core fucosylation of immunoglobulin G Fc region on its interaction with Fc γ receptor IIIa

Sci. Rep. **7**, Article number: 13780 (2017).

Toshio Takenaka, Takashi Nakamura, Saeko Yanaka, Maho Yagi-Utsumi, Mahesh S. Chandak, Kazunobu Takahashi, Subhankar Paul, Koki Makabe, Munehito Arai, Koichi Kato, and Kunihiro Kuwajima

Formation of the chaperonin complex studied by 2D NMR spectroscopy

PLOS ONE **12**, e0187022 (2017).

Toshiya Kozai, Taichiro Sekiguchi, Tadashi Satoh, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, and Takayuki Uchihashi

Two-step process for disassembly mechanism of proteasome α 7 homo-tetradecamer by α 6 revealed by high-speed atomic force microscopy

Sci. Rep. **7**, Article number: 15373 (2017).

(総説・著書・総合論文など)

Yoshiki Yamaguchi, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato
Stable isotope labeling of glycoproteins for NMR study
NMR in Glycoscience and Glycotechnology (K.Kato and T.Peters ed.), RSC Publishing (Cambridge),
pp.194-207 (2017).

Maho Yagi-Utsumi, Takumi Yamaguchi, Yoshinori Uekusa, and Koichi Kato
NMR characterization of the conformations, dynamics, and interactions of glycosphingolipids
NMR in Glycoscience and Glycotechnology (Kato, K. and Peters ed, T.),
RSC Publishing (Cambridge), pp.161-178 (2017).

矢木宏和, 加藤晃一
NMRを利用して糖タンパク質糖鎖の構造動態と相互作用を観る
医学のあゆみ, **262**, 467-473 (2017).

Hirokazu Yagi and Koichi Kato
Functional roles of glycoconjugates in the maintenance of stemness and differentiation process of neural stem cells
Glycoconjugate J. **34**, 757-763 (2017).

加藤晃一, 稲垣直之
活動報告：次世代脳プロジェクト 冬のシンポジウム
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.41, p7 (2017).

加藤晃一
硫酸化糖鎖は末梢神経の髄鞘形成を担う
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.43, p4 (2017).

谷中冴子
受賞報告
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.43, p14 (2017).

加藤晃一
最終年度を迎えるにあたって
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.44, p1 (2017).

山口拓実, 加藤晃一
業績紹介：細胞内秩序維持に関わるタンパク質品質管理機構における分子シャペロンによる糖鎖分子認識の仕組みを解明
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.44, p8 (2017).

加藤晃一
国際学会参加報告
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.44, p15 (2017).

谷中冴子, 與語理那
国際学会参加報告
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.44, p16 (2017).

山口拓実, 佐藤宗太, 加藤晃一

業績紹介：サイボーグ超分子を用いて細胞膜上糖鎖クラスターの動的相互作用機構に迫る
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.45, p3 (2017).

加藤晃一

O-GlcNAc が担う相互作用ネットワークの破綻はアダムスオリバー症候群を引き起こす
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.45, p6 (2017).

上久保裕生, 矢木真穂

活動報告

“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.46, p5-7 (2017).

加藤晃一

活動報告：第 81 回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム報告

“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.46, p8 (2017).

加藤晃一

加藤グループの柚木康弘さんと與語理那さんが第 81 回日本生化学会中部支部例会にて中部支部奨励賞を受賞

“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.46, p9 (2017).

加藤晃一, 稲垣直之

活動報告：第 69 回日本細胞生物学会大会シンポジウム

“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.47, p13 (2017).

加藤晃一

第 25 回 バイオイメージング学会学術集会を終えて

バイオイメージング, 26 巻 1 号, p5-6 (2017).

佐藤匡史, 加藤晃一, 村田和義, 上久保裕生, 内橋貴之

業績紹介：柔軟なモジュール構造をもつ小胞体フォールディングセンサー酵素 UGGT の可視化

“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.50, p1 (2017).

谷中冴子

Germany-Japan Young Scientist meeting on “Dynamic ordering of biomolecular systems for creation of integrated function”開催報告

“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.50, p5 (2017).

加藤晃一, 矢木真穂, 谷中冴子

活動報告：JAXA 宇宙飛行士の金井宣茂氏が加藤晃一研究室を来訪

“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.50, p16 (2017).

加藤晃一, 岡本祐幸

業績紹介：レプリカ交換分子動力学計算による糖タンパク質複合体上の糖鎖の 3 次元構造ダイナミクスの解析

“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.51, p2 (2017).

谷中冴子, 加藤晃一, 内山 進

業績紹介：血液環境下におかれた抗体の NMR 観測

“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.51, p3 (2017).

與語理那, 杉山正明, 加藤晃一

研究紹介：中性子小角散乱法を用いた Fc 受容体結合に伴う抗体の構造変化の解析
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.51, p5 (2017).

内橋貴之, 佐藤匡史, 加藤晃一

業績紹介：高速原子間力顕微鏡により明らかにされたプロテアソーム $\alpha 7$ ホモ 14 量体の $\alpha 6$ による 2
ステップ解体過程
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.52, p2 (2017).

(学会発表)

Saeko Yanaka, Rina Yogo, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato 【優秀ポスター賞受賞】

Characterization of antibody interactions in serum

The 5th International Symposium on Dynamical Ordering of Biomolecular Systems for Creation of
Integrated Functions 2017年1月21日(東京) ; P009.

Yasuhiro Yunoki, Masaaki Sugiyama, Hirokazu Yagi, Kentaro Ishii, Katsuaki Oyama, Lionel Porcar, Anne
Martel, Masanori Noda, Reiko Murakami, Rintaro Inoue, Nobuhiro Sato, Youjiro Oba, Kazuki Terauchi,
Susumu Uchiyama, and Koichi Kato

Structural characterization of circadian clock protein complexes by small-angle neutron scattering and native
mass spectrometry analyses

The 5th International Symposium on Dynamical Ordering of Biomolecular Systems for Creation of
Integrated Functions 2017年1月21日(東京) ; P025.

Gengwei Yan, Takumi Yamaguchi, Tatsuya Suzuki, Sota Sato, Makoto Fujita, and Koichi Kato

Conjugation of a self-assembled metal-organic complex with oligosaccharides for characterizing dynamic
interactions between glycoclusters

The 5th International Symposium on Dynamical Ordering of Biomolecular Systems for Creation of
Integrated Functions 2017年1月21日(東京) ; P029.

Yoshitake Sakae, Takumi Yamaguchi, Xiongwu Wu, Bernard R. Brooks, Koichi Kato, and Yuko Okamoto
Conformational analysis of high mannose-type oligosaccharides by self-guided langevin dynamics
simulation

The 5th International Symposium on Dynamical Ordering of Biomolecular Systems for Creation of
Integrated Functions 2017年1月21日(東京) ; P103.

Koichi Kato

Integrative approach for exploration and creation of dynamical ordering of biomolecular systems

The 5th International Symposium on Dynamical Ordering of Biomolecular Systems for Creation of
Integrated Functions 2017年1月22日(東京) ; P018.

Susumu Uchiyama, Masanori Noda, Kentaro Ishii, Hirokazu Yagi, Tadashi Satoh, and Koichi Kato
Assembly of proteasome complex analyzed by MS and AUC

The 5th International Symposium on Dynamical Ordering of Biomolecular Systems for Creation of
Integrated Functions 2017年1月22日(東京) ; P048.

Tadashi Satoh and Koichi Kato

Structural basis for determination of glycoprotein fates coupled with N-glycan processing in cells

JST-Bay Area Structural Biology Workshop and Laboratory Visit 2017年1月23日 (Stanford)

Rena Honda, Maho Yagi-Utsumi, Tadashi Satoh, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato

Identification of a passport sequence of coagulation factor recognized by ERGIC-53/MCFD2 cargo receptor complex in secretory pathway

The 7th Yonsei-IMS Joint Workshop: “Integrative approaches for investigating biomolecular structures and functions” 2017年2月4日 (金沢) ; O-2.

Yasuhiro Yunoki, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato

Structural insights into the molecular mechanisms of circadian clock protein complexes

The 7th Yonsei-IMS Joint Workshop: “Integrative approaches for investigating biomolecular structures and functions” 2017年2月4日 (金沢) ; O-4.

Arunima Sikdar, Tadashi Satoh, Maho Yagi-Utsumi, and Koichi Kato

Multiple structural architectures of archaeal homolog of proteasome-assembly chaperone

Structural insights into the molecular mechanisms of circadian clock protein complexes

The 7th Yonsei-IMS Joint Workshop: “Integrative approaches for investigating biomolecular structures and functions” 2017年2月4日 (金沢) ; O-6.

Yan Gengwei, Tatsuya Suzuki, Saeko Yanaka, Takumi Yamaguchi, and Koichi Kato

Conformational dynamics and interaction modes of Lewis X oligosaccharide and its cluster

The 7th Yonsei-IMS Joint Workshop: “Integrative approaches for investigating biomolecular structures and functions” 2017年2月4日 (金沢) ; O-8.

Koichi Kato, Maho Yagi-Utsumi, Saeko Yanaka, Tatsuya Suzuki, Hirokazu Yagi, Tadashi Satoh, and Takumi Yamaguchi 【招待講演】

NMR views of functional roles of glycoconjugates of biological and pharmaceutical interest

7th Asia Pacific NMR Symposium & 23rd Annual Meeting of NMRS-India

2017年2月18日 (Bangalore)

Tadashi Satoh, Chihong Song, Arunima Sikar, Maho Yagi-Utsumi, Kazuyoshi Murata, and Koichi Kato

Electron microscopy studies of ER glycoprotein folding sensor enzyme and archaeal homolog of proteasome assembly chaperone

The 1st ABiS Symposium “Towards the Future of Advanced Bioimaging for Life Sciences”

2017年2月19日 (岡崎)

Hirokazu Yagi 【招待講演】

Development and application of glycosylation-profiling techniques for functional glycomics in the nervous system

11th International Symposium on Cell Surface Macromolecules 2017年2月26日 (Punjab)

澤口翔伍, 小川光貴, 矢木宏和, 加藤晃一, 古川鋼一, 岡島徹也

細胞外 O-GlcNAc 修飾に関わる Eogt ノックアウトマウスの表現型解析

平成 28 年度 新学術領域「神経糖鎖生物学」最終シンポジウム 2017年3月3日 (名古屋) ; P-22.

矢木宏和

α -ジストログリカンの上のポストリン酸修飾の構造解析

平成 28 年度 新学術領域「神経糖鎖生物学」最終シンポジウム 2017年3月3日 (名古屋) ; P-30.

小財稔矢, 佐藤匡史, 矢木宏和, 内橋貴之, 加藤晃一

高速 AFM を用いたプロテアソーム $\alpha 7$ サブユニット 14 量体の $\alpha 6$ による解体機構の解明
2016 年度生物物理学会中部支部講演会 2017 年 3 月 6 日 (名古屋)

Arunima Sikdar, Chihong Song, Toshiya Kozai, Kentaro Ishii, Susumu Uchiyama, Takayuki Uchihashi,
Kazuyoshi Murata, Tadashi Satoh, Maho Yagi-Utsumi, and Koichi Kato
Multiple structural architectures of archaeal homolog of proteasome assembly chaperone, PbaA
2016 年度生物物理学会中部支部講演会 2017 年 3 月 6 日 (名古屋)

Koichi Kato 【招待講演】

Structural glycobiology by stable isotope-assisted NMR spectroscopy
Advances Isotopic Labeling Meeting for Integrated Structural Biology 2017 2017 年 3 月 7 日
(Grenoble) ; S-26.

Saeko Yanaka, Rina Yogo, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato 【オーラルプロモート】

Stable isotope labelling for NMR observation of antibody glycoproteins in serum environments
Advances Isotopic Labeling Meeting for Integrated Structural Biology 2017 2017 年 3 月 7 日
(Grenoble) ; S-27.

Saeko Yanaka, Rina Yogo, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato

Stable isotope labelling for NMR observation of antibody glycoproteins in serum environments
Advances Isotopic Labeling Meeting for Integrated Structural Biology 2017 2017 年 3 月 7 日
(Grenoble) ; P-63.

Rina Yogo, Saeko Yanaka, Hirokazu Yagi, Masaaki Sugiyama, and Koichi Kato

Stable isotope-assisted biophysical characterisation of interaction between IgG-Fc and Fc γ receptor
glycoproteins.
Advances Isotopic Labeling Meeting for Integrated Structural Biology 2017 2017 年 3 月 8 日
(Grenoble) ; P-62.

Takumi Yamaguchi 【依頼講演】

Synthesis and modifications of oligosaccharides toward understanding their functioning mechanisms
JAIST Japan-India Symposium on Materials Science 2017 2017 年 3 月 7 日 (能美)

加藤晃一 【招待講演】

タンパク質の運命決定と機能発現の分子構造ダイナミクス研究
細胞・システム作動機構の理解に向けた、生体タンパク質分子の構造と機能のダイナミクス研究の拠点形成
平成 28 年度末 シンポジウム 2017 年 3 月 13 日 (岡崎)

Gengwei Yan, Tatsuya Suzuki, Saeko Yanaka, Takumi Yamaguchi, Makoto Fujita, and Koichi Kato
NMR analyses of the dynamic structure and interactions of Lewis X oligosaccharide and its cluster
日本化学会第 97 春季年会 2017 年 3 月 16 日 (横浜) ; 1C1-03.

村上真吾, Yan Gengwei, 山口拓実

分子シミュレーションを用いたルイス X 糖鎖の構造揺らぎ探査
日本化学会第 97 春季年会 2017 年 3 月 16 日 (横浜) ; 1C1-05.

堀 由樹, Yan Gengwei, 山口拓実

糖鎖の NMR 相互作用解析のための常磁性プローブの合成
日本化学会第 97 春季年会 2017 年 3 月 16 日 (横浜) ; 1C1-06.

加藤晃一, 谷中冴子, 矢木宏和【招待講演】
バイオ医薬品への構造生物学的アプローチ
日本薬学会第137年会 2017年3月27日(仙台) ; S58-4.

矢木宏和, Chu-Wei Kuo, 尾林卓幸, 蛭川 暁, Kay-Hooi Khoo, 加藤晃一
 α -ジストログリカンのラミニン結合性糖鎖形成するポストリン酸修飾の構造解析
日本薬学会第137年会 2017年3月25日(仙台) ; 25V-am01.

與語理那, 谷中冴子, 矢木宏和, 内橋貴之, 加藤晃一
高速 AFM を用いた膜上での抗原抗体複合体形成過程の観測
日本薬学会第137年会 2017年3月26日(仙台) ; 26P-am04S.

谷中冴子, 與語理那, 矢木宏和, 加藤晃一
NMR を用いた血清中での抗体の相互作用解析
日本薬学会第137年会 2017年3月26日(仙台) ; 26P-pm09.

加藤晃一
生命分子アッセムブリーにおける分子間相互作用のダイナミクスの精密解析
第1回養王田研究室-加藤研究室合同セミナー 2017年4月21日(熱海) ; OP-1.

與語理那
中性子小角散乱法を用いた溶液中でのタンパク質相互作用に伴う抗体の構造変化の解析
第1回養王田研究室-加藤研究室合同セミナー 2017年4月21日(熱海) ; O-3.

柚木康弘
物理化学的手法による時計タンパク質複合体の構造解析
第1回養王田研究室-加藤研究室合同セミナー 2017年4月21日(熱海) ; O-4.

本田怜奈
積荷受容体複合体による糖タンパク質の効率的な輸送機構の解明
第1回養王田研究室-加藤研究室合同セミナー 2017年4月21日(熱海) ; O-5.

齋藤泰輝
フコース転移酵素による限定的な糖鎖修飾機構の解明
第1回養王田研究室-加藤研究室合同セミナー 2017年4月21日(熱海) ; O-10.

小藤加奈
クルクリンの味覚修飾発現機構の解明のための味覚受容体の大量調製の検討
第1回養王田研究室-加藤研究室合同セミナー 2017年4月21日(熱海) ; O-11.

関口太一郎
プロテアソーム α リング形成中間体の同定と構造解析
第1回養王田研究室-加藤研究室合同セミナー 2017年4月21日(熱海) ; O-12.

谷中冴子
NMR を用いた血清中での抗体の相互作用解析
第1回養王田研究室-加藤研究室合同セミナー 2017年4月21日(熱海) ; O-13.

矢木真穂
神経変性疾患関連タンパク質の多様な分子間相互作用

第 1 回養王田研究室-加藤研究室合同セミナー 2017 年 4 月 21 日 (熱海) ; O-14.

Koichi Kato 【招待講演】

Structural insights into dynamic orchestration of biomolecular systems

Frontier Bioorganization Forum 2017: Dynamical ordering and integrated functions of biomolecular systems

2017 年 4 月 24 日 (Taipei)

Maho Yagi-Utsumi, Arunima Sikdar, Tadashi Satoh and Koichi Kato 【招待講演】

Versatile structural architectures of archaeal homolog of proteasome assembly chaperone

Frontier Bioorganization Forum 2017: Dynamical ordering and integrated functions of biomolecular systems

2017 年 4 月 25 日 (Taipei)

Tadashi Satoh, Chihong Song, Tong Zhu, Takayasu Toshimori, Kazuyoshi Murata, Hironari Kamikubo, Takayuki Uchihashi, and Koichi Kato 【招待講演】

Structural insights into the ER quality control system mediated by glucose tagging

RIKEN-Max Planck Joint Research Center for Systems Chemical Biology The Sixth Symposium

2017 年 4 月 25 日 (那覇)

矢木宏和 【招待講演】

タンパク質における糖鎖修飾の生物学的機能と高次構造への影響

第 1 回名古屋市立大学若手イブニングセミナー 2017 年 4 月 26 日 (名古屋)

矢木宏和 【招待講演】

糖タンパク質における糖鎖の生物機能と高次構造への影響

第 58 回 日本生化学会中国四国支部例会 2017 年 5 月 20 日 (香川)

関口太一郎, 河村裕樹, 石井健太郎, Chihong Song, 村田和義, 栗本英治, 内山 進, 矢木宏和, 佐藤匡史, 加藤晃一

$\alpha 7$ サブユニットを起点とした α リング形成中間体の同定と構造解析

第 81 回 日本生化学会中部支部例会・シンポジウム 2017 年 5 月 20 日 (名古屋) ; P35.

齋藤泰輝, 矢木宏和, 柘植信吾, Chuwei Kuo, Kay-Hooi Khoo, 加藤晃一

FUT9 によるキャリアタンパク質特異的なフコース修飾機構の解明

第 81 回 日本生化学会中部支部例会・シンポジウム 2017 年 5 月 20 日 (名古屋) ; P58.

鈴木達哉, Gengwei Yan, 谷中冴子, 矢木宏和, 村上真吾, 山口拓実, 加藤晃一

分子動力学計算による動的構造解析を指針としたルイス X 糖鎖の化学構造改変

第 81 回 日本生化学会中部支部例会・シンポジウム 2017 年 5 月 20 日 (名古屋) ; P59.

與語理那, 谷中冴子, 矢木宏和, 杉山正明, 加藤晃一 【中部支部奨励賞】

中性子小角散乱法を用いた溶液中でのタンパク質相互作用に伴う抗体の構造変化の解析

第 81 回 日本生化学会中部支部例会・シンポジウム 2017 年 5 月 20 日 (名古屋) ; P64.

谷中冴子, 與語理那, 矢木宏和, 加藤晃一

NMR を用いた血清中における抗体の相互作用解析

第 81 回 日本生化学会中部支部例会・シンポジウム 2017 年 5 月 20 日 (名古屋) ; P65.

柚木康弘, 杉山正明, 矢木宏和, 石井健太郎, 大山克明, Lionel Porcar, Anne Martel, 野田勝紀, 村上怜子, 井上倫太郎, 佐藤伸浩, 大場洋次郎, 寺内一姫, 内山 進, 加藤晃一 【中部支部奨励賞】
物理化学的計測による時計タンパク質複合体の構造解析

第 81 回 日本生化学会中部支部例会・シンポジウム 2017 年 5 月 20 日 (名古屋) ; P82.

矢木-内海真穂【招待講演】

タンパク質の動的構造と分子集合メカニズムの理解を目指して
第 169 回 薬学談話会 2017 年 5 月 24 日 (名古屋)

加藤晃一【招待講演】

生命分子システムの動的秩序形成の探査・創生・展開 一領域内共同研究の成果を中心に—
新学術領域研究「動的秩序と機能」全体班会議 2017 年 6 月 3 日 (恩納村)

矢木宏和

アッセンブリーシャペロンが関わるプロテアソームの動的成熟過程の活写
新学術領域研究「動的構造生命」第 3 回 班会議 2017 年 6 月 7 日 (福岡)

谷中冴子

抗体の分子認識を契機とする補体系の活性化を活写する
新学術領域研究「動的構造生命」第 3 回 班会議 2017 年 6 月 7 日 (福岡)

加藤晃一【招待講演】

生体分子の集合離散が織りなす細胞機能研究の最前線
第 69 回 日本細胞生物学会大会 2017 年 6 月 13 日 (仙台) ; S4-01.

矢木宏和, 齋藤泰輝, 姫田美咲, 柘植信吾, 加藤晃一

フコース転移酵素によるキャリアタンパク質特異的な LewisX 修飾機構
第 69 回 日本細胞生物学会大会 2017 年 6 月 15 日 (仙台) ; T5-08(P2-023).

谷中冴子, 與語理那, 矢木宏和, 加藤晃一【オーラルプロモート】

NMR を用いた血清中における抗体の相互作用解析
第 17 回 日本蛋白質科学会 2017 年 6 月 21 日 (仙台) ; 2WB-06(2P-081).

石井健太郎, 杉山正明, 加藤晃一, 内山 進

超分子質量分析による蛋白質複合体の形成過程の解明
第 17 回 日本蛋白質科学会 2017 年 6 月 22 日 (仙台) ; 3WE-02.

内橋貴之, 杉山翔吾, 小財稔矢, 與語理那, 谷中冴子, 佐藤匡史, 矢木宏和, 盛 徹也, Carl Johnson, 安藤敏夫, 加藤晃一

高速原子間力顕微鏡で可視化するタンパク質の動的秩序
第 17 回 日本蛋白質科学会 2017 年 6 月 22 日 (仙台) ; 3WE-05.

矢木-内海真穂, Arunima Sikdar, 佐藤匡史, 加藤晃一

プロテアソームアッセンブリーシャペロンの古細菌ホモログ PbaA の高次構造多型
第 17 回 日本蛋白質科学会 2017 年 6 月 22 日 (仙台) ; 3p-001.

長江雅倫, Sushil K. Mishra, 根谷崎牧子, 大井里香, 池田明美, 松垣直宏, 明石知子, 萬谷 博, 弘瀬友理子, 水野真盛, 矢木宏和, 加藤晃一, 千田俊哉, 遠藤玉夫, 禾 晃和, 山口芳樹

ジトログリカノパチー原因遺伝子産物 Protein O-Mannosyl Kinase の構造解析
第 36 回 日本糖質学会 2017 年 7 月 20 日 (旭川) ; 2A-10.

鈴木達哉, Gengwei Yan, 谷中冴子, 矢木宏和, 村上真吾, 堀 由樹, 山口拓実, 加藤晃一
機能制御を指向したルイス X 糖鎖の動的立体構造解析と化学構造改変

第 36 回日本糖質学会 2017 年 7 月 21 日 (旭川) ; 3B-12.

山口拓実, ヤン ゲンエイ, 鈴木達哉, 谷中冴子, 佐藤宗太, 藤田 誠, 加藤晃一
自己組織化糖鎖クラスターを用いた糖鎖間相互作用による超分子会合体の形成
第 36 回日本糖質学会 2017 年 7 月 21 日 (旭川) ; 3B-20.

加藤晃一【招待講演】

抗体と糖鎖の NMR

NMR 共用プラットフォームシンポジウム-高磁場 NMR を核としたプラットフォームの新たな展開-
2017 年 8 月 2 日 (横浜)

加藤晃一【招待講演】

プロテアソーム分子集合の構造生物学

大阪大学蛋白質研究所セミナー・SPring-8 先端利用技術ワークショップ

SPring-8 における蛋白質構造生物学研究の現状と将来

2017 年 8 月 4 日 (吹田)

矢木宏和【招待講演】

糖タンパク質糖鎖の機能解明のための構造解析技術の開発と応用

第 1 回触発型有機化学研究会 2017 年 8 月 5 日 (名古屋)

Koichi Kato

Structural basis of quality control and trafficking of glycoproteins

24th International Symposium on Glycoconjugates (GLYCO24) 2017 年 8 月 31 日 (Jeju)

Hirokazu Yagi【招待講演】

The characterization of the laminin-binding glycans on alpha-dystroglycan catalyzed by several causative gene products of dystroglycanopathy

The 1st International Conference on the Glycobiology of Nervous System 2017 年 9 月 2 日 (Seoul)

鈴木達哉

常磁性 NMR と分子動力学計算を用いた糖鎖の動的立体構造解析と機能制御を指向した化学構造改変
第 18 回 NMR 若手研究会 2017 年 9 月 3 日 (田辺) ; PP7.

與語理那

抗体と Fc 受容体の相互作用解析

第 18 回 NMR 若手研究会 2017 年 9 月 3 日 (田辺) ; PP8.

佐藤匡史, 鈴木達哉, Gengwei Yan, 谷中冴子, 矢木宏和, 山口拓実, 加藤晃一【招待講演】

レクチンによる動的な糖鎖の認識機構

第 4 回レクチン研究会 2017 年 9 月 4 日 (東京)

Taiki Saito, Hirokazu Yagi, Shingo Tsuge, Chuwei Kuo, Kay-Hooi Khoo, and Koichi Kato【ポスター賞受賞】

Mechanisms underlying the carrier protein-specific lewis X modification catalyzed by fucosyltransferase IX

The 1st International Conference on the Glycobiology of Nervous System

2017 年 9 月 5 日 (Seoul) ; Poster N.

矢木宏和【招待講演】

糖タンパク質糖鎖の構造解析法の開発と糖鎖機能解析への応用

第2回 G-CHAIN セミナー 2017年9月8日 (岐阜)

Saeko Yanaka 【招待講演】

Integrative approach for exploration and creation of dynamical ordering of biomolecular systems
14th HORIZONS in Molecular Biology 2017年9月11-14日 (Göttingen)

Koichi Kato 【招待講演】

Structural views of fate determination of glycoproteins in cells
Seminar at Max Planck Institute for Biophysical Chemistry 2017年9月14日 (Göttingen)

Saeko Yanaka 【招待講演】

Stable isotope labeling for NMR observation of antibody glycoproteins in serum environments
Seminar at Max Planck Institute for Biophysical Chemistry 2017年9月14日 (Göttingen)

堀場早紀, 加子夏未, 宮崎剛亜, 加藤竜也, 近藤幸子, 矢木宏和, 加藤晃一, 朴 龍洙
カイコで発現させたヒトエリスロポエチンの糖転移酵素共発現による N 型糖鎖構造改変
第 69 回日本生物工学会大会 2017年9月14日 (東京) ; 4P-N228.

矢木宏和 【奨励賞受賞講演】

糖タンパク質糖鎖の機能解明のための構造生物学的アプローチ法の開発と応用
第 26 回日本バイオイメーjing学会学術集会 2017年9月16日 (八王子)

加藤晃一 【招待講演】

糖鎖の生命分子科学の探究
第 11 回分子科学討論会 2017年9月17日 (仙台) ; 3F11.

小財稔矢, 佐藤匡史, 矢木宏和, 内橋貴之, 加藤晃一

高速 AFM 観察で明らかにされた $\alpha 7$ ホモ 14 量体の $\alpha 6$ による解体過程

High-speed AFM reveals disassembly process homo-tetradecamer of proteasomal $\alpha 7$ subunit induced by interaction with $\alpha 6$ subunit

第 55 回日本生物物理学会年会 2017年9月19日 (熊本) ; 1F1408.

矢木宏和, 谷中冴子, 與語理那, 鈴木達哉, 山口拓実, 杉山正明, 加藤晃一 【招待講演】

統合的な構造生物学アプローチによる糖タンパク質および糖鎖の構造ダイナミクスの解析

Integrative structural biology approaches for understanding conformational dynamics of oligosaccharides and glycoproteins

第 55 回日本生物物理学会年会 2017年9月20日 (熊本) ; 2SCA-5.

Methanee Hiranyakorn, Saeko Yanaka, Maho Yagi-Utsumi, and Koichi Kato

NMR characterization of the substrate-binding domains of protein disulfide isomerase using paramagnetic effects

第 55 回日本生物物理学会年会 2017年9月20日 (熊本) ; 2F1419.

加藤晃一 【招待講演】

抗体を源流とする生命分子構造学の展開

静岡県立大学薬学部 第 264 回月例薬学セミナー 2017年9月22日 (静岡)

矢木宏和, 高橋禮子, 加藤晃一

糖鎖構造解析を支援する GALAXY データベース

トーゴーの日シンポジウム 2017 ~ バイオデータベース: 「作る」から「使う」へ ~

2017年10月4日(東京) ; P31.

Koichi Kato, Maho Yagi-Utsumi, Saeko Yanaka, Tatsuya Suzuki, Hirokazu Yagi, Tadashi Satoh, and Takumi Yamaguchi 【招待講演】

Structural mechanisms of carbohydrate functions

2017 Taiwan-Japan Biomedical Symposium on Magnetic Resonance 2017年10月15日 (Tainan)

Koichi Kato 【招待講演】

Dynamic ordering of biomolecular systems coupled with creation of integrated functions

The NANOTEC-IMS Joint Research Meeting 2017年10月30日 (Pathum)

Koichi Kato 【招待講演】

Dynamic ordering of biomolecular systems coupled with creation of integrated functions

CU-IMS collaborative seminar 2017年10月31日 (Bangkok)

柚木康弘, 石井健太郎, 守島健, 村上怜子, 矢木宏和, 井上倫太郎, 杉山正明, 寺内一姫, 内山進, 加藤晃一
時計タンパク質 KaiC の ATPase 活性によるタンパク質間相互作用の制御

第4回新学術領域研究「動的秩序と機能」若手研究会 2017年11月8日(四条畷) ; O-6.

齋藤泰輝, 矢木宏和, 柘植信吾, Chu-Wei Kuo, Kay-Hooi Khoo, 加藤晃一

キャリアタンパク質特異的な Lewis X 修飾メカニズムの解明

第4回新学術領域研究「動的秩序と機能」若手研究会 2017年11月8日(四条畷) ; O-7.

中根健汰, 鈴木達哉, 加藤晃一, 山口拓実

レクチン高親和性糖鎖の開発を目指した糖鎖の立体構造制御

第4回新学術領域研究「動的秩序と機能」若手研究会 2017年11月8日(四条畷) ; P-13.

與語理那, 谷中冴子, 矢木宏和, 杉山正明, 加藤晃一

抗体と Fc 受容体の相互作用解析

第4回新学術領域研究「動的秩序と機能」若手研究会 2017年11月8日(四条畷) ; P-20.

本田怜奈, 矢木真穂, 矢木宏和, 青木一洋, 加藤晃一

タンパク質の糖鎖修飾制御に関わる糖転移酵素の局在観察

第4回新学術領域研究「動的秩序と機能」若手研究会 2017年11月8日(四条畷) ; P-21.

関口太一郎, 河村裕樹, 小財稔矢, 石井健太郎, Chihong Song, 村田和義, 栗本英治, 内山進, 内橋貴之, 矢木宏和, 佐藤匡史, 加藤晃一

プロテアソームの α サブユニットから形成されるヘテロ 14 量体の構造解析

第4回新学術領域研究「動的秩序と機能」若手研究会 2017年11月8日(四条畷) ; P-22.

尾林卓幸, 矢木宏和, Chu-Wei Kuo, 蛭川 暁, Kay-Hooi Khoo, 加藤晃一

α -ジストログリカンに発現するホスホジエステル結合を有する糖鎖の構造機能解析

第14回「若手のカフォーラム」2017年11月11日(豊明) ; O-2 (B).

齋藤泰輝, 矢木宏和, Chu-Wei Kuo, Kay-Hooi Khoo, 加藤晃一

フコース転移酵素9によるキャリアタンパク質特異的なフコース修飾機構の解明

第14回「若手のカフォーラム」2017年11月11日(豊明) ; P-14.

渡辺東紀男, 山口拓実, 谷中冴子, 矢木宏和, 加藤晃一

分子シミュレーションに基づいた高マンノース型糖鎖のフォールドバック構造の解析

第 14 回「若手のカフォーラム」 2017 年 11 月 11 日（豊明） ; P-15.

Koichi Kato 【招待講演】

Isotope Labeling Approaches for Carbohydrates and Glycoproteins

第 56 回 NMR 討論会 2017 年 11 月 15 日（八王子）

谷中冴子, 山崎俊夫, 與語理那, 矢木宏和, 加藤晃一

NMR を用いた血清中での抗体の相互作用解析

第 56 回 NMR 討論会 2017 年 11 月 16 日（八王子） ; P25.

Koichi Kato 【招待講演】

Structural aspects of glycosylation as potential drug target

The 19th Symposium on Advanced Concepts in New Drug Development : 1st Ewha-NCU Joint Symposium

2017 年 11 月 16 日（Seoul）

河村裕樹, 関口太一朗, 栗本英治, 矢木宏和, 佐藤匡史, 加藤晃一

試験管内再構成系を利用したプロテアソームアッセムブリ機構の解析

日本病院薬剤師東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会 2017

2017 年 11 月 26 日（鈴鹿） ; E-4.

松村由佳, 矢木宏和, 山口芳樹, 加藤晃一 【ベストプレゼン賞】

マウスリウマチ因子 Z2 と IgG2a-Fc の相互作用解析

日本病院薬剤師東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会 2017

2017 年 11 月 26 日（鈴鹿） ; E-5.

Koichi Kato

Looking back on the research activities in Okazaki Institute for Integrative Bioscience

OIIB Final Symposium（統合バイオ終了シンポジウム） 2017 年 11 月 27 日（岡崎）

佐藤匡史, 加藤晃一 【招待講演】

糖タンパク質品質管理メカニズムの構造基盤解明

第 46 回結晶成長国内会議（JCCG-46） 2017 年 11 月 28 日（浜松） ; 28a-B04.

堀 由樹, Yan Gengwei, 山口拓実

NMR による糖鎖の相互作用解析のための常磁性プローブ合成

平成 29 年度 北陸地区講演会と研究発表会 2017 年 12 月 1 日（能美） ; H32.

澤口翔伍, 小川光貴, 矢木宏和, 加藤晃一, 岡島徹也

細胞外 O-GlcNAc の修飾に関わる EOGT 変異マウスの表現型解析

2017 年度 生命科学系学会合同年次大会（ConBio2017） 2017 年 12 月 6 日（神戸） ; 1LBA-1-1.

矢木宏和, 齋藤泰輝, 姫田美咲, 柘植信吾, 加藤晃一 【依頼講演】

フコース転移酵素のキャリアタンパク質に対する特異的な LewisX 修飾機構

2017 年度 生命科学系学会合同年次大会（ConBio2017） 2017 年 12 月 7 日（神戸） ; 2PW19-1.

加藤晃一

生命分子構造学の基礎と応用と展開

鹿児島大学大学院理工学研究科 大学院先端科学特別講義 2017 年 12 月 19 日（鹿児島）

加藤晃一 【招待講演】

抗体への挑戦から始まった生命分子構造学の新展開

鹿児島大学理学部先端科学講演会 平成 29 年度第 3 回生命化学セミナー 2017 年 12 月 19 日 (鹿児島)

矢木真穂【招待講演】

糖脂質膜上におけるタンパク質のアミロイド線維形成

第 2 回 秩序化分子ワークショップ 2017 年 12 月 26 日 (奈良)

【分子生物薬学分野】

(原報)

Ohnishi, T., *Shirane, M., and Nakayama, K. I. (*Corresponding author)
SRRM4-dependent neuron-specific alternative splicing of protrudin transcripts regulates neurite outgrowth.
Sci. Rep., 12, 709-719 (2017).

(学会発表)

白根 道子【招待講演】

神経変性疾患における小胞体の関与.

第 10 回 Neuroscience NCU meeting, 2017 年 6 月 14 日 (名古屋) .

駒田 莉奈, 長田 茂宏, 白根 道子, 今川 正良, 西塚 誠

TGF- β 1 誘導性 EMT における低分子量 G タンパク質 RhoE の役割と機能解析.

日本薬学会衛生部会, 2017 年 9 月 1 日 (仙台) .

中野 友香, 成田 沙智世, 長田 茂宏, 白根 道子, 今川 正良, 西塚 誠

Ca²⁺活性型カリウムチャネル K_{Ca}3.1 は脂肪細胞分化を抑制する.

日本薬学会衛生部会, 2017 年 9 月 1 日 (仙台) .

白根 道子【招待講演】

神経の病気の謎に迫る!

名古屋市立大学×名古屋市科学館 サイエンスパートナーシップイベント「ようこそ生命科学の世界へ」, 2017 年 9 月 2 日 (名古屋) .

白根 道子【招待講演】

神経疾患のなぞ ～狂牛病やアルツハイマー病はどのように発症する?～.

平成 29 年度市民公開講座 第 5 回 脳の健康のために知る, 2017 年 11 月 5 日 (名古屋) .

川尻 愛子, 喜多 泰之, 中山 敬一, 白根 道子

モノアミン分泌制御における protrudin と PDZD8 の相互作用の解析.

日本薬学会東海支部合同学術大会, 2017 年 11 月 26 日 (鈴鹿) .

喜多 泰之, 西山 正章, 片山 雄太, 白根 道子, 中山 敬一

自閉症関連因子 CHD8 は C/EBP β と協調して脂肪分化を制御する.

ConBio2017, 2017 年 12 月 8 日 (神戸) .

長田 茂宏, 平野 利忠, 西塚 誠, 白根 道子, 今川 正良

ヒストンアセチル化酵素 HBO1 のオートファジーにおける役割.

ConBio2017, 2017 年 12 月 6 日 (神戸) .

川尻 愛子, 喜多 泰之, 中山 敬一, 白根 道子

小胞体ネットワーク制御によるモノアミン分泌機構.

ConBio2017, 2017 年 12 月 6 日 (神戸) .

中野 友香, 成田 沙智世, 長田 茂宏, 白根 道子, 今川 正良, 西塚 誠

脂肪細胞分化における Ca²⁺活性型カリウムチャネル K_{Ca}3.1 の役割.

ConBio2017, 2017年12月6日(神戸).

【薬物送達学分野】

(原報)

Kaori Fukushige, Tatsuaki Tagami, Tetsuya Ozeki

The offset effect of a hyaluronic acid coating to cationic carriers containing siRNA: Alleviated cytotoxicity and retained gene silencing in vitro

J. Drug Deliv. Sci. Technol., **39**, 435-441(2017).

Shaimaa Ibrahim, Tatsuaki Tagami, Tetsuya Ozeki,

Effective-loading of platinum-chloroquine into PEGylated neutral and cationic liposomes as a drug delivery system for resistant malaria parasites

Biol. Pharm. Bull., **40(6)**, 815 – 823(2017).

Takehiro Noda, Tomoyuki Okuda, Kousuke Ban, Ryota Mizuno, Tatsuaki Tagami, Tetsuya Ozeki, Hirokazu Okamoto

Development of Matrix Type Intra-knee Joint Sustained Release Gel Formulation and Evaluation of Pharmacological Efficiency in Rats

Bio. Pharm. Bull., **40(6)**, 830-836(2017).

Moeko Taki, Tatsuaki Tagami and Tetsuya Ozeki

Preparation of polymer-blended quinine nanocomposite particles by spray drying and assessment of their bitterness-masking effect using a taste sensor

Drug Dev. Ind. Pharm., **43(5)**, 723-731(2017)

Akihiro Hoshikawa, Tatsuaki Tagami, Chisa Morimura, Kaori Fukushige, Tetsuya Ozeki

Ranibizumab biosimilar/polyethyleneglycol-conjugated gold nanoparticles as a novel drug delivery platform for age-related macular degeneration

J. Drug Deliv. Sci. Technol., **38**, 45-50(2017).

Motoyasu Yoshimura, Masateru Miyake, Tetsuya Kawato, Masahiko Bando, Masafumi Toda, Yusuke Kato, Toshiro Fukami, and Tetsuya Ozeki

Impact of the Dissolution Profile of the Cilostazol Cocrystal with Supersaturation on the Oral Bioavailability

Crystal Growth & Design, **17**, 550 – 557(2017).

Tatsuaki Tagami, Kaori Fukushige, Emi Ogawa, Naomi Hayashi, Tetsuya Ozeki

3D printing factors important for the fabrication of polyvinylalcohol filament-based tablets

Biol. Pharm. Bull., **40(3)**, 357-364(2017).

Tatsuaki Tagami, Yuta Ando, and Tetsuya Ozeki

Fabrication of liposomal doxorubicin exhibiting ultrasensitivity against phospholipase A2 for efficient pulmonary drug delivery to lung cancers

Int. J. Pharm., **517**, 35-41(2017).

Yusuke Tanetsugu, Tatsuaki Tagami, Takayuki Terukina, Takaya Ogawa, Masato Ohta and Tetsuya Ozeki

Development of a sustainable release system for a ranibizumab biosimilar using poly(lactic-co-glycolic acid) biodegradable polymer-based microparticles as a platform

Biol. Pharm. Bull., **40(2)**, 1-7(2017).

(総説・著書・総合論文など)

田上 辰秋, 尾関 哲也

第7章4節 PLGA 粒子を用いた DDS 技術の開発」最新 DDS 技術の先端バイオ医薬品への応用開発, 技術情報協会, pp.395-400(2017).

田上 辰秋, 尾関 哲也

医師と薬剤師が共有すべき薬の新知识/serial 19 「ナノ・マイクロ粒子の DDS 技術と臨床応用」, Organ Biology, **24(1)**:54-60(2017).

田上 辰秋, 尾関 哲也

スプレードライ法を用いた固体分散体の調製, 「難溶性薬物」の改善, 製剤化技術. Pharm Stage, **17(8)**:29-31(2017).

西山 哲矢, 尾形 哲夫, 尾関 哲也

ポリマーブレンドによる OD 錠用ラフチジン苦味マスキング顆粒の調製, 製剤機械技術学会誌, **26(4)**, 14-19(2017).

吉村 元靖, 三宅 正晃, 川戸 達矢, 坂東 政彦, 戸田 正文, 加藤 雄介, 深水 啓朗, 尾関 哲也,

Cilostazol cocrystal の溶解度と過飽和に示す溶出プロファイルが経口 Bioavailability に与える影響, 製剤機械技術学会誌, **26(4)**, 20-28(2017).

山本 昌, 岡本 浩一, 尾関 哲也 編集, 製剤学改訂第7版 南江堂, 2017 (平成 29) 年 4 月 10 日

発刊 2-4 界面現象と各種分散系 pp39-53、3-1 製剤を構成する物質、材料 pp. 97-100

(学会発表)

<国内学会>

長田 典子, 田上 辰秋, 酒井 紀人, 尾関 哲也

熱溶融積層型 3D プリンターを用いた薬物徐放・lag-time 錠剤に関する基礎検討.

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会 2017, 2017 年 11 月 26 日 (鈴鹿)

安藤 睦美, 長田 典子, 野田 剛弘, 田上 辰秋, 尾関 哲也

3D バイオプリンターを用いた圧力押し出し方式による錠剤調製

第 34 回製剤と粒子設計シンポジウム, 2017 年 10 月 26~27 日 (小倉)

柳楽 美月, 星川 晃宏, 田上 辰秋, 尾関 哲也

抗腫瘍効果を有する Curcumin 包接シクロデキストリン搭載 PEG 化金ナノ粒子の調製と in vitro における検討

第 34 回シクロデキストリンシンポジウム, 2017 年 8 月 31 日 (名古屋)

太根 将史, 田上 辰秋, 尾関 哲也

アミノ基導入シクロデキストリンを用いたリポソーム内薬物封入技術に関する検討

第 34 回シクロデキストリンシンポジウム, 2017 年 8 月 31 日 (名古屋)

林原 純季, 竹内 堂朗, 田上 辰秋, 尾関 哲也

セラノスティクスに向けた金ナノクラスタータンパクナノ粒子の調製

平成 29 年度界面特性を利用した粒子設計とプロセス開発に関するワークショップ, 2017 年 8 月 29 日

(土岐)

柳楽 美月, 星川 晃宏, 田上 辰秋, 尾関 哲也

ラニビズマブバイオシミラー搭載 PEG 金ナノ粒子の調製と血管新生阻害効果の検討
第 33 回日本 DDS 学会学術集会, 2017 年 7 月 6~7 日 (京都)

太根 将史, 布施 俊樹, 田上 辰秋, 尾関 哲也

光増感剤を利用した光刺激応答性リポソームの開発
第 33 回日本 DDS 学会学術集会, 2017 年 7 月 6~7 日 (京都)

後藤 瑛一, 森川 善以, 竹内 堂朗, 田上 辰秋, 尾関 哲也

マイクロ流路システムを利用した PLGA ナノ粒子調製と内包クルクミンの殺細胞効果
日本薬剤学会第 32 年会, 2017 年 5 月 11 日~13 日 (大宮)

<国際学会>

Masafumi Tane, Tatsuaki Tagami, Tetsuya Ozeki

Development of novel light-sensitive liposomes co-encapsulating anti-cancer drug and talaporfin sodium.
2017 AAPS Annual Meeting and Exposition, San Diego Convention Center, 12-15 November 2017 (San Diego, USA)

Eiichi Goto, Tatsuaki Tagami, Tetsuya Ozeki

Development of porous PLGA microparticles for efficient pulmonary delivery and their uptake behavior to macrophages. 2017 AAPS Annual Meeting and Exposition, San Diego Convention Center, 12-15 November 2017 (San Diego, USA)

【生薬学分野】

(原報)

Shengli Gao, Hirotaka Kushida, Toshiaki Makino

Ginsenosides, the ingredients of root of *Panax ginseng*, are not the substrates but the inhibitors of sodium-glucose transporter 1 (SGLT1)

J. Nat. Med. **71**: 131–138 (2017).

Toru Konishi, Masaaki Minami, Toshiaki Makino

Antibacterial activity of Shin'iseihaito (Xinyiqingfeitang) and its components against methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*

Pharmacogn. J. **9**: 310–314 (2017).

Masaaki Minami, Toru Konishi, Hiroshi Takase, Toshiaki Makino

Shin'iseihaito (Xinyiqingfeitang) suppresses the biofilm formation of *Streptococcus pneumoniae* *in vitro*

BioMed Res. Int. **2017**: 4775709 (2017).

Masaaki Minami, Toru Konishi, Hiroshi Takase, Zhixia Jiang, Tetsuya Arai, Toshiaki Makino

Effect of Shin'iseihaito (Xinyiqingfeitang) on acute *Streptococcus pneumoniae* murine sinusitis via macrophage activation

Evid. Based Complement. Alternat. Med. **2017**: 4293291 (2017).

Toshiaki Suzuki, Ayano Yamamoto, Masahiro Ohsawa, Yoshiharu Motoo, Hajime Mizukami, Toshiaki Makino

Effect of ninjin'yoeito and ginseng extracts on oxaliplatin-induced neuropathies in mice

J. Nat. Med. **71**: 757–764 (2017).

Masaaki Minami, Toru Konishi, Ryoko Sakakibara, Taichi Imura, Mika Watanabe, Hideo Morita, Naoto Kanemaki, Toshiaki Makino

Analysis of the relationship between clinical background factors of *Staphylococcus aureus* infection and anti-microbial effects of Shin'iseihaito against *Staphylococcus aureus* *in vitro*

Tradit. Kampo Med. **4**: 111–115 (2017).

Lei Zhou, Qiang Zhang, Wen Qi, Shuai Yan, Jialin Qu, Toshiaki Makino, Dan Yuan

Identification of metabolites in human and rat urine after oral administration of Xiao-Qing-Long-Tang (XQLT) by using ultra-performance liquid chromatography combined with quadrupole time-of-flight mass spectrometry

J. Sep. Sci. **40**: 3582–3592 (2017).

Waka Nakayama, Orawan Monthakantirat, Kazumi Fujikawa, Santi Watthana, Susumu Kitanaka, Toshiaki Makino, Kan'ichiro Ishiuchi

Phlenumdines A–C, new lycopodium alkaloids isolated from *Phlegmariurus nummularifolius*

Heterocycles **94**: 2247–2261 (2017).

矢作忠弘、石内勘一郎、渥美聡孝、三宅克典、森永 紀、伏見裕利、大山雅義、森川敏生、田中 謙、有田正規、牧野利明

歴代教科書・解説書に見られる生薬の効能に関する記載のデータベース化 (1)

日本生薬学雑誌 **71**: 1–19 (2017).

矢作忠弘、石内勘一郎、渥美聡孝、三宅克典、森永 紀、伏見裕利、大山雅義、森川敏生、田中 謙、有田正規、牧野利明
歴代教科書・解説書に見られる生薬の効能に関する記載のデータベース化（2）
日本生薬学雑誌 **71**: 20–36 (2017).

笛木司、田中耕一郎、牧野利明、松岡尚則、別府正志、岡田研吉、牧角和宏
原典版「神仙太一膏」の試作～処方中の黄丹（鉛丹）でゴマ油は樹枝状に硬化する
漢方の臨床 **64**: 453–457 (2017).

笛木司、田中耕一郎、牧野利明、松岡尚則、佐藤忠章、小池一男、頼建守、並木隆雄、千葉浩輝、別府正志、須永隆夫、岡田研吉、牧角和宏
『本草経集注』に記載された「桂」の基原を一考する
日本東洋医学雑誌 **68**: 281–290 (2017).

（総説・著書・総合論文など）

Keisuke Hagihara, Abbreviation of Kampo Formulations Group, Shuji Yakubo, Committee for Vocabulary in the Japan Society for Oriental Medicine, Takao Namiki
Abbreviation of kampo formulations and basic terminology in kampo medicine
Trad. Kampo Med. **4**: 65–88 (2017)

木村孟淳、酒井英二、牧野利明
漢方の基礎理論、全生薬の「応用」と「漢方」の項
『新訂生薬学改訂第8版』（共著、木村猛淳、酒井英二、牧野利明編）
in p. 42–44、49–252、（株）南江堂、2017、全 299 ページ

牧野利明
実は意外と知らない生薬
Credentials **100**: 13–19 (2017).

牧野利明
単味生薬の薬効標準化案作成プロジェクト
漢方の臨床 **64**: 66–67 (2017).

牧野利明
漢方処方の中での生薬の役割（上）
漢方研究 **543**: 87–92 (2017).

牧野利明
漢方処方の中での生薬の役割（下）
漢方研究 **544**: 124–131 (2017).

牧野利明
漢方薬理・最前線～十味敗毒湯
phil 漢方 **63**: 9–11 (2017).

牧野利明
漢方薬理・最前線～補中益气湯①
phil 漢方 **64**: 9–12 (2017).

牧野利明
漢方薬理・最前線～補中益気湯②
phil 漢方 **65**: 9–12 (2017).

牧野利明
漢方薬理・最前線～補中益気湯③
phil 漢方 **67**: 9–13 (2017).

小野直也、加島雅之、牧野利明、南治成、横山浩之
伝統医療振興基本法（仮称）を考える
鍼灸 OSAKA **33**: 12–15 (2017).

太田美里
黒竜江省の中医薬調査旅行記（前編）
和漢薬 **766**: 2–6 (2017).

太田美里
黒竜江省の中医薬調査旅行記（後編）
和漢薬 **767**: 24–28 (2017).

太田美里
安徽省の生薬市場・薬用植物栽培地調査旅行記①
和漢薬 **768**: 12–17 (2017).

太田美里
安徽省の生薬市場・薬用植物栽培地調査旅行記②
和漢薬 **769**: 1–4 (2017).

太田美里
安徽省の生薬市場・薬用植物栽培地調査旅行記③
和漢薬 **770**: 67–72 (2017).

太田美里
生薬学研究を通じた中国での博士研究員としての生活
ファルマシア **53**: 1010–1011 (2017).

（学会発表）

牧野 利明【シンポジスト講演】
生薬のその「効能」って本当なの？
国立遺伝学研究所医食同源シンポジウム「医食同源と生物進化」, 2017年1月20日（京都）.

牧野 利明
漢方の基礎基礎知識を学び、実際に漢方製剤を作ってみよう！
薬局漢方製剤入門2. 散剤・煎剤・坐剤（五苓散）
公立大学連携薬剤師レベルアップ研修（実習・演習コース）, 2017年1月28日（名古屋）.

牧野 利明

Terminology and drug informatics about herbal medicines (crude drugs)
Hacettepe University 特別セミナー, 2017年2月1日 (アンカラ, トルコ) .

牧野 利明
漢方の基礎基礎知識を学び、実際に漢方製剤を作ってみよう！
薬局漢方製剤入門3. 丸剤 (桂枝茯苓丸)
公立大学連携薬剤師レベルアップ研修 (実習・演習コース), 2017年2月25日 (名古屋) .

南 正明、牧野 利明
ハスカップのA群連鎖球菌に対する作用
第90回日本細菌学会総会, 2017年3月19-21日 (仙台) .

牧野 利明
生薬・漢方薬に関する医薬品情報の見方
サイエンス漢方処方研究会「The Best Case Study シンポジウム3」, 2017年3月20日 (東京) .

大野 雄也、鈴木 卓馬、廣瀬 大、北中 進、牧野 利明、石内 勘一郎
二次代謝変動株より単離した新規セスキテルペノイドの構造
日本薬学会第136年会, 2017年3月25-27日 (仙台) .

樋渡 純一、寺坂 和祥、牧野 利明
組換えLPHを用いた天然物配糖体加水分解反応特性の解析
日本薬学会第136年会, 2017年3月25-27日 (仙台) .

近藤 未来、寺坂 和祥、牧野 利明
モミジバダイオウからのアントラキノン配糖化酵素候補遺伝子のクローニング
日本薬学会第136年会, 2017年3月25-27日 (仙台) .

村口 真凜、葉 珂、石田 智滉、石内 勘一郎、牧野 利明、岸田 友紀、萩原 圭祐、安倍 知紀、二川 健
加工ブシのデキサメタゾン誘発 MuRF1 転写に対する抑制作用とその活性成分
日本薬学会第136年会, 2017年3月25-27日 (仙台) .

牧野 利明
Difference of Japanese traditional Kampo medicine and traditional Chinese medicine, and the marker compounds for quality control of crude drugs
中国薬科大学特別セミナー, 2017年3月29日 (南京, 中国) .

牧野 利明
今さら聞けない生薬・漢方薬
薬局共創未来人財育成機構講座, 2017年4月3日 (東京) .

牧野 利明
漢方の勉強の仕方
第44期東海漢方協議会入門講座, 2017年4月9日 (名古屋) .

牧野 利明
生薬と漢方
第44期東海漢方協議会入門講座, 2017年5月14日 (名古屋) .

中村 峰夫、南 正明、牧野 利明
厚真産ハスカップエキスの抗菌・免疫賦活作用
第 64 回北海道薬学大会, 2017 年 5 月 20-21 日 (札幌) .

牧野 利明、松岡 尚則【シンポジウムオーガナイザー】
現代における本草学
第 68 回日本東洋医学会学術総会, 2017 年 6 月 3 日 (名古屋) .

太田 美里【シンポジスト講演】
本草書における乾姜調製法に関する科学的研究
第 68 回日本東洋医学会学術総会, 2017 年 6 月 3 日 (名古屋) .

牧野 利明【シンポジスト講演】
単味生薬における薬効の標準化案の作成
第 68 回日本東洋医学会学術総会, 2017 年 6 月 3 日 (名古屋) .

牧野 利明【シンポジスト講演】
七物降下湯の腎性高血圧改善作用とその作用機序
第 68 回日本東洋医学会学術総会, 2017 年 6 月 3 日 (名古屋) .

Toshiaki Makino, Takashi Ito
Controlled vocabulary on Japanese Kampo crude drugs
9th Meeting of ISO/TC 249/WG5, 2017 年 6 月 5 日 (香港) .

Toshiaki Makino, Takashi Ito
Japanese Kampo formulas and the indication codes for the products
9th Meeting of ISO/TC 249/WG5, 2017 年 6 月 5 日 (香港) .

牧野 利明
今さら聞けない生薬・漢方薬
名古屋市立大学薬友会関西支部総会, 2017 年 7 月 2 日 (大阪) .

牧野 利明
生薬／漢方薬の薬能に対する科学的アプローチ
第 7 回高知和漢医薬セミナー, 2017 年 7 月 6 日 (高知) .

牧野 利明
生薬・漢方薬に関する医薬品情報の見方
京都漢方研究会第 27 期講座, 2017 年 7 月 9 日 (京都) .

牧野 利明
今さら聞けない生薬・漢方薬
瑞穂区薬剤師会研修会, 2017 年 7 月 22 日 (名古屋) .

牧野 利明
小建中湯と小建中湯飴の製造
第 19 回日本漢方交流会漢方薬剤師育成研修会, 2017 年 7 月 30 日 (名古屋) .

牧野 利明
臨床生薬学

2017年度医学生のための漢方医学セミナー, 2017年8月2日(大津)。

牧野 利明

生薬の薬能と薬理

日本薬剤師研修センター平成29年度漢方薬・生薬研修会, 2017年8月18日(東京)。

牧野 利明【受賞講演】

漢方処方の中での生薬の役割

第34回和漢医薬学会学術大会, 2017年8月26-27日(福岡)。

南 正明、牧野 利明

補中益気湯によるMRSAの薬剤感受性回復と病原毒素抑制効果

第34回和漢医薬学会学術大会, 2017年8月26-27日(福岡)。

田 川 婷、大北 剛司、石内 勘一郎、森永 紀、牧野 利明

甘草の副作用、偽アルドステロン症の真の原因物質の探索

第34回和漢医薬学会学術大会, 2017年8月26-27日(福岡)。

吉田 理人、石内 勘一郎、大澤 匡弘、牧野 利明【優秀発表賞受賞】

Paclitaxelによるマウス神経障害性疼痛に対する加工ブシの緩和作用

第34回和漢医薬学会学術大会, 2017年8月26-27日(福岡)。

近藤 未来、政田 さやか、寺坂 和祥、牧野 利明

モミジバダイオウ由来アントラキノン配糖化酵素候補遺伝子の単離と機能解析

第35回日本植物細胞分子生物学会, 2017年8月29-31日(さいたま)。

牧野 利明

漢方処方の中での生薬の役割

第28回北海道東洋医学シンポジウム, 2017年9月2-3日(千歳)。

牧野 利明

一から知りたい漢方の基礎

一宮市教育委員会生涯学習女性講座, 2017年9月5日(一宮)。

飯島 利恵、渡辺 智暉、石内 勘一郎、松本 隆志、渡辺 淳子、牧野 利明

漢方薬原料として使用される生薬エキスのOATP2B1阻害作用のスクリーニング

日本生薬学会第64回年会, 2017年9月9-10日(千葉)。

大北 剛司、石内 勘一郎、田 川 婷、森永 紀、牧野 利明

抗3MGA抗体と交差反応する新規グリチルリチン酸代謝物の構造

日本生薬学会第64回年会, 2017年9月9-10日(千葉)。

中山 和香、Orawan Monthakantirat、藤川 和美、Santi Watthana、北中 進、牧野 利明、石内 勘一郎

タイ産ヒカゲノカズラ科植物由来新規リコポジウムアルカロイドの構造

日本生薬学会第64回年会, 2017年9月9-10日(千葉)。

浅井 恒志、太田 美里、島戸 陽太、渥美 聡孝、田渕 圭章、牧野 利明

白朮と蒼朮の薬能の違いに関する研究(2) —抗炎症作用及び消化管免疫賦活作用の比較—

日本生薬学会第64回年会, 2017年9月9-10日(千葉)。

大渡 勝史、牧野 利明、森永 紀

抗ヘスペリジン抗体を用いた競合的 ELISA 法による各種柑橘果実中のヘスペリジン含量
日本生薬学会第 64 回年会, 2017 年 9 月 9-10 日 (千葉) .

石内 勘一郎、鈴木 卓馬、中山 和香、廣瀬 大、姜 文平、Orawan Monthakantirat、呉 金濱、
北中 進、牧野 利明

ヒカゲノカズラ科植物由来内生糸状菌が生産するリコポジウムアルカロイドの構造
第 59 回 天然有機化合物討論会, 2017 年 9 月 20-22 日 (札幌) .

牧野 利明

身近な薬用植物

第 50 回日本漢方交流会学術総会市民公開講座, 2017 年 10 月 8 日 (名古屋) .

Toshiaki Makino

Effect of Processed Aconite Root on neuropathic pain and its active ingredient

New Blue Ocean Strategy of Traditional Medicine, 2017 年 10 月 25 日 (台北, 台湾) .

Toshiaki Makino

Differences, terminology and drug informatics about traditional Chinese medicine and Kampo medicine

沈阳药科大学特別セミナー, 2017 年 11 月 3 日 (沈阳, 中国) .

Toshiaki Makino

Exploration for the real causal compounds of licorice-induced pseudoaldosteronism

NCU-EWHA Joint Symposium, 2017 年 11 月 16 日 (ソウル, 韓国) .

牧野 利明

医学生のための生薬学入門

大阪大学医学部特別講義, 2017 年 12 月 4 日 (大阪) .

【衛生化学分野】

(原報)

Saotomo Itoh, Takemasa Takii, Kikuo Onozaki, Tsutomu Tsuji, Shigeaki Hida.

Identification of the blood coagulation factor interacting sequences in staphylococcal superantigen-like protein 10.

Biochemical and Biophysical Research Communications, **485**, 201-208 (2017).

Toshiaki Teratani, Keigo Tomita, Takahiro Suzuki, Hirotaka Furuhashi, Rei Irie, Shigeaki Hida, Yoshikiyo Okada, Chie Kurihara, Hirotochi Ebinuma, Nobuhiro Nakamoto, Hidetsugu Saito, Toshifumi Hibi, Soichiro Miura, Ryota Hokari, Takanori Kanai.

Free cholesterol accumulation in liver sinusoidal endothelial cells exacerbates acetaminophen hepatotoxicity via TLR9 signaling.

Journal of Hepatology, **67**(4), 780-790, (2017).

Masato Kitazawa, Shigeaki Hida, Chifumi Fujii, Sun'ichiro Taniguchi, Kensuke Ito, Tomio Matsumura, Nagisa Okada, Takeshi Sakaizawa, Akira Kobayashi, Michiko Takeoka, Shin-ishi Miyagawa.

ASC Induces Apoptosis via Activation of Caspase-9 by Enhancing Gap Junction-Mediated Intercellular Communication.

PLoS One. **12**(1): (2017), e0169340. doi: 10.1371/journal.pone.0169340.

(総説・著書・総合論文など)

伊藤 佐生智

黄色ブドウ球菌の産生する免疫かく乱毒素ファミリー-staphylococcal superantigen-like proteins
生化学, **89**, 861-865 (2017)

(学会発表)

伊藤 佐生智, 肥田 重明

黄色ブドウ球菌毒素 Staphylococcal superantigen-like 10 (SSL10) の血液凝固因子との相互作用に関わる最小機能領域の同定

日本薬学会第 137 年会 2017 年 3 月 24~27 日 (仙台)

河野克洋, 伊藤佐生智, 辻勉, 肥田重明

Staphylococcal superantigen-like protein 5 の MMP-9 プロテアーゼ活性阻害領域の同定

第 29 回微生物シンポジウム 2017 年 8 月 29, 30 日 (広島)

北野 拓真, 柴田 将成, 蓮池 浩太, 瀧 伸介, 伊藤 佐生智, 肥田 重明

環境因子による好塩基球やマスト細胞の活性化制御機構

フォーラム 2017 衛生薬学・環境トキシコロジー 2017 年 9 月 1, 2 日 (仙台)

Arisa Morikawa, Saotomo Itoh, Hideki Sanjo, Shinsuke Taki, Shigeaki Hida

Innate immune cells sense *Staphylococcus aureus*-derived cysteine protease via their cell surface molecule(s) to produce proinflammatory cytokine

第 46 回日本免疫学会学術集会 2017 年 12 月 12~14 日 (仙台)

【遺伝情報学分野】

(原報)

Okamoto, A., Hosoda, N., Tanaka, A., Newnam, G.P., Chernoff, Y.O., Hoshino S.
Proteolysis suppresses spontaneous prion generation in yeast.
J Biol Chem **292** 20113-20124 (2017).

(学会発表)

星野真一：RNA 安定化および翻訳の効率化技術の開発、AMED 肝炎等克服実用化事業 B 型肝炎創薬実用化等研究事業「個別化医療に対応したゲノム編集技術による肝臓内 HBV ゲノムの完全不活性化を目指した革新的治療法の包括的開発」研究班会議、2017 年 12 月 26 日（東京国際フォーラム）

星野真一：生体機能を制御する人工 mRNA 安定化技術の開発、ワークショップ『デザイナー RNA: 人工 RNA/RNP による生命回路のコントロール』、ConBio2017 生命科学系学会合同年次大会／第 40 回日本分子生物学会／第 90 回日本生化学会大会、2017 年 12 月 7 日（神戸）オーガナイザー兼シンポジスト

細田直、福島真、名和優紀子、星野真一：脱ユビキチン化酵素 USP10 が機能する新規 mRNA ポリ A 鎖制御機構、生命科学系学会合同年次大会／第 40 回日本分子生物学会／第 90 回日本生化学会大会、2017 年 12 月 7 日（神戸）

沢崎綾一、今井駿輔、横川真梨子、細田直、星野真一、三尾和弘、三尾宗代、嶋田一夫、大澤匡範：ポリ A 上の PABP 多量体による翻訳調節メカニズムの解明、生命科学系学会合同年次大会／第 40 回日本分子生物学会／第 90 回日本生化学会大会、2017 年 12 月 7 日（神戸）

大石結香、野木森拓人、細田直、星野真一：細胞内における long non-coding RNA 医薬の安定化および遺伝子治療への応用、第 27 回日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会・平成 29 年度日本薬学会東海支部例会、2017 年 11 月 26 日（鈴鹿）

西浦久達、細田直、星野真一：UV ストレス下における mRNA の分解機構の解析、第 27 回日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会・平成 29 年度日本薬学会東海支部例会、2017 年 11 月 26 日（鈴鹿）

名和優紀子、細田直、星野真一：USP10 による脱ユビキチン化を介した mRNA ポリ A 鎖制御、第 27 回日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会・平成 29 年度日本薬学会東海支部例会、2017 年 11 月 26 日（鈴鹿）

福島真、千布高太郎、張天岳、細田直、星野真一：神経変性疾患関連因子 TDP-43 による mRNA poly(A)鎖短縮化機構、第 27 回日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会・平成 29 年度日本薬学会東海支部例会、2017 年 11 月 26 日（鈴鹿）

Fumihito Shiromoto, Hussein H Aly, Koichi Watashi, Shin-ichi Hoshino, Takanobu Kato, Kazuaki Chayama, Takaji Wakita: HBV-X and the balance between degradation or inflammation, 2017 International HBV meeting; The molecular biology of Hepatitis B viruses, 2017 年 9 月 3-7 日（アメリカ、ワシントン）

野木森拓人、西浦久達、川島生、永井貴広、細田直、今高寛晃、星野真一：RNA 品質管理因子 Dom34 は外来性 mRNA 分解を介して抗ウイルス防御において機能する、第 19 回日本 RNA 学会年

会、2017年7月19日-21日（富山）ベストプレゼンテーション優秀賞受賞

西浦久達、細田直、星野真一：UVストレス下における mRNA 品質管理機構の解明、第 63 回日本薬学会東海支部総会・大会、2017年7月8日（岐阜）学生優秀発表賞受賞

小林純果、細田直、星野真一：mRNA の安定性に関わる因子の探索、第 63 回日本薬学会東海支部総会・大会、2017年7月8日（岐阜）

志水良亮、細田直、星野真一：ストレス顆粒構成因子 Caprin1 による遺伝子発現調節機構の解明、第 63 回日本薬学会東海支部総会・大会、2017年7月8日（岐阜）

坂元健太郎、奥村真由、古舘和也、山岸良多、細田直、星野真一：RNA 結合タンパク質 LARP1 は標的 mRNA の翻訳を促進する、第 63 回日本薬学会東海支部総会・大会、2017年7月8日（岐阜）

星野真一：人工キメラ遺伝子 ZFN 安定発現系の構築：臨床応用を目的とした人工合成 mRNA 安定化剤のスクリーニング、AMED B 型肝炎創薬実用化等研究事業 2017年5月29日（東京ステーションカンファレンス）

【細胞分子薬効解析学分野】

(原報)

Matsuki K, Takemoto M, Suzuki Y, Yamamura H, Ohya S, Takeshima H, Imaizumi Y.
Ryanodine receptor type 3 does not contribute to contractions in the mouse myometrium regardless of pregnancy.

Pflügers Arch. 469(2):313-326 (2017).

Sakamoto K, Suzuki Y, Yamamura H, Ohya S, Muraki K, Imaizumi Y.

Molecular mechanisms underlying pimelic acid-induced modulation of voltage-gated K⁺ channels.

J Pharmacol Sci. 133(4):223-231 (2017).

Ogiwara K, Ohya S, Suzuki Y, Yamamura H, Imaizumi Y.

Up-Regulation of the Voltage-Gated Kv2.1 K⁺ Channel in the Renal Arterial Myocytes of Dahl Salt-Sensitive Hypertensive Rats.

Biol Pharm Bull. 40(9):1468-1474 (2017).

Suzuki Y, Tsutsumi K, Miyamoto T, Yamamura H, Imaizumi Y.

Heterodimerization of two pore domain K⁺ channel TASK1 and TALK2 in living heterologous expression systems.

PLoS One. 12(10):e0186252 (2017).

(総説・著書・総合論文など)

Yamamura H, Suzuki Y, Imaizumi Y.

Physiological roles of mitochondria and mitofusins on Ca²⁺ signaling in smooth muscles.

Nihon Yakurigaku Zasshi. 149(6):260-263 (2017).

(学会発表)

Hideto Yamamura, Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Kiyofumi Asai, Yuji Imaizumi

Hypoxic stress facilitates cell proliferation via Kir2.1 up-regulation in brain endothelial cells

Alberta-Japan Agency for Medical Research and Development (AMED) workshop for medical innovation, Feb 24-25, 2017, (Calgary); 18A.

Yoshiaki Suzuki, Susumu Ohya, Hisao Yamamura, Wayne R. Giles, Yuji Imaizumi

Involvement of calcium related ion channels in inflammatory response in chondrocyte

Alberta-Japan Agency for Medical Research and Development (AMED) workshop for medical innovation, Feb 24-25, 2017, (Calgary); 18B.

野田さゆり、鈴木良明、山村寿男、今泉祐治

気管支平滑筋細胞における BK_{Ca} チャネルγ1 サブユニットの生理機能解明

第90回日本薬理学会年会、2017年3月15日(長崎) ; 1-O-49.

山村英斗、鈴木良明、山村寿男、浅井清文、今泉祐治

脳血管内皮細胞において低酸素ストレスは、dynamins-2 を介して細胞膜上の Kir2.1 発現量を増加させ、細胞増殖の亢進に寄与している

第 90 回日本薬理学会年会、2017 年 3 月 15 日（長崎）；1-O-56.

堤香菜子、鈴木良明、山村寿男、今泉祐治【優秀発表賞】

Two-pore-domain K^+ チャネル TASK1、TALK2 の異種 2 量体形成の解明

第 90 回日本薬理学会年会、2017 年 3 月 15 日（長崎）；1-SS-47.

鈴木良明、大矢進、山村寿男、Wayne R. Giles、今泉祐治

BK チャネル α サブユニット新規スプライスバリエーション体による軟骨細胞機能の修飾

第 90 回日本薬理学会年会、2017 年 3 月 16 日（長崎）；2-NS-09.

佐伯尚紀、鈴木良明、山村寿男、竹島浩、今泉祐治

血管平滑筋細胞においてジャンクトフィリン 2 はカベオラと筋小胞体間の効率的な Ca^{2+} シグナル伝達のための Ca^{2+} マイクロドメインを構築する

第 90 回日本薬理学会年会、2017 年 3 月 16 日（長崎）；2-O-26.

川崎桂輔、鈴木良明、山村寿男、今泉祐治

改変遺伝子導入培養細胞系を用いた K_{2P} チャネル作用薬の新規高効率評価法の開発

第 90 回日本薬理学会年会、2017 年 3 月 16 日（長崎）；2-YIA-06.

山村寿男、近藤るびい、古川奈美、鈴木良明、今泉祐治

門脈圧亢進症における Ca^{2+} 活性化 Cl^- チャネル TMEM16A の発現低下

第 90 回日本薬理学会年会、2017 年 3 月 16 日（長崎）；2-YS-02-3.

山田啓史、鈴木良明、山村寿男、今泉祐治

軟骨細胞において CIC3 チャネルは低浸透圧応答に関与する

第 90 回日本薬理学会年会、2017 年 3 月 17 日（長崎）；3-O-24.

山越大槻、鈴木良明、山村寿男、今泉祐治

2 ポアドメイン K^+ チャネルによるマウス腹腔マクロファージの膜電位形成

第 90 回日本薬理学会年会、2017 年 3 月 17 日（長崎）；3-P-080.

佐伯尚紀、鈴木良明、山村寿男、竹島浩、今泉祐治

血管平滑筋 Ca^{2+} マイクロドメインを構築する複合体分子基盤のナノイメージング解析

日本薬学会年会第 137 年会、2017 年 3 月 25 日（仙台）；GS01-4.

鈴木良明、堤香菜子、宮本達也、山村寿男、今泉祐治

TASK1-TALK2 異種 2 量体形成によるチャネル機能の多様化

日本薬学会第 137 年会、2017 年 3 月 27 日（仙台）；27W-am01.

萩原由実子、山村寿男、西村歌織、鈴木良明、今泉祐治

ラット松果体細胞において Ca^{2+} 活性化 Cl^- チャネルとして機能する TMEM16A/B ヘテロ二量体

日本薬学会年会第 137 年会、2017 年 3 月 27 日（仙台）；27W-am03S.

古川奈美、山村寿男、鈴木良明、近藤るびい、今泉祐治

肝硬変門脈圧亢進症マウスの門脈平滑筋における TMEM16A の機能発現低下

日本薬学会第 137 年会、2017 年 3 月 27 日（仙台）；27W-am06.

山村寿男、川崎桂輔、稲垣奏、鈴木良明、今泉祐治

平滑筋 Ca^{2+} シグナルにおけるミトフュージン 2 の生理機能

第 94 回日本生理学会大会、2017 年 3 月 28 日（浜松）；1PS01C1-3.

佐伯尚紀、鈴木良明、山村寿男、竹島浩、今泉祐治
カベオラ-筋小胞体間のシグナル伝達を効率化させる平滑筋 Ca^{2+} マイクロドメイン機構の解明
生理研研究所オルガネラ研究会 2017「オルガネラダイナミクスの新規制御機構とその病態生理」、
2017年6月1日（岡崎）；P-6

萩原由実子、山村寿男、西村歌織、鈴木良明、今泉祐治
松果体 Ca^{2+} 活性化 Cl^- チャネルを構成する TMEM16A と TMEM16B のホモ・ヘテロ複合体の電流特性
第 131 回日本薬理学会近畿部会、2017年06月30日（名古屋）；B-14

佐伯尚紀、鈴木良明、山村寿男、竹島浩、今泉祐治【優秀発表賞】
血管平滑筋におけるカベオラと筋小胞体膜間のシグナル伝達-変換機構を効率化させる Ca^{2+} マイクロ
ドメイン基盤分子の解明
第 131 回日本薬理学会近畿部会、2017年6月30日（名古屋）；B-17

山村英斗、鈴木良明、山村寿男、浅井清文、今泉祐治
低酸素培養下における HIF-1 α -Dynamamin2-Kir2.1 シグナルは、脳血管内皮細胞の細胞増殖亢進に寄与
する。
第 131 回日本薬理学会近畿部会、2017年6月30日（名古屋）；B-18

鈴木良明、堤香菜子、宮本達也、山村寿男、今泉祐治
TASK1-TALK2 異種 2 量体形成によるチャネル特性の変化
第 131 回日本薬理学会近畿部会、2017年6月30日（名古屋）；A-22

鈴木良明、野田さゆり、山村寿男、今泉祐治
大コンダクタンス Ca^{2+} 活性化 K^+ チャネル新規修飾サブユニットによる気管支平滑筋機能の制御と気
管支病態形成への関与
公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団 第 29 回助成研究発表会、2017年7月19日（東京）；46

古川奈美、山村寿男、近藤るびい、鈴木良明、今泉祐治
門脈圧亢進症モデルマウスの門脈平滑筋における TMEM16A 発現調節機構について
第 59 回日本平滑筋学会総会、2017年8月24日（福岡）；YIA-10

佐伯尚紀、鈴木良明、山村寿男、竹島浩、今泉祐治
ジャンクトフィリン 2 とカベオラが構築する平滑筋 Ca^{2+} マイクロドメインは Ca^{2+} シグナル伝達-変換
機構を促進する
第 59 回日本平滑筋学会総会、2017年8月24日（福岡）；YIA-15

鈴木良明、野田さゆり、山村寿男、今泉祐治
大コンダクタンス Ca^{2+} 活性化 K^+ チャネル新規修飾サブユニットによる気管支平滑筋機能の制御
第 59 回日本平滑筋学会総会、2017年8月24日～25日（福岡）；P-25

山村英斗、鈴木良明、山村寿男、浅井清文、Wayne Giles、今泉祐治【優秀発表賞】
低酸素培養下脳微小血管内皮細胞の細胞増殖に対する HIF-1 α -Dynamamin2-Kir2.1 シグナルの関与
生体機能と創薬シンポジウム 2017、2017年8月24～25日（京都）；P-11

野田さゆり、鈴木良明、山村寿男、今泉祐治【優秀発表賞】
気管支平滑筋における γ サブユニットによる BK_{Ca} チャネル活性制御機構の解明
次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017、2017年8月26日（京都）；O-19

佐伯尚紀、鈴木良明、山村寿男、竹島浩、今泉祐治

血管平滑筋において細胞内 Ca^{2+} マイクロドメインの基盤を形成する分子・ジャンクトフィリン2の機能解析

生理学研究所 心血管膜輸送研究会 2017「心臓・血管系の頑健性と精緻な制御を支える分子基盤の統合的解明」、2017年10月12日（岡崎）；O-1

Hideto Yamamura, Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Kiyofumi Asai, Wayne Giles and Yuji Imaizumi

Hypoxic stress facilitates cell proliferation via dynamin2-Kir2.1 pathway in brain capillary endothelial cells.

20th International Symposium on Calcium Binding Proteins and Calcium Function in Health and Disease (CaBP20), Oct 22-26, 2017, (Awaji); P-27

Yoshiaki Suzuki

A new splice variant of large-conductance Ca^{2+} -activated K^+ (BK) channel a subunit alters human chondrocyte function.

20th International Symposium on Calcium Binding Proteins and Calcium Function in Health and Disease (CaBP20), Oct 22-26, 2017, (Awaji); P-28

Takanori Saeki, Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Hiroshi Takeshima, Yuji Imaizumi 【優秀発表賞】

Functional molecular complexes of junctophilin-2 and caveolin-1 are essential for Ca^{2+} -microdomain formation in vascular smooth muscle cells

20th International Symposium on Calcium Binding Proteins and Calcium Function in Health and Disease, Oct 22-26, 2017, (Awaji) ; P-50

Takanori Saeki, Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Hiroshi Takeshima, Yuji Imaizumi

Functional molecular complexes of junctophilin-2 and caveolin-1 are essential for Ca^{2+} -microdomain formation in vascular smooth muscle cells

20th International Symposium on Calcium Binding Proteins and Calcium Function in Health and Disease, Oct 24, 2017, (Awaji); Short Talk

神藤秀基、山村寿男、鈴木良明、今泉祐治

カーボンナノチューブ暴露による肺胞マクロファージの細胞障害

平成29年度厚生労働科学研究費補助金(化学物質リスク研究事業)「カーボンナノチューブ等の肺、胸腔及び全身臓器における有害性並びに発癌リスクの新規高効率評価手法の開発」班会議、2017年10月26日（名古屋）

前田和輝、鈴木良明、山村寿男、今泉祐治

マウス骨髄由来マクロファージ機能に対する Kir2.1 の役割

第132回日本薬理学会近畿部会、2017年11月24日(大阪)：B-17

鈴木貴久、山村寿男、安本美貴、鈴木良明、今泉祐治

脳微小血管内皮細胞における TMEM16A の機能解析

第132回日本薬理学会近畿部会、2017年11月24日(大阪)：B-21

佐伯尚紀、鈴木良明、山村寿男、竹島浩、今泉祐治

血管平滑筋の筋緊張を制御する細胞内 Ca^{2+} マイクロドメイン機構の解明

第27回日本循環薬理学会、2017年12月1日（名古屋）；B-16

佐伯尚紀、鈴木良明、山村寿男、竹島浩、今泉祐治

平滑筋 Ca^{2+} マイクロドメインにおけるジャンクトフィリンの役割の解明

筋生理の集い、2017年12月16日（東京）；I-6

【病態生化学分野】

(原報)

Himari Ogino, Arisa Hisanaga, Takao Kohno, Yuta Kondo, Kyoko Okumura, Takana Kamei, Tempei Sato, Hiroshi Asahara, Hitomo Tsuiji, Msasaki and Mitsuharu Hattori.
Secreted metalloproteinase ADAMTS-3 inactivates Reelin.
J. Neurosci. **37**, 3181-3191 (2017).

Hitomi Tsuiji, Ikuyo Inoue, Mari Takeuchi, Asako Furuya, Yuko Yamakage, Seiji Watanabe, Masato Koike, Mitsuharu Hattori, and Koji Yamanaka.
TDP-43 accelerates age-dependent degeneration of interneurons.
Sci. Rep. **7**, 14972. (2017).

(学会発表)

河野孝夫、荻野ひまり、久永有紗、近藤佑多、築地仁美、服部光治 「巨大分泌タンパク質リーリンの機能は、ADAMTS-3による特異的切断により制御される」 日本薬学会第137年会 2017年3月24日-27日 仙台

加藤路尚、宮本智美、河野孝夫、服部光治 「成体脳における、分泌タンパク質リーリンの不活性化を担うADAMTSプロテアーゼに関する解析」 日本薬学会第137年会 2017年3月24日-27日 仙台

水上智晴、周春雨、池田和貴、嶋中雄太、新井洋由、有田誠、服部光治 「脳の高次機能に重要な分泌タンパク質リーリンは脳の脂質組成制御に関与する」 脂質クオリティが解き明かす生命現象・第一回若手研究発表会 2017年5月25日-26日 理化学研究所 横浜キャンパス

石井圭介、河野孝夫、服部光治 「脳機能に必須なタンパク質リーリンの新規結合分子に関する研究」 第63回日本薬学会東海支部会 2017年7月8日 岐阜薬科大学

Himari Ogino, Takao Kohno, Michinao Kato, Eisuke Okugawa, Mitsuharu Hattori. "ADAMTS-3 Inactivates Reelin, an Important Regulator of Brain Development and Function" Gordon Research Conference, Matrix Metalloproteinase. 2017年7月9日-14日 University of New England アメリカ・メイン州ビデフォード

Takao Kohno, Hayata Yagy, Mitsuharu Hattori. "The functions of Reelin via a novel Reelin-binding protein." 第40回 日本神経科学大会 2017年7月20日-23日 幕張メッセ

Himari Ogino, Arisa Hisanaga, Takao Kohno, Eisuke Okugawa, Tomoha Ohsima, Yuta Kondo, Kyoko Okumura, Takana Kamei, Tempei Sato, Hiroshi Asahara, Hitomi Tsuiji, Masaki Fukata, Mitsuharu Hattori. "Secreted Metalloproteinase ADAMTS-3 Inactivates Reelin" 第40回 日本神経科学大会 2017年7月20日-23日 幕張メッセ

水上智晴、周春雨、池田和貴、高瀬広嗣、河野孝夫、築地仁美、嶋中雄太、新井洋由、有田誠、服部光治 「分泌タンパク質リーリンによる、新たな脂質組成制御機構」 第16回次世代を担う若手フォーラム・バイオフォーラム2017 2017年9月9日,10日 北海道大学

山影祐子、加藤路尚、荻野ひまり、石塚拓巳、河野孝夫、服部光治 「生後脳におけるリーリン特異

的分解に寄与する酵素の解明」第16回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム2017 2017年9月9日,10日 北海道大学

荻野ひまり、久永有紗、近藤佑多、河野孝夫、築地仁美、服部光治 「ADAMTS-3は大脳皮質と海馬におけるリーリン機能を負に制御する」第16回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム2017 2017年9月9日,10日 北海道大学

奥川英介、荻野ひまり、河野孝夫、服部光治「精神神経疾患の治療を志向した、分解抵抗型リーリンノックインマウスの作製と解析」第16回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム2017 2017年9月9日,10日 北海道大学

M. HATTORI, H. OGINO, E. OKUGAWA, Y. YAMAKAGE, T. KOHNO. "Regulation of Reelin function by specific proteolysis" Society for Neuroscience 2017 2017年11月11日-15日 Washington DC, USA

M. KATO, T. KOHNO, M. HATTORI. "Contribution of ADMATS family members to Reelin inactivation in the postnatal brain" Society for Neuroscience 2017 2017年11月11日-15日 Washington DC, USA

河野孝夫、服部光治「脳機能改善を目指した、巨大分泌タンパク質リーリンの活性制御 ConBio2017 2017年12月6日-9日 神戸

Tomoha Ohshima, Yuko Yamakage, Hiroyasu Akatsu, Noriyuki Matsukawa, Mitsuharu Hattori. "The effect of the decrease of Reelin function on Alzheimer's disease." ConBio2017 2017年12月6日-9日 神戸

Katsunari Korogi, Tomoharu Mizukami, Chunyu Zhou, Takao Kohno, Fumiyoshi Yamazaki, Katsuya Kabashima, Yuta Shimanaka, Kazutaka Ikeda, Hiroyuki Arai, Makoto Arita, Mitsutoshi Setou, Mitsuharu Hattori. "To clarify how Reelin affects the lipid compositions of neurons." ConBio2017 2017年12月6日-9日 神戸

【薬物動態制御学分野】

(原報)

Junji Furukawa, Katsuhisa Inoue, Kinya Ohta, Tomoya Yasujima, Yoshihisa Mimura, Hiroaki Yuasa
Role of equilibrative nucleobase transporter 1/SLC43A3 as a ganciclovir transporter in the induction of cytotoxic effect of ganciclovir in a suicide gene therapy with herpes simplex virus thymidine kinase.
J. Pharmacol. Exp. Ther., **360**, 59-68 (2017).

Akiyoshi Nakayama, Hirofumi Nakaoka, Ken Yamamoto, Masayuki Sakiyama, Amara Shaukat, Yu Toyoda, Yukinori Okada, Yoichiro Kamatani, Takahiro Nakamura, Tappei Takada, Katsuhisa Inoue, Tomoya Yasujima, Hiroaki Yuasa, Yuko Shirahama, Hiroshi Nakashima, Seiko Shimizu, Toshihide Higashino, Yusuke Kawamura, Hiraku Ogata, Makoto Kawaguchi, Yasuyuki Ohkawa, Inaho Danjoh, Atsumi Tokumasu, Keiko Ooyama, Toshimitsu Ito, Takaaki Kondo, Kenji Wakai, Blanka Stiburkova, Karel Pavelka, Lisa K Stamp, Nicola Dalbeth, Eurogout Consortium, Yutaka Sakurai, Hiroshi Suzuki, Makoto Hosoyamada, Shin Fujimori, Takashi Yokoo, Tatsuo Hosoya, Ituro Inoue, Atsushi Takahashi, Michiaki Kubo, Hiroshi Ooyama, Toru Shimizu, Kimiyoshi Ichida, Nariyoshi Shinomiya, Tony R. Merriman, Hirotaka Matsuo
GWAS of clinically-defined gout and subtypes identifies multiple susceptibility loci that include urate transporter genes.
Ann. Rheum. Dis., **76**, 869-877 (2017).

Yoshihisa Mimura, Tomoya Yasujima, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa
Functional identification of plasma membrane monoamine transporter (PMAT/SLC29A4) as an atenolol transporter sensitive to flavonoids contained in apple juice.
J. Pharm. Sci., **106**, 2592-2598 (2017).

Takahiro Yamashiro, Tomoya Yasujima, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa
Specific inhibitory effects of myricetin on human proton-coupled folate transporter: comparison with its effects on rat proton-coupled folate transporter and human riboflavin transporter 3.
Drug Metab. Pharmacokinet., **32**, 311-314 (2017).

(総説・著書・総合論文など)

Hiroaki Yuasa
Membrane transporters as targets for the development of drugs and therapeutic strategies (Current Topics): Foreword.
Biol. Pharm. Bull., **40**, 1129 (2017).

湯浅博昭
肝臓の構造, 胆汁中排泄.
「製剤学 (第7版)」, 山本 昌, 岡本浩一, 尾関哲也編, 南江堂, 東京, pp. 334-339 (2017).

湯浅博昭
その他の排泄機構.
「製剤学 (第7版)」, 山本 昌, 岡本浩一, 尾関哲也編, 南江堂, 東京, pp. 339-343 (2017).

湯浅博昭
バイオアベイラビリティ.
「製剤学 (第7版)」, 山本 昌, 岡本浩一, 尾関哲也編, 南江堂, 東京, pp. 365-367 (2017).

湯浅博昭

生物学的同等性.

「製剤学（第7版）」, 山本 昌, 岡本浩一, 尾関哲也編, 南江堂, 東京, pp. 368-369 (2017).

湯浅博昭

初回通過効果.

「製剤学（第7版）」, 山本 昌, 岡本浩一, 尾関哲也編, 南江堂, 東京, pp. 369-370 (2017).

湯浅博昭

病態時における薬物動態の変動.

「製剤学（第7版）」, 山本 昌, 岡本浩一, 尾関哲也編, 南江堂, 東京, pp. 370-385 (2017).

(学会発表)

古屋貴人, 竹原一成, 志村明日香, 岸本久直, 湯浅博昭, 白坂善之, 井上勝央

D-Luciferinを基質とするトランスポーターの探索及びbioluminescenceイメージングへの応用.

日本薬学会第137年会, 2017年3月25日 - 27日 (仙台) .

関口裕太郎, 三村佳久, 保嶋智也, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭

蛍光基質を用いた新規有機アニオントランスポーターの輸送機能解析.

日本薬学会第137年会, 2017年3月25日 - 27日 (仙台) .

三村佳久, 柘植彩花, 保嶋智也, 井上勝央, 太田欣哉, 湯浅博昭

PMATによるatenolol輸送に対するオレンジジュース成分の阻害効果の解析.

日本薬学会第137年会, 2017年3月25日 - 27日 (仙台) .

渡辺理奈, 保嶋智也, 太田欣哉, 湯浅博昭

蛍光基質利用によるOATP2B1に対するフラボノイド類の即時性作用の解析.

日本薬学会第137年会, 2017年3月25日 - 27日 (仙台) .

細馬あかね, 保嶋智也, 太田欣哉, 湯浅博昭

equilibrative nucleobase transporter 1 (ENBT1/SLC43A3) による6-mercaptopurineの細胞内取り込みの解析.

日本薬学会第137年会, 2017年3月25日 - 27日 (仙台) .

河村繁宏, 保嶋智也, 太田欣哉, 湯浅博昭

OCT2及びMATE1によるhistamine輸送の解析.

日本薬学会第137年会, 2017年3月25日 - 27日 (仙台) .

保嶋智也, 細馬あかね, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭

6-mercaptopurineのがん細胞取り込みにおけるENBT1の役割.

日本薬剤学会第32年会, 2017年5月11日 - 13日 (さいたま) .

三村佳久, 保嶋智也, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭

PMAT及びOCT1の共安定発現系MDCKII細胞でのatenololの経細胞輸送.

日本薬剤学会第32年会, 2017年5月11日 - 13日 (さいたま) .

古屋貴人, 竹原一成, 志村明日香, 岸本久直, 湯浅博昭, 白坂善之, 井上勝央

D-Luciferin トランスポーターを利用したin vivo化学発光イメージング.
日本薬剤学会第32年会, 2017年5月11日 - 13日 (さいたま) .

竹中理沙, 菱川洋輔, 古川純士, 保嶋智也, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭
ENBT1 特異的阻害剤としてのdecynium-22の特性評価.
日本薬剤学会第32年会, 2017年5月11日 - 13日 (さいたま) .

山城貴弘, 保嶋智也, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭
PCFTにおけるフラボノイド感受性に関与するアミノ酸残基の同定.
第12回トランスポーター研究会年会, 2017年7月8日 - 9日 (仙台) .

保嶋智也
核酸塩基トランスポーターと核酸代謝酵素との機能的協働を利用したHSV-TK/GCV自殺遺伝子治療.
平成29年度内外環境応答・代謝酵素研究会, 2017年9月9日 - 10日 (福岡) .

Takahiro Yamashiro, Tomoya Yasujima, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa 【優秀発表賞】
Identification of the amino acid residue responsible for the flavonoid sensitivity of human proton-coupled folate transporter.
21st North American ISSX Meeting, Sept. 24 - 28, 2017 (Providence, Rhode Island, U.S.A.).

Yoshihisa Mimura, Tomoya Yasujima, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa
Evaluation of transcellular transport of atenolol in polarized MDCKII cells stably expressing human PMAT and OCT1.
21st North American ISSX Meeting, Sept. 24 - 28, 2017 (Providence, Rhode Island, U.S.A.).

Risa Takenaka, Yosuke Hishikawa, Tomoya Yasujima, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa
Evaluation of decynium-22 as a specific inhibitor of ENBT1.
21st North American ISSX Meeting, Sept. 24 - 28, 2017 (Providence, Rhode Island, U.S.A.).

篠田裕太郎, 保嶋智也, 湯浅博昭
分化型THP-1細胞におけるプトレシン担体輸送系の機能解析.
第39回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 2017年10月26日 - 27日 (金沢) .

田嶋柊也, 河村繁宏, 佐々木 瞳, 保嶋智也, 太田欣哉, 湯浅博昭
ヒスタミンの腎排泄に関わるトランスポーターの機能解析.
第39回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 2017年10月26日 - 27日 (金沢) .

菱川洋輔, 保嶋智也, 湯浅博昭
小腸における担体介在性ATP輸送機構の解析.
第39回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 2017年10月26日 - 27日 (金沢) .

保嶋智也, 古川純士, 細馬あかね, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭
核酸塩基類縁医薬品の生体膜透過過程におけるENBT1の役割.
第39回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 2017年10月26日 - 27日 (金沢) .

鈴木香帆, 太田欣哉, 保嶋智也, 壁谷知樹, 岩尾岳洋, 松永民秀, 湯浅博昭
ヒトiPS細胞由来腸管上皮細胞モデルにおけるPCFT及びASBTの機能の比較検討.
第32回日本薬物動態学会年会, 2017年11月29日 - 12月1日 (東京) .

菱川洋輔, 湯浅博昭, 保嶋智也

Caco-2細胞における担体介在性ATP輸送機構の機能的特性解析.
第32回日本薬物動態学会年会, 2017年11月29日 - 12月1日 (東京) .

篠田裕太郎, 保嶋智也, 湯浅博昭
分化型THP-1細胞におけるポリアミン担体輸送系の機能解析.
第32回日本薬物動態学会年会, 2017年11月29日 - 12月1日 (東京) .

井上勝央, 湯浅博昭【招待講演】
核酸塩基と核酸塩基類似体の細胞内集積における促進拡散輸送と細胞内代謝の協奏的效果.
第32回日本薬物動態学会年会, 2017年11月29日 - 12月1日 (東京) .

Takahiro Yamashiro
Molecular characteristics of human proton-coupled folate transporter involved in its sustained inhibition by flavonoids.
APSTJ Global Education Seminar 2017-3rd, Dec. 22, 2017 (Nagoya).

【病態解析学分野】

(原報)

Inagaki Y, Kubota E, Mori Y, Aoyama M, Kataoka H, Johnston RN, Joh T.

Anti-tumor efficacy of oncolytic reovirus against gastrointestinal stromal tumor cells.

Oncotarget, **8**, 115632-115646. (2017)

Yamamoto G, Taura K, Iwaisako K, Asagiri M, Ito S, Koyama Y, Tanabe K, Iguchi K, Satoh M, Nishio T, Okuda Y, Ikeno Y, Yoshino K, Seo S, Hatano E, Uemoto S.

Pancreatic Stellate Cells Have Distinct Characteristics From Hepatic Stellate Cells and Are Not the Unique Origin of Collagen-Producing Cells in the Pancreas.

Pancreas. **46**, 1141-1151 (2017)

Sarashina-Kida H, Negishi H, Nishio J, Suda W, Nakajima Y, Yasui-Kato M, Iwaisako K, Kang S, Endo N, Yanai H, Asagiri M, Kida H, Hattori M, Kumanogoh A, Taniguchi T.

Gallbladder-derived surfactant protein D regulates gut commensal bacteria for maintaining intestinal homeostasis.

Proc Natl Acad Sci USA., **114**, 10178-10183 (2017)

Sanagawa A, Ogasawara M, Kusahara Y, Yasumoto M, Iwaki S, Fujii S.

Investigation into Differences in Level of Knowledge about Hypertension between High School Students and Elderly People.

Yakugaku Zasshi, **137**, 783-789 (2017)

Nishio T, Taura K, Iwaisako K, Koyama Y, Tanabe K, Yamamoto G, Okuda Y, Ikeno Y, Yoshino K, Kasai Y, Okuno M, Seo S, Sakurai T, Asagiri M, Hatano E, Uemoto S.

Hepatic vagus nerve regulates Kupffer cell activation via $\alpha 7$ nicotinic acetylcholine receptor in nonalcoholic steatohepatitis.

J Gastroenterol. **52**, 965-976 (2017)

Ohmae S, Noma N, Toyomoto M, Shinohara M, Takeiri M, Fuji H, Takemoto K, Iwaisako K, Fujita T, Takeda N, Kawatani M, Aoyama M, Hagiwara M, Ishihama Y, Asagiri M.

Actin-binding protein coronin 1A controls osteoclastic bone resorption by regulating lysosomal secretion of cathepsin K.

Sci Rep., **7**, 41710 (2017)

Tamura T, Aoyama M, Ukai S, Kakita H, Sobue K, Asai K.

Neuroprotective erythropoietin attenuates microglial activation, including morphological changes, phagocytosis, and cytokine production.

Brain Res., **1662**, 65-74 (2017)

(学会発表)

朝霧 成挙

骨・関節破壊メカニズムの探究と薬物標的

第173回薬学談話会、名古屋市立大学薬学部、2017. 9. 29.

鳥内 皐暉、田村 哲也、青山 峰芳、垣田 博樹、祖父江 和哉、浅井 清文

神経保護因子エリスロポエチンがミクログリアの活性化に与える影響
第 60 回日本神経化学学会大会、仙台国際センター、仙台、2017. 9. 7-9.

大塚 勇斗、後藤 洋、関谷 健夫、朝霧 成挙、宮澤 健、青山 峰芳
CXCR4+CD45- Cells Enhance Osteoclastogenesis via the SDF-1, CXCL7, and CX3CL1 Signaling Pathways.
第 35 回日本骨代謝学会学術集会、ホテル日航福岡、福岡、2017. 7. 27-29.

鳥内 皐暉、田村 哲也、青山 峰芳、垣田 博樹、祖父江 和哉、浅井 清文
神経保護に働くエリスロポエチンはミクログリアの活性を沈静化する
第 40 回日本神経科学大会、幕張メッセ、千葉、2017. 7. 20-23.

大塚 勇斗、後藤 洋、関谷 健夫、朝霧 成挙、岩城 壮一郎、宮澤 健、後藤 滋巳、浅井 清文、青山 峰芳
破骨細胞形成のための微小環境を構成する CXCR4+CD45-細胞は、SDF-1、CXCL7 および CX3CL1 シグナルを介して破骨細胞を巨大化する。
第 131 回日本薬理学会近畿支部会、ウインクあいち、名古屋、2017.6.30.

朝霧 成挙
骨・関節破壊メカニズムの新理解と治療標的の探索
第 90 回分子研セミナー、名古屋市立大学分子医学研究所、2017. 6. 19.

Ikuta K, Waguri-Nagaya Y, Kawaguchi Y, Tatematsu N, Kobayashi M, Goto H, Nozaki M, Aoyama M, Asai K, Otsuka T.
The inhibitory effects of tacrolimus on gliostatin production in RA synoviocytes.
Annual European Congress of Rheumatology (EULAR2017), IFEMA's Convention and Congress Centres (Madrid, Spain), 2017. 6. 14-17.

朝霧 成挙
骨を守る：硬組織・関節疾患の病態と治療
公立大学連携薬剤師生涯学習講座、名古屋市立大学薬学部、2017. 5. 24.

Iwaisako K, Zhao X, Asagiri M, Kawamoto H and Uermoto S.
Reconstruction of the hepatic artery in mouse liver transplantation.
2017 Keystone Symposia Conference C8: Injury, Inflammation and Fibrosis, (Snowbird, USA), 2017. 3. 26-30.

【細胞情報学分野】

(原報)

Ken-ichi Nakashima, Takumi Ogiwara, Takao Hirai, Toshiyuki Tanaka, Hiroko Murata, Kouichi Kaburagi, Yoshiaki Fujii-Kuriyama, Hidetoshi Hayashi, Makoto Inoue
Gerontoxanthone B from *Maclura cochinchinensis* var. *gerontogea* exhibits anti-inflammatory potential as an aryl hydrocarbon receptor agonist.
Bioorg. Med. Chem., **25(16)**, 4253-4258 (2017). doi: 10.1016/j.bmc.2017.05.

Yasumichi Inoue, Shiori Kawachi, Tsubasa Ohkubo, Mai Nagasaka, Shogo Ito, Keishi Fukuura, Yuka Itoh, Nobumichi Ohoka, Daisuke Morishita, Hidetoshi Hayashi
The CDK inhibitor p21 is a novel target gene of ATF4 and contributes to cell survival under ER stress.
FEBS Lett., **591(21)**, 3682-3691 (2017). doi: 10.1002/1873-3468.12869.

(学会発表)

井上靖道, 佐藤晃一, 伊藤友香, 駒田雅之, 林 秀敏
USP28はsnailの脱ユビキチン化酵素としてがんの浸潤に寄与する
日本薬学会第137年会. 2017年3月25日(横浜) ; 25W-pm06.

川崎文寛, 隅田ちひろ, 田中孝仁, 井上靖道, 伊藤友香, 林 秀敏
上皮間葉転換(EMT)関連転写因子Sox4の分解制御
日本薬学会第137年会. 2017年3月27日(横浜) ; 27V-pm16.

長坂真衣, 橋本亮子, 伊藤友香, 石内勘一郎, 牧野利明, 水上 元, 井上靖道, 林 秀敏
がん抑制遺伝子p53再活性化作用を持つ化合物の同定とその作用機序の解析
第81回日本生化学会中部支部例会. 2017年5月20日(名古屋) ; P01.

鈴木千晶, 井上靖道, 三田村佳奈, 伊藤友香, 林 秀敏
転写共役因子TAZによるp53活性制御機構の解析
第81回日本生化学会中部支部例会. 2017年5月20日(名古屋) ; P02.

田中孝仁, 西尾愛梨紗, 井上靖道, 隅田ちひろ, 伊藤友香, 林 秀敏
Lox12によるTGF- β 誘導性上皮間葉転換制御の解析
第81回日本生化学会中部支部例会. 2017年5月20日(名古屋) ; P03.

福浦啓史, 井上靖道, 永尾優始, 伊藤友香, 林 秀敏
メチルトランスフェラーゼSET8のTGF- β 応答性転写調節における作用機構
第81回日本生化学会中部支部例会. 2017年5月20日(名古屋) ; P04.

徳川宗成, 伊藤友香, 石内勘一郎, 牧野利明, 水上 元, 井上靖道, 林 秀敏
小胞体ストレス抑制作用をもつマンマー産植物由来抽出液の生理活性成分の同定とその作用機構の解明
第81回日本生化学会中部支部例会. 2017年5月20日(名古屋) ; P40.

長坂真衣, 橋本亮子, 伊藤友香, 石内勘一郎, 牧野利明, 松野倫代, 水上 元, 井上靖道, 林 秀敏
がん抑制遺伝子p53再活性化作用を持つ化合物の同定とその作用機序の解析
第63回日本薬学会東海支部大会. 2017年7月8日(岐阜) ; B12.

Hidetoshi Hayashi, Yasumichi Inoue, Nobumichi Ohoka
CDKI p21 is a novel target gene of ATF4 and contributes to cell survival under endoplasmic reticulum stress.

第76回日本癌学会学術総会. 2017年9月30日(横浜); E-3018.

Hidetoshi Hayashi

TGF- β induces p53/Smads complex formation in the *PAI-1* promoter to activate transcription.

The 19th Symposium on Advanced Concepts in New Drug Development, 1st Ewha-NCU Joint Symposium.
2017年11月16日 (Seoul, Korea) .

田中仁美, 佐藤晃一, 伊藤友香, 井上靖道, 林秀敏 **【ベストプレゼン賞】**

脱ユビキチン化によるSnailのがん浸潤への寄与

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海部支部 合同学術大会 2017. 2017年11月26日(鈴鹿); C-14.

加藤一雲, 山田莉香子, 伊藤友香, 井上靖道, 林秀敏

TGF- β によるCARを介したグルクロン酸転移酵素UGT1A1の発現制御

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海部支部 合同学術大会 2017. 2017年11月26日(鈴鹿); D-16.

鈴木千晶, 三田村佳奈, 伊藤友香, 井上靖道, 林秀敏

転写共役因子TAZによるp53活性制御機構の解析

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海部支部 合同学術大会 2017. 2017年11月26日(鈴鹿); F-3.

徳川宗成, 伊藤友香, 石内勘一郎, 牧野利明, 松野倫代, 水上元, 井上靖道, 林秀敏

小胞体ストレスを軽減する新規化合物の同定とその作用機構の解明

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海部支部 合同学術大会 2017. 2017年11月26日(鈴鹿); L-2.

橋本亮子, 長坂真衣, 伊藤友香, 石内勘一郎, 牧野利明, 松野倫代, 水上元, 井上靖道, 林秀敏

【ベストプレゼン賞】

がん抑制遺伝子p53再活性化作用を持つ化合物の同定とその作用機序の解析

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海部支部 合同学術大会 2017. 2017年11月26日(鈴鹿); L-3.

Hidetoshi Hayashi, Shiori Kawachi, Tsubasa Ohkubo, Shogo Itoh, Yuka Itoh, Yasumichi Inoue

Cyclin-dependent kinase inhibitor p21 is a novel target gene of ATF4 and contributes to cell survival under endoplasmic reticulum stress.

2017年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017, 第40回日本分子生物学会年会・第90回日本生化学会大会). 2017年12月7日(神戸); 2LBA-033.

【神経薬理学分野】

(原報)

Keisuke Miyamoto, Kazuhiko Kume, Masahiro Ohsawa
Role of microglia in mechanical allodynia in the anterior cingulate cortex.
Journal of Pharmacological Science, Elsevier, 134, 158-165(2017)

Suzuki T, Yamamoto A, Ohsawa M, Motoo Y, Mizukami H, Makino T
Effect of ninjin'yoeito and ginseng extracts on oxaliplatin-induced neuropathies in mice.
J Nat Med, 71, 757-764 (2017)

Tomita, J., Ban, G., Kume, K.
Genes and neural circuits for sleep of the fruit fly.
Neurosci. Res., 118, 82-91(2017)

Hasegawa, T., Tomita, J., Hashimoto, R., Ueno, T., Kume, S., Kume, K.
Sweetness induces sleep through gustatory signalling independent of nutritional value in a starved fruit fly.
Sci. Rep., 7, 14355(2017)

(総説・著書・総合論文など)

中川寛之, 富田 淳, 桑 和彦
睡眠制御機構研究の最先端と今後の展望
脳神経外科速報, 27, 163-169, 2017 (2017).

(学会発表)

大澤匡弘, 宮本啓補, 桑和彦
神経障害性疼痛における帯状回皮質ミクログリアの役割
第 131 回近畿部会, 2017 年 6 月 30 日 (名古屋)

宮本啓補, 石倉啓一郎, 桑和彦, 大澤匡弘
ニューロンへの乳酸輸送を介した、神経障害時の痛覚過敏発現に対する脊髄後角アストロサイトの関与
第 131 回近畿部会, 2017 年 6 月 30 日 (名古屋)

大森翔太, 高岸良典, 上岡万莉, 辻諒佑, 北尾優花, 桑和彦, 笠原二郎, 大澤匡弘
反復社会的敗北ストレスによる痛覚閾値の低下に対する帯状回皮質ノルアドレナリン神経系の役割
第 131 回近畿部会, 2017 年 6 月 30 日 (名古屋)

稲波千尋, 谷平大樹, 菊田里美, 桑和彦, 小山内実, 大澤匡弘
ホルマリン投与による炎症性疼痛反応時のマウス脳活動解析
第 63 回日本薬学会東海支部総会・大会, 2017 年 7 月 9 日 (岐阜)

大澤匡弘, 大森翔太, 高岸良典, 上岡万莉, 辻諒佑, 北尾優花, 桑和彦, 笠原二郎
Role of anterior cingulate cortical noradrenergic systems on the lowered mechanical nociceptive threshold in the repeated social defeat stress model of mice.

第 21 回活性アミンに関するワークショップ, 2017 年 8 月 25 日 (京都)

糸和彦

ショウジョウバエ *Sik3* 遺伝子の機能解析

第 10 回分子高次機能研究会, 2017 年 9 月 4 日 (山形)

富田 淳、坂 豪祐、糸 和彦

睡眠-覚醒を制御する中心複合体ニューロンの解析

第 10 回分子高次機能研究会, 2017 年 9 月 4 日 (山形)

山口 翔, 富田 淳, 糸 和彦

甘味による睡眠制御機構-Multibem activity monitor の活用-

第 10 回分子高次機能研究会, 2017 年 9 月 4 日 (山形)

高天翔, 中 嵩晃一郎

ショウジョウバエへ放射線における影響の解析-

第 10 回分子高次機能研究会, 2017 年 9 月 4 日 (山形)

稲波千尋, 谷平大樹, 菊田里美, 糸和彦, 小山内実, 大澤匡弘

ホルマリン投与による疼痛反応時のマウス脳活動解析

先端モデル動物支援プラットフォーム若手支援技術講習会, 2017 年 9 月 7 日 (長野)

大澤匡弘【吉田優秀賞】, 大森翔太、糸和彦

痛み認知の無意識下の脳活動による調節

生理研研究会 2017 認知神経科学の先端「意識の脳内メカニズム」, 2017 年 9 月 25 日 (名古屋)

宮本啓補, 澤田雅人, 澤本和延, 糸和彦, 大澤匡弘

神経障害性疼痛時の成体海馬ニューロン新生低下を誘導する神経回路の解析

第 26 回海馬と高次脳機能学会, 2017 年 9 月 30 日 (名古屋)

Kazuhiko Kume, Shin Nakane, Hiroyuki Nakagawa, Riho Kobayashi, Jun Tomita, Hiromasa Funato, Masashi Yanagisawa

Drosophila *Sik3* gene, a homologue of mouse Sleepy1, functions in clock neurons

CSHL Meeting Neurobiology of *Drosophila*, 3/10/2017 (New York, The U.S.A.)

Jun Tomita, Gosuke Ban, Kazuhiko Kume

Identification of sleep-regulating central complex neurons in *Drosophila*

CSHL Meeting Neurobiology of *Drosophila*, 3/10/2017 (New York, The U.S.A.)

坂豪祐, 富田 淳, 糸 和彦

ショウジョウバエの中心複合体の神経回路による睡眠-覚醒制御

第 24 回日本時間生物学会学術大会, 2017 年 10 月 27 日 (京都)

長尾柚香, 林里花, 池上あずさ, 糸 和彦

PSG データを用いた睡眠単位長の解析

第 24 回日本時間生物学会学術大会, 2017 年 10 月 27 日 (京都)

山口翔, 長谷川達也, 富田淳, 糸和彦

Regulation of sleep by *dilp* in *Drosophila melanogaster*

第 24 回日本時間生物学会学術大会, 2017 年 10 月 27 日 (京都)

小林里帆【優秀ポスター賞】, 中根伸, 中川寛之, 富田淳, 船戸弘正, 柳沢正史, 糸和彦
Sik3 による睡眠量、概日リズムの調節
第 24 回日本時間生物学会学術大会, 2017 年 10 月 27 日 (京都)

Keisuke Miyamoto, Kei-ichiro Ishikura, Kazuhiko Kume, Masahiro Ohsawa
Activated astrocyte sensitize the nociceptive transmission through the release of L-Lactate
Neuroscience 2017, 14/11/2017, Washington, DC, The U.S.A.

丸岡純也, 石倉啓一郎, 加藤慎也, 糸和彦, 大澤匡弘
糖尿病マウスの認知機能障害におけるアストロサイトの関与
第 132 回日本薬理学会近畿部会, 2017 年 11 月 24 日 (大阪)

丸岡純也, 志田恭子, 石倉啓一郎, 糸和彦, 祖父江和哉, 大澤匡弘
TSOD マウスにおける痛み閾値の変化と TRPV1 の関与
日本病院薬剤師会東海ブロック日本薬学会東海支部合同学術大会 2017, 2017 年 11 月 26 日 (三重)

中川寛之, 前原 志穂里, 富田 淳, 太田 広人, 糸和彦
Functional analysis of novel octopamine receptor in *Drosophila*
平成 29 年度生命科学系学会合同年次大会, 2017 年 12 月 6 日 (神戸)

小林里帆, 中根伸, 中川寛之, 富田淳, 船戸弘正, 柳沢正史, 糸和彦
Function of Sik3, *Drosophila melanogaster* homolog of Sleepy1 in clock neurons
平成 29 年度生命科学系学会合同年次大会, 2017 年 12 月 6 日 (神戸)

宮本啓補, 石倉啓一郎, 糸和彦, 大澤匡弘
脊髄後角の反応性アストロサイトによる L-乳酸を介した痛覚感作
生理学研究所研究会「痛みを中心とする有害状況適応の神経戦略バイオロジー」, 2017 年 12 月 14 日
(岡崎)

大森翔太, 高岸良典, 上岡万莉, 辻諒佑, 北尾優花, 糸和彦, 笠原二郎, 大澤匡弘
反復社会的敗北ストレスによる痛覚閾値の低下に対する帯状回皮質ノルアドレナリン神経系の役割
生理学研究所研究会「痛みを中心とする有害状況適応の神経戦略バイオロジー」, 2017 年 12 月 14 日
(岡崎)

石倉啓一郎, 稲波千尋, 糸和彦, 大澤匡弘
脊髄アストロサイトの機能変化に着眼した神経障害性疼痛発症機序の解明
生理学研究所研究会「痛みを中心とする有害状況適応の神経戦略バイオロジー」, 2017 年 12 月 14 日
(岡崎)

Riho Kobayashi, Shin Nakane, Hiroyuki Nakagawa, Jun Tomita, Hiromasa Funato, Masashi Yanagisawa,
Kazuhiko Kume
Sik3 Functions in PDF neurons
The 6th IIIS Symposium, 2017 年 12 月 14 日 (東京)

宮本啓補, 石倉啓一郎, 糸和彦, 大澤匡弘
新しい in vivo マイクロダイアリシス法を用いた、マウス脊髄後角アストロサイト選択的活性化時における細胞外 L-乳酸量のモニタリング
第 28 回マイクロダイアリシス研究会, 2017 年 12 月 6 日 (神戸)

【医薬品安全性評価学分野】

(原報)

齋藤嘉朗、宇山佳明、佐井君江、頭金正博
国際共同治験の現状と東アジア治験の推進のための民族差研究
レギュラトリーサイエンス学会誌 7(1), 61-69 (2017).

Hiromi Hagiwara, Rhohei Nishikawa, Kazuki Fukuzawa, Masahiro Tohkin
The survey of the compliance situation to the antihypertensive therapy guideline by analyzing Japanese national claims data.
YAKUGAKU ZASSHI 137(7), 893-901 (2017).

頭金正博
薬学部におけるレギュラトリーサイエンス教育の現状
薬学雑誌 137(4), 453-457 (2017)

Yuka Ito, Kaori Ambe, Mayu Kobayashi, Masairo Tohkin
Ethnic Difference in the Pharmacodynamics-efficacy Relationship of Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitors Between Japanese and non-Japanese Patients: A Systematic Review.
Clin Pharmacol Ther. 102(4), 701-708 (2017).

Takahiko Aoyama, Yoshimasa Ishida, Masato Kaneko, Aoi Miyamoto, Yoshiro Saito, Masahiro Tohkin, Shinichi Kawai, Yoshiaki Matsumoto
Pharmacokinetics and Pharmacodynamics of Meloxicam in East Asian Populations: The Role of Ethnicity on Drug Response.
CPT Pharmacometrics Syst Pharmacol. 6(12), 823-832 (2017).

(学会発表)

Masahiro Tohkin,
East Asian regional clinical trial plays the important role in the new drug development
ソウル・北里シンポジウム 2017年2月11日 (東京)

Hideto Okamoto, Makoto Osabe, Makoto Hirasawa, Masahiro Tohkin
The evaluation of lapatinib induced hepatotoxicity using an *in vitro* evaluation system for HLA-DRB1*07:01
56th Annual Meeting and ToxExpo of Society of Toxicology 2017年3月12日～16日 (Baltimore, USA)

頭金正博【招待講演】
バイオマーカーを用いる臨床試験デザイン
第5回CBI個別化医療 2017年6月23日 (岐阜)

安部賀央里, 頭金正博【招待講演】
QSARアプローチによる機械学習法を用いた反復投与毒性予測手法の開発
第44回日本毒性学会学術年会 2017年7月10日～12日 (横浜)

岡本秀人, 長部誠, 頭金正博
LapatinibによるT細胞分化因子への影響及びその誘導機構の解析

第 44 回日本毒性学会学術年会 2017 年 7 月 10 日～12 日（横浜）

Masahiro Tohkin

Newer -omics techniques: Focus on the usefulness of genomics and metabolomics study

77th FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2017 年 9 月 10～14 日（ソウル）

坂部彩, 安部賀央里, 頭金正博

食器や食品の包装容器に由来する化学物質間の生殖発生毒性の比較

第 3 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム 2017 年 9 月 16 日（東京）

平石千紘, 長部誠, 田村花梨, 頭金正博

HLA-B*57:01 を介したアバカビルによる特異体質性副作用 *in vitro* 評価系の構築

第 3 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム 2017 年 9 月 16 日（東京）

森田孝洋, 竹内美晴, 山本麗奈, 福澤和輝, 河渕真治, 伊藤由佳子, 頭金正博, 栄田敏之

SGLT2 阻害薬 tofogliflozin と皮膚障害の関係に関する医薬品副作用データベースの解析および基礎的研究

第 6 回日本くすりと糖尿病学会学術集会 2017 年 9 月 17,18 日（東京）

丹羽義勝, 竹内美晴, 山本麗奈, 福澤和輝, 河渕真治, 伊藤由佳子, 頭金正博, 栄田敏之

SGLT2 阻害薬 ipragliflozin の皮膚障害に関する医薬品副作用データベースの解析および基礎的研究

第 6 回日本くすりと糖尿病学会学術集会 2017 年 9 月 17,18 日（東京）

Tatsuya Ochibe, Kaori Ambe, Masahiro Tohkin

In silico models for predicting repeated dose toxicity using machine learning

CBI 学会 2017 大会 2017 年 10 月 3 日（船堀）

松井克樹, 竹内美晴, 山本麗奈, 福澤和輝, 早瀬稔起, 河渕真治, 伊藤由佳子, 頭金正博, 栄田敏之

SGLT2 阻害剤 ipragliflozin の皮膚障害に関する研究 – 医薬品副作用データベース JADER の解析とラット皮膚組織移行性 –

第 67 回 日本薬学会近畿支部総会・大会 2017 年 10 月 14 日（神戸）

森村美月, 竹内美晴, 山本麗奈, 福澤和輝, 早瀬稔起, 河渕真治, 伊藤由佳子, 頭金正博, 栄田敏之

SGLT2 阻害薬 luseogliflozin と皮膚障害の関係に関する研究 – 医薬品副作用データベース JADER の解析とラット皮膚組織移行性 –

第 67 回 日本薬学会近畿支部総会・大会 2017 年 10 月 14 日（神戸）

池田貢, 頭金正博

Possible causes of failing to meet oncology primary endpoints: systematic review of randomized controlled phase 3 clinical trials in patients with non-small-cell lung cancer

第 14 回 DIA 日本年会 2017 年 11 月 12 日～14 日（東京）

頭金正博【招待講演】

国際共同試験を実施するうえでの有効性と安全性における民族差

第 14 回 DIA 日本年会 2017 年 11 月 12 日～14 日（東京）

三沢あずさ, 堀雄史, 川上純一, 木村通男, 頭金正博

病院情報システムの医療情報を用いた抗凝固薬による出血リスクの検討

日本薬学会東海支部合同学術大会 2017 年 11 月 26 日（鈴鹿）

岡本秀人, 長部誠, 頭金正博
Lapatinib による T 細胞分化誘導機構の解析
日本薬学会東海支部合同学術大会 2017 年 11 月 26 日 (鈴鹿)

Hiroshi Tomiyoshi, Makoto Osabe, Masahiro Tohkin
ABCBI genetic polymorphism influences the efflux function of P-glycoprotein.
日本薬物動態学会第 32 回年会 2017 年 11 月 29 日~12 月 1 日 (船堀)

斎藤嘉朗, 平塚真弘, 頭金正博
革新的医薬品等実用化促進事業について
日本薬物動態学会第 32 回年会 2017 年 11 月 29 日~12 月 1 日 (船堀)

武藤樹也, 福澤和輝, 西川良平, 頭金正博
大規模副作用データベースを用いた DPP-4 阻害薬の心血管イベントリスクの評価
第 38 回臨床薬理学会学術総会 2017 年 12 月 7~9 日 (横浜)

小林牧由, 伊藤友香, 早瀬稔起, 安部賀央里, 頭金正博
DPP-4 阻害薬と SGLT2 阻害薬における有効性の民族差に関する研究
第 38 回臨床薬理学会学術総会 2017 年 12 月 7~9 日 (横浜)

頭金正博【招待講演】
抗糖尿病薬の薬剤応答性における民族差
第 38 回臨床薬理学会学術総会 2017 年 12 月 7~9 日 (横浜)

頭金正博【招待講演】
レギュラトリーサイエンス研究の最前線：バイオマーカーを利用した分子標的薬の有効性・安全性の
効率的評価法の確立
第 24 回臨床薬理学講習会 2017 年 12 月 10 日 (横浜)

【病院薬学分野】

(原報)

Kataoka T, Hotta Y, Maeda Y, Kimura K.

Testosterone deficiency causes endothelial dysfunction via elevation of asymmetric dimethylarginine (ADMA) and oxidative stress in castrated rats

J Sex Med. 14:1540-1548. 2017

Yamamoto S, Hotta Y, Maeda K, Kataoka T, Maeda Y, Hamakawa T, Shibata Y, Sasaki S, Ugawa S, Yasui T, Kimura K.

High salt loading induces urinary storage dysfunction via upregulation of epithelial sodium channel alpha in the bladder epithelium in Dahl salt-sensitive rats

J Pharmacol Sci. 135(3):121-125. 2017

Hirabayashi A, Kato D, Tomita Y, Iguchi M, Yamada K, Kouyama Y, Morioka H, Tetsuka N, Yagi T.

Risk factors for and role of OprD protein in increasing minimal inhibitory concentrations of carbapenems in clinical isolates of *Pseudomonas aeruginosa*.

J Med Microbiol. 66(11):1562-1572. 2017

Banno H, Kimura K, Tanaka Y, Sekizuka T, Kuroda M, Jin W, Wachino JI, Yamada K, Shibayama K, Arakawa Y.

Analysis of multidrug resistant group B streptococci with reduced penicillin susceptibility forming small, less hemolytic colonies.

PLoS One. 12(8):e0183453. 2017

Naiki T, Etani T, Naiki-Ito A, Fujii K, Ando R, Iida K, Nagai T, Sugiyama Y, Nakagawa M, Kawai N, Yasui T.

Metastatic urothelial carcinoma with glandular differentiation that confirmed the response by autopsy specimen to second-line mFOLFOX6 (fluorouracil, oxaliplatin, and leucovorin) plus bevacizumab chemotherapy

Case Rep Oncol. 10:1057-1064. 2017

Kondo M, Hotta Y, Ando R, Yasui T, Kimura K.

The impact of a solitary kidney on tolerability to gemcitabine plus cisplatin chemotherapy in urothelial carcinoma patients: a retrospective study

Cancer Chemother Pharmacol. 79(5):995-100. 2017

Sugiyama Y, Naiki T, Kondo M, Iida K, Kondo Y, Tasaki Y, Kataoka T, Hotta A, Yasui T, Kimura K.

Syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone caused by carboplatin after switching from cisplatin in a metastatic urethral cancer patient

Urol Case Rep. 1(12):17-19. 2017

Okuno H, Ieda N, Hotta Y, Kawaguchi M, Kimura K, Nakagawa H.

A yellowish-green-light-controllable nitric oxide donor based on N-nitrosoaminophenol applicable for photocontrolled vasodilation

Org Biomol Chem. 15(13):2791-2796. 2017

Takanashi K, Dan K, Kanzaki S, Hasegawa H, Watanabe K, Ogawa K.

Hochuekkito, a Japanese herbal medicine, restores metabolic homeostasis between mitochondrial and

glycolytic pathways impaired by influenza A virus infection

Pharmacology. 99(5-6):240-49. 2017

Takanashi K, Dan K, Kanzaki S, Hasegawa H, Watanabe K, Ogawa K.

The preventive effect of the traditional Japanese herbal medicine, Hochuekkito, against influenza A virus via autophagy in vitro

Pharmacology. 99(3-4):99-105. 2017

Akiyama T, Shibata T, Yoshinaga H, Kuhara T, Nakajima Y, Kato T, Maeda Y, Ohse M, Oka M, Kageyama M, Kobayashi K.

A Japanese case of β -ureidopropionase deficiency with dysmorphic features

Brain Dev. 39 (1) 58-61. 2017

Taniguchi R, Kimura K, Miyazaki A, Banno H, Jin W, Yamada K, Wachino JI, Arakawa Y.

High rate of slowly-killed-by-ampicillin phenotype among group B streptococci with reduced penicillin susceptibility.

J Antimicrob Chemother. 72(3):941-942. 2017

Gotoh K, Nakajima Y, Tajima G, Watanabe Y, Hotta Y, Kataoka T, Kawade Y, Sugiyama N, Ito T, Kimura K, Maeda Y.

Determination of methylmalonyl coenzyme A by ultra high-performance liquid chromatography tandem mass spectrometry for measuring propionyl coenzyme A carboxylase activity in patients with propionic acidemia

J. Chromatogr. B. 1046, 195-199. 2017

真川 明将, 小笠原 美沙, 草原 ゆり, 安本 美貴, 岩城 壮一郎, 藤井 聡
高校生と高齢者の高血圧の知識の差に関する実態調査

Investigation into Differences in Level of Knowledge about Hypertension between High School Students and Elderly People.

YAKUGAKU ZASSHI 137(6), 783-789. 2017

(総説・著書・総合論文など)

Hotta Y, Kimura K.

The Influence of Diet, Supplements, and Environmental Stressors on Erectile function.

Bioenvironmental Issues Affecting Men's Reproductive and Sexual Health. Chapter 31. 495-501. 2017

田崎慶彦、勝島啓佑、木村和哲、近藤 豊

がん幹細胞とエピゲノム制御

日本臨床. 75, 137-143. 2017

田代雄祐、黒田純子、木村和哲

抗がん剤の安全な取り扱いと曝露対策～薬剤師の立場から～

PHARMSTAGE 17, 67-70. 2017

堀田祐志

妊娠高血圧腎症における VEGF 受容体の重要性

ファルマシア 53(4), 363. 2017

木村和哲
論壇〈ポリファーマシーに思う〉
週刊薬事新報. No.3017. 5-6.2017

(学会発表)

Kataoka T, Hotta Y, Maeda Y, Kimura K
The anti-cancer agent vincristine decreases erectile function in rats
19th Congress of the European Society for Sexual Medicine. 2017年2月2-4日(Nice, France)

富田なつみ、堀田祐志、内木綾、片岡智哉、前田康博、高橋智、木村和哲
Chronic treatment of tadalafil prevents renal damage and hypertension induced by high salt intake
第90回日本薬理学会年会 2017年3月15-17日(長崎)

片岡智哉、堀田祐志、前田康博、川出義浩、木村和哲
オキサリプラチン投与がラットの勃起機能に及ぼす影響
日本薬学会第137年会 2017年3月26-28日(仙台)

富田なつみ、堀田祐志、内木綾、片岡智哉、前田康博、高橋智、木村和哲
食塩感受性腎障害モデルにおけるPDE5阻害薬の有効性
日本薬学会第137年会 2017年3月26-28日(仙台)

井口祐美子、奥苑朱加、青木有希、近藤祐樹、田代雄祐、竹本将士、鬼頭典子、成瀬久美、黒田純子、木村和哲
外来化学療法室における抗がん剤の曝露調査
- 看護師を対象とした尿サンプルの解析 -
日本薬学会第137年会 2017年3月26-28日(仙台)

Kimura K
Novel Approach for Arteriogenic and Endocrinergic ED 【招請講演】
Annual Meeting of KSSMA 2017. 2017年4月2-3日(Seoul, Korea)

和知野千春、鈴木道雄、岡本千晴、伊奈研次
最近4年間のカンジダ血症治療の現状-抗菌薬適正支援チーム(AST)による抗真菌薬適正使用支援に向けて- 【シンポジウム】
第65回日本化学療法学会 第91回感染症学会 合同総会 2017年4月4-6日(東京)

木村和哲
アンドロロジー研究最前線 - 基礎と臨床の架け橋 - 【教育講演】
第105回日本泌尿器科学会総会 2017年4月21-24日(鹿児島)

正木彩子、石田高司、前田康博、齋田昂佑、藤井香那、坂本祐真、榊原健夫、滝野寿、村瀬貴幸、稲垣宏
ホジキンリンパ腫におけるトリプトファン代謝の臨床的意義
第106回日本病理学会総会 2017年4月27-29日(東京)

片岡智哉、木村和哲
男性性機能に関する基礎薬学研究 【シンポジウム】
第11回日本緩和医療薬学会年会 2017年6月2-4日(札幌)

川出義浩

外来化学療法室でのがん患者の性機能を支援する試み【シンポジウム】
第11回日本緩和医療薬学会年会 2017年6月2-4日（札幌）

外海友規、杉山洋介、長谷川貴昭、大手万理子、奥苑朱加、木村和哲
悪性腸腰筋症候群による疼痛にタペンタドールへのオピオイドスイッチングが有効であった1例
第11回日本緩和医療薬学会年会 2017年6月2-4日（札幌）

杉山洋介、坂本宣弘、外海友規、片岡智哉、田崎慶彦、近藤祐樹、佐藤範子、明智龍男、木村和哲
神経障害性疼痛に対するタペンタドール塩酸塩錠の有効性に関する後方視的検討
第11回日本緩和医療薬学会年会 2017年6月2-4日（札幌）

和知野千春、鈴木道雄、岡本千晴、伊奈研次
最近5年間のカンジダ血症治療の現状
第5回東名古屋感染セミナー2017年6月3日（名古屋）

Masaki A, Ishida T, Maeda Y, Narita T, Ito A, Suzuki S, Ri M, Kusumoto S, Komatsu H, Choi I, Suehiro Y, Inagaki H, Ueda R, Iida S
Prognostic significance of tryptophan catabolism in newly diagnosed Hodgkin lymphoma
14th International Conference on Malignant Lymphoma (14-ICML). 2017年6月14-17日(Lugano, Switzerland)

鈴木純、片岡智哉、堀田祐志、前田康博、川出義浩、木村和哲
オキサリプラチンによる勃起障害に対する牛車腎気丸の効果
日本性機能学会第27回中部総会 2017年6月17日（兵庫）

森泰毅、堀田祐志、前田康博、片岡智哉、木村和哲
水浸ストレスモデルを用いたストレス由来のED発症メカニズムの解明（第2報）
～Rho-kinaseに着目した検討～
日本性機能学会第27回中部総会 2017年6月17日（兵庫）

片岡智哉、堀田祐志、前田康博、木村和哲
テストステロン低下による血管内皮機能障害発症に及ぼすマイクロRNAを介した炎症性サイトカインの影響
- 去勢によるEDモデルラットを用いた分子薬理学的検討 -
日本アンドロロジー学会第36回学術大会 2017年6月30日-7月1日（岡山）

真川明将、近藤勝弘、堀田祐志、片岡智哉、前田康博、川出義浩、小松弘和、頭金正博、木村和哲
医療データベースを利用した多発性骨髄腫における腫瘍崩壊症候群リスク因子の探索
医療薬学フォーラム 2017/第25回クリニカルファーマシーシンポジウム 2017年7月1日（鹿児島）

黒田純子、近藤祐樹、竹本将士、朝岡みなみ、近藤直人、遠山竜也、木村和哲
dose dense AC療法におけるニューモシスチス肺炎の予測
第25回日本乳癌学会学術総会 2017年7月13-15日（福岡）

後藤佳奈、前田康博、戸川泰子、小山典久、幸脇正典、堀田祐志、片岡智哉、木村和哲
シベスタットを投与した極低出生体重児のアシルカルニチン変動
第2回日本医用マススペクトル学会西部会 2017年7月22日（京都）

高木三千代、中島健一、木村和哲、井上誠【優秀演題賞】
褐色脂肪様細胞 beige 脂肪細胞への分化促進活性を有する天然物の探索
第 20 回天然薬物研究方法論アカデミー研究集会 2017 年 8 月 19 日 (東京)

森泰毅、堀田祐志、前田康博、片岡智哉、川出義浩、木村和哲
ストレスは陰茎海綿体平滑筋の Rho キナーゼ経路の亢進を介して勃起障害を引き起こす
第 59 回 日本平滑筋学会総会 2017 年 8 月 23-25 日 (福岡)

中村大学、堀田祐志、片岡智哉、前田康博、川出義浩、木村和哲
小児ラットのフルクトース過剰摂取による ED 発症と陰茎海綿体中の NADPH oxidase 発現の変化
第 59 回 日本平滑筋学会総会 2017 年 8 月 23-25 日 (福岡)

高木三千代、中島健一、平居貴生、木村和哲、井上誠
褐色脂肪様細胞 beige 脂肪細胞への分化促進活性を有する天然物の作用機序に関する研究
第 34 回和漢医薬学会学術大会 2017 年 8 月 25 日 (福岡)

Ito T, Nakajima Y, Maeda Y, Sakai Y, Gotoh K, Suzuki T, Kurahashi H, Yoshikawa T
Severity and variety of management in 5 patients with methylmalonyl-CoA mutase deficiency
13th International congress of inborn errors of metabolism (ICIEM). 2017 年 9 月 5-8 日 (Rio De Janeiro, Brazil)

Maeda K , Hotta Y , Kataoka T , Maeda Y , Hamakawa T , Sasaki S , Yasui T , Kimura K
The relationship between kynurenine pathway in bladder and hemorrhagic cystitis induced by cyclophosphamide
International Continence Society 47th Annual Meeting. 2017 年 9 月 12-15 日 (Florence, Italy)

Hotta Y, Yamamoto S, Maeda K, Kataoka T, Maeda Y, Hamakawa T, Shibata Y, Sasaki S, Ugawa S, Yasui T, Kimura K
High salt loading induces urinary storage dysfunction via upregulation of epithelial sodium channel-alpha in Dahl salt-sensitive rats
International Continence Society 47th Annual Meeting. 2017 年 9 月 12-15 日 (Florence, Italy)

Hotta Y, Takahashi S, Tokoro M, Kataoka T, Maeda Y, Hamakawa T, Sasaki S, Yasui T, Kimura K
Chronic DPP-4 inhibition improved bladder dysfunction and hemodynamics in rats with ligation of internal iliac arteries
International Continence Society 47th Annual Meeting. 2017 年 9 月 12-15 日 (Florence, Italy)

Kataoka T, Hotta Y, Maeda Y, Kimura K
Anti-cancer agent, oxaliplatin, shortens voiding function and weakens detrusor muscle contraction in rats
International Continence Society 47th Annual Meeting. 2017 年 9 月 12-15 日 (Florence, Italy)

後藤佳奈、前田康博、中島葉子、伊藤哲哉、但馬剛、堀田祐志、片岡智哉、木村和哲
プロピオン酸血症とメチルマロン酸血症の酵素活性と臨床症状との関連
第 42 回日本医用マススペクトル学会年会 2017 年 9 月 14-15 日 (東京)

堀田祐志
薬学の立場から新たな ED 治療薬の開発を目指して【シンポジウム】
日本性機能学会第 28 回学術総会 2017 年 9 月 21-23 日 (東京)

片岡智哉、堀田祐志、前田康博、木村和哲
テストステロン低下によるマイクロ RNA 発現変動がラットの海綿体内皮機能に及ぼす影響
日本性機能学会第 28 回学術総会 2017 年 9 月 21-23 日（東京）

浅野岳人、片岡智哉、岸本大輝、堀田祐志、前田康博、川出義浩、金山博臣、木村和哲
Dahl salt-sensitive ラットにおける陰茎海綿体のミネラルコルチコイド受容体を介した内皮機能障害
の検討【優秀演題賞】
日本性機能学会第 28 回学術総会 2017 年 9 月 21-23 日（東京）

中村大学、堀田祐志、片岡智哉、前田康博、川出義浩、木村和哲
「フルクトース過剰摂取による ED 発症のメカニズムの解明
ー ラット陰茎海綿体組織の線維化に着目した検討 ー
日本性機能学会第 28 回学術総会 2017 年 9 月 21-23 日（東京）

片岡智哉、堀田祐志、前田康博、木村和哲
オキサリプラチン投与がラットの排尿筋収縮力に及ぼす影響
第 24 回 日本排尿機能学会 2017 年 9 月 28-30 日（東京）

前田琴美、堀田祐志、片岡智哉、前田康博、川出義浩、濱川隆、安井孝周、木村和哲
シクロホスファミド由来の出血性膀胱炎とキヌレニン経路の関係
第 24 回 日本排尿機能学会 2017 年 9 月 28-30 日（東京）

片岡智哉
テストステロンの作用機序解明と新規治療への応用を目指して【招請講演】
第 174 回薬学談話会 2017 年 10 月 10 日（名古屋）

前田康博、後藤佳奈、中島葉子、但馬剛、堀田祐志、片岡智哉、木村和哲、伊藤哲哉
プロピオン酸血症におけるプロピオニル-CoA カルボキシラーゼ活性と重症度の関連
第 59 回日本先天代謝異常学会総会 2017 年 10 月 13-14 日（埼玉）

濱田悠介、澁谷与扶、近藤秀仁、岸本加奈子、前田康博、難波範行、酒井規夫
新生児マススクリーニングを契機に診断した無症候性メチルマロン酸血症の一例
第 59 回日本先天代謝異常学会総会 2017 年 10 月 13-14 日（埼玉）

杉山洋介、内木拓、田崎慶彦、近藤祐樹、片岡智哉、飯田啓太郎、安藤亮介、安井孝周、木村和哲
がん化学療法に伴う低ナトリウム血症の発現状況の後方視的調査【ワークショップ】
第 55 回日本癌治療学会学術集会 2017 年 10 月 20-22 日（横浜）

黒田純子、楠本茂、片岡智美、日比聡、中根茂喜、町支優和、竹本将士、木全司、室圭、木村和哲
HBs 抗原陰性固形癌患者における HBV 再活性化の臨床的特徴：多施設共同後方視的観察研究【シンポジウム】
第 55 回 日本癌治療学会学術集会 2017 年 10 月 20-22 日（横浜）

奥苑朱加、西川隆太郎、大手万理子、千田智子、間瀬聖子、近藤勝弘、加藤亜紀、荒川敦志、杉浦真弓、木村和哲
卵巣癌に対するパクリタキセル投与中に両眼性の嚢胞様黄斑浮腫を認めた 1 例
第 55 回日本癌治療学会学術集会 2017 年 10 月 20-22 日（横浜）

近藤勝弘、堀田祐志、真川明将、黒田純子、小松弘和、飯田真介、木村和哲

多発性骨髄腫におけるボルテゾミブの腫瘍崩壊症候群発症リスクに関する後方視的研究
第 55 回日本癌治療学会学術集会 2017 年 10 月 20-22 日 (横浜)

正木彩子、石田高司、前田康博、伊藤旭、戸谷治仁、成田朋子、鈴木進、李政樹、楠本茂、小松弘和、崔日承、末廣陽子、稲垣宏、上田龍三、飯田真介

Prognostic significance of tryptophan catabolism in newly diagnosed Follicular lymphoma
第 79 回日本血液学会学術集会 2017 年 10 月 20-22 日 (東京)

鈴木道雄、和知野千春、岡本千晴、竹尾俊希、加藤真生、服部典子、徳永博秀、森田誠、長谷川真司

二次診療病院小児科における 5 年間の入院静注抗菌薬、外来経口抗菌薬使用量調査
第 49 回日本小児感染症学会 2017 年 10 月 21-22 日 (金沢)

Tomita N, Hotta Y, Naiki A, Kataoka T, Maeda Y, Takahashi S, Kimura K

Chronic treatment with tadalafil prevented renal dysfunction and hypertension caused by high salt intake and preserved serum SDF-1 α levels in Dahl salt-sensitive rats

American society of nephrology, Kidney Week 2017. 2017 年 10 月 31 日-11 月 5 日(New Orleans, USA)

Kondo M, Hotta Y, Ando R, Yasui T, Kimura K

Renal safety of cisplatin-based chemotherapy in urothelial carcinoma patients

American society of nephrology, Kidney Week 2017. 2017 年 10 月 31 日-11 月 5 日(New Orleans, USA)

浅野岳人、片岡智哉、岸本大輝、堀田祐志、前田康博、川出義浩、金山博臣、木村和哲
高血圧を伴う勃起障害に対するエプレレノンの影響—食塩感受性高血圧モデルラットを用いた検討—

第 27 回医療薬学会年会 2017 年 11 月 3-5 日 (千葉)

中川佳子、竹本将士、鬼頭典子、伊豆田美晴、手崎世織、田代雄祐、森川琢也、青木有希、奥苑朱加、井口祐美子、黒田純子、木村和哲

ニボルマブの免疫関連有害事象に関する後方視的調査

第 27 回医療薬学会年会 2017 年 11 月 3-5 日 (千葉)

田代雄祐、黒田純子、松田日出三、太田秀基、河田健司、室圭、木村和哲

外来化学療法室の多施設共同抗がん剤曝露調査～がん診療連携拠点病院 7 施設における検討～

第 27 回医療薬学会年会 2017 年 11 月 3-5 日 (千葉)

早川智章、真川明将、木寺絵美、早川英子、近藤勝弘、江崎哲夫、木村和哲

ベキサロテン(タルグレチン®)による高トリグリセリド血症に関する後方視的研究

第 27 回医療薬学会年会 2017 年 11 月 3-5 日 (千葉)

真川明将

がん化学療法における HBV 再活性化対策と薬剤師の取り組み

第 2 回愛知県病院薬剤師会 感染制御部会 学術講演会 2017 年 11 月 11 日 (名古屋)

中村宗一郎

地区薬剤師会とともに立ち上げた吸入指導ネットワークの取りくみについて【シンポジウム】

第 8 回地域連携薬剤管理指導研究会・講演会 2017 年 11 月 12 日 (名古屋)

森川琢也、黒田純子、江崎哲夫、木村和哲

名古屋市立大学病院における DVO (drug vial optimization) の実績と問題点

第 27 回日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会 2017 年 11 月 27 日（三重）

戸田裕二、近藤祐樹、黒田純子、片岡智哉、堀田祐志、前田康博、川出義浩、木村和哲
乳がん患者における AC 療法と dose-dense AC 療法の悪心発現頻度の比較
第 27 回日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会 2017 年 11 月 27 日（三重）

堀田祐志、高橋瀬奈、所美里、内木綾、片岡智哉、前田康博、高橋智、木村和哲
DPP -4 阻害薬アナグリプチンの血糖コントロール以外の新規作用
～低活動膀胱に対する予防効果～
第 27 回日本循環薬理学会 2017 年 12 月 1 日（名古屋）

冨田なつみ、堀田祐志、内木綾、片岡智哉、前田康博、高橋智、木村和哲
Dahl Salt Sensitive rat において、PDE5 阻害薬は食塩感受性高血圧を伴う糸球体障害を軽減する
第 27 回日本循環薬理学会 2017 年 12 月 1 日（名古屋）

和知野千春

最近 5 年間のカンジダ血症治療の現状

- 抗菌薬適正支援チーム(AST)による抗真菌薬適正使用支援に向けて -

平成 29 年度第 4 回愛知県病院薬剤会 感染制御部会学術講演会 2017 年 12 月 3 日（名古屋）

【臨床薬学分野】

(原報)

Tomoki Kabeya, Wakana Matsumura, Takahiro Iwao, Masakiyo Hosokawa, Tamihide Matsunaga
Functional analysis of carboxylesterase in human induced pluripotent stem cell-derived enterocytes.
Biochem. Biophys. Res. Commun., 486:143–148 (2017).

Toru Takenaka, Kanako Kazuki, Naomoto Harada, Jiro Kuze, Masato Chiba, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga, Satoshi Abe, Mitsuo Oshimura, Yasuhiro Kazuki
Development of Caco-2 cells co-expressing CYP3A4 and NADPH-cytochrome P450 reductase using a human artificial chromosome for the prediction of intestinal extraction ratio of CYP3A4 substrates.
Drug Metab. Pharmacokinet., 32:61–68 (2017).

Eisei Hori, Chigusa Kikuchi, Chie Nagami, Junko Kajikuri, Takeo Itoh, Masayoshi Takeuchi, Tamihide Matsunaga
Role of glyceraldehyde-derived AGEs and mitochondria in superoxide production in femoral artery of OLETF rat and effects of pravastatin.
Biol. Pharm. Bull., 40:1903–1908 (2017).

赤津裕康, 間辺利江, 竹尾 淳, 川出義浩, 木村雄子, 近藤麻央, 伊藤禎善, 長野弘季, 野崎耀志郎, 土井愛美, 正木克由規, 田中創始, 兼松孝好, 小嶋雅代, 明石恵子, 岩田 彰, 鈴木 匡, 木村和哲, 浅井清文, 大原隆弘
大都市旧ニュータウン在住高齢者への死後を含めた事前指示に関する意識調査と啓発介入効果.
日本老年医学会雑誌 55(3):358-366 (2017).

小嶋雅代, 浅井大策, 石川大貴, 木村侑樹, 明石恵子, 赤津裕康, 大原弘隆, 川出義浩, 木村和哲, 酒々井眞澄, 鈴木 匡, 坂下真大, 早野順一郎, 村上里奈, 山本美由紀, 浅井清文
「高齢者家庭訪問実習」の意義の検証と課題の探索：なごやかモデルにおける試み.
医学教育 221-235 (2017).

Ito A, Okada Y, Hashita T, Aomori T, Hiromura K, Nojima Y, Nakamura T, Araki T, Yamamoto K.
Sex difference in the blood concentration of tacrolimus in systemic lupus erythematosus and rheumatoid arthritis patients with CYP3A5*3/*3.
Biochem. Genet., 55:268-277 (2017).

(総説・著書・総合論文など)

岩尾岳洋, 松永民秀
幹細胞からの薬物動態関連臓器細胞の分化誘導技術.
生物工学会誌, 95:461–464 (2017).

鈴木 匡
スタンダード薬学シリーズⅡ (東京化学同人) 臨床薬学Ⅰ 編集 2017年10月

(学会発表)

大西 琢, 小野里太智, 岩尾岳洋, 境 慎司, 田谷正仁, 松永民秀

マイクロカプセル内でのヒト iPS 細胞由来肝細胞の作製.
細胞アッセイ研究会シンポジウム, 2017年1月30日(東京).

山下美紗季, 小野里太智, 赤川 巧, 岩尾岳洋, 松永民秀
ヒト iPS 細胞由来腸管オルガノイドの機能評価.
細胞アッセイ研究会シンポジウム, 2017年1月30日(東京).

小野里太智, 山下美紗季, 木田有里子, 小枝暁子, 岩尾岳洋, 松永民秀
カニクイザル iPS 細胞由来腸管オルガノイドを用いた薬物動態学的機能解析.
細胞アッセイ研究会シンポジウム, 2017年1月30日(東京).

木田有里子, 小野里太智, 赤川 巧, 小枝暁子, 岩尾岳洋, 松永民秀
カニクイザル iPS 細胞由来腸管オルガノイドの長期培養.
日本薬学会第137年会, 2017年3月24日-27日(仙台).

邱 施萌, 長崎瑞佳, 壁谷知樹, 岩尾岳洋, 松永民秀
基底膜成分を用いたヒトiPS細胞由来小腸幹細胞の単離.
日本薬学会第137年会, 2017年3月24日-27日(仙台).

中西杏菜, 奥村啓樹, 山野上舞, 山田果奈, 宮本智美, 平林真澄, 田川陽一, 坡下真大, 岩尾岳洋,
松永民秀
異種間キメラマウス作出方法がラットES細胞のマウス肝臓への寄与に与える影響.
日本薬学会第137年会, 2017年3月24日-27日(仙台).

壁谷知樹, 松村若菜, 岩尾岳洋, 細川正清, 松永民秀
ヒト iPS 細胞由来腸管上皮細胞におけるカルボキシエステラーゼの機能解析.
日本薬学会第137年会, 2017年3月24日-27日(仙台).

榊原明美, 菊池千草, 鈴木理珠, 関谷 茜, 末松菜月, 鈴木 匡
女性の健診受診率に影響する因子の検討.
日本薬学会第137年会, 2017年3月24日-27日(仙台).

関谷 茜, 菊池千草, 三好真琴, 長谷川和彦, 鍋谷伸子, 重森裕之, 田中美葉子, 鈴木 匡
保険薬局来局患者の服薬アドヒアランスと生活習慣の関連性の検証.
日本薬学会第137年会, 2017年3月24日-27日(仙台).

鈴木理珠, 菊池千草, 堀池理沙, 大島秀康, 鈴木 匡
地域住民の健康のために薬局薬剤師が行う生活習慣振り返りの効果.
第60回日本糖尿病学会年次学術集会、II-P-440、2017年5月18日-20日(名古屋).

松永民秀【招待講演】
創薬研究におけるヒト小腸モデルとして期待されるヒト iPS 細胞.
第59回日本平滑筋学会総会シンポジウム, 2017年5月25日(福岡).

壁谷知樹, 松村若菜, 岩尾岳洋, 細川正清, 松永民秀
ヒト iPS 細胞由来腸管上皮細胞を用いたカルボキシエステラーゼによる医薬品代謝の予測評価系の
開発.
第24回HAB研究機構学術年会, 2017年6月1日-3日(東京).

小宮雅美, 藤井 元, 宮本真吾, 中西るり, 鱧屋隆博, 田村秀哉, 黒川友理絵, 高橋麻衣子, 岩尾岳

洋, 松永民秀, 武藤倫弘

iPS 細胞由来原始下部消化管幹細胞を用いた培養下発がん研究系の開発.
第 24 回日本がん予防学会総会, 2017 年 6 月 16 日-17 日 (大阪).

奥村啓樹, 坂下真大, 岩尾岳洋, 松永民秀

ヒト iPS 細胞由来肝細胞の薬物代謝酵素発現に及ぼすセレコキシブの影響.
第 24 回肝細胞研究会, 2017 年 6 月 30 日-7 月 1 日 (旭川).

三好真琴, 菊池千草, 堀池理沙, 鈴木 匡

薬学生によるブラウンバッグと生活習慣チェックシートを用いた服薬・生活習慣指導体験学習の効果.
第 2 回日本薬学教育学会大会, 2017 年 9 月 2 日 (名古屋).

菊池千草, 安原智久

シンポジウム 6「個性が輝くインクルージョンの実現: 合理的配慮と方略・評価の多様化、薬剤師としての資質の水準を考える」薬学部の講義での事例紹介.
第 2 回日本薬学教育学会大会、S6-1、2017 年 9 月 2 日-3 日 (名古屋).

中村大学, 花田菜摘, 赤川 巧, 坂下真大, 菊池千草, 川出義浩, 鈴木 匡, 木村和哲

実務実習における学生主導カンファレンスの新たな試み.
第 2 回日本薬学教育学会大会, 2017 年 9 月 2 日 (名古屋).

堀 英生, 菊池千草, 末松菜月, 今枝憲郎, 岡山直司, 鈴木匡, 松永民秀

2 型糖尿病患者の血中アディポネクチン濃度に及ぼすスタチンの影響.
第 6 回日本くすりと糖尿病学会学術集会, 2017 年 9 月 17 日-18 日 (東京).

Yoko Sakai, Takahiro Iwao, Takeshi Susukida, Akinori Takemura, Takumi Nukaga, Shuichi Sekine, Kousei Ito, Tamihide Matsunaga

Establishment of cholestatic drug-induced liver injury evaluation system *in vitro* using sandwich culture human iPS cell-derived hepatocytes.
21st North American ISSX Meeting, Sep. 24-28 (2017) (Providence, USA).

Daichi Onozato, Misaki Yamashita, Anna Nakanishi, Takumi Akagawa, Yuriko Kida, Akiko Koeda, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga

Efficient generation of human and cynomolgus monkey induced pluripotent stem cell-derived intestinal organoids with pharmacokinetic functions.
21st North American ISSX Meeting, Sep. 24-28 (2017) (Providence, USA).

Satoshi Kondo, Shota Mizuno, Yue Yu, Wakana Matsumura, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga

Establishment of novel culture method for maintaining stemness of human iPS cell-derived intestinal stem cells.
21st North American ISSX Meeting, Sep. 24-28 (2017) (Providence, USA).

末松菜月, 菊池千草, 神林純二, 野本慎一, 鈴木隆博, 澤田砂織, 鈴木 匡

服薬支援システムを用いた在宅での服薬支援の有効性について.
第 27 回日本医療薬学会年会 2017 年 11 月 5 日 (千葉).

小川 勇, 小野里太智, 岩尾岳洋, 松永民秀

FCeM®シリーズを用いたヒト iPS 細胞由来腸管オルガノイドの作製.
第 3 回 FCeM 研究会, 2017 年 11 月 18 日 (東京).

岩尾岳洋【受賞講演】

ヒト iPS 細胞由来組織細胞の作製と薬物動態試験への応用に関する研究.
日本薬物動態学会第32回年会, 2017年11月29日-12月1日 (東京).

壁谷知樹

ヒト iPS 細胞から小腸上皮細胞への新規分化誘導法の開発.
日本薬物動態学会第 32 回年会, 2017 年 11 月 29 日-12 月 1 日 (東京).

赤川 巧, 小野里太智, 木田有里子, 山下美紗季, 岩尾岳洋, 松永民秀

ヒト iPS 細胞由来腸管オルガノイドを用いた抗がん剤による消化管障害の評価系の構築.
日本薬物動態学会第 32 回年会, 2017 年 11 月 29 日-12 月 1 日 (東京).

青木啓将, 山下美紗季, 坂下真大, 松永民秀

ヒト iPS 細胞由来血管内皮前駆細胞および脳毛細血管内皮細胞の作出.
日本薬物動態学会第 32 回年会, 2017 年 11 月 29 日-12 月 1 日 (東京).

水野翔太, 近藤聡志, 岩尾岳洋, 松永民秀

iPS 細胞由来小腸幹細胞維持培養法の確立.
日本薬物動態学会第 32 回年会, 2017 年 11 月 29 日-12 月 1 日 (東京).

小川 勇, 小野里太智, 坂下真大, 岩尾岳洋, 金木達朗, 松永民秀

効率的な 3 次元培養によるヒト iPS 細胞由来腸管オルガノイドの作製.
日本薬物動態学会第 32 回年会, 2017 年 11 月 29 日-12 月 1 日 (東京).

小野里太智, 山下美紗季, 赤川 巧, 木田有里子, 中西杏奈, 岩尾岳洋, 松永民秀

薬物動態学的機能を有するヒト iPS 細胞由来腸管オルガノイドの作製.
日本薬物動態学会第 32 回年会, 2017 年 11 月 29 日-12 月 1 日 (東京).

壁谷知樹, 岩尾岳洋, 日比野桃菜, 松永民秀

ヒト iPS 細胞から小腸上皮細胞への新規分化誘導法の開発.
日本薬物動態学会第 32 回年会, 2017 年 11 月 29 日-12 月 1 日 (東京).

邱 施萌, 壁谷知樹, 岩尾岳洋, 松永民秀

機能性ポリマーはヒト iPS 細胞から腸管上皮細胞への分化を促進する.
日本薬物動態学会第 32 回年会, 2017 年 11 月 29 日-12 月 1 日 (東京).

鈴木香帆, 太田欣哉, 保嶋智也, 壁谷知樹, 岩尾岳洋, 松永民秀, 湯浅博昭

ヒト iPS 細胞由来腸管上皮細胞モデルにおける PCFT 及び ASBT の機能の比較検討.
日本薬物動態学会第 32 回年会, 2017 年 11 月 29 日-12 月 1 日 (東京).

水野翔太, 近藤聡志, 岩尾岳洋, 松永民秀

iPS 細胞由来小腸幹細胞維持培養法の確立.
日本薬物動態学会第 32 回年会, 2017 年 11 月 29 日-12 月 1 日 (東京).

山下美紗季, 青木啓将, 坂下真大, 松永民秀

化合物群 Y はヒト iPS 細胞由来脳毛細血管内皮細胞のバリア機能を改善する.
日本薬物動態学会第 32 回年会, 2017 年 11 月 29 日-12 月 1 日 (東京).

柳生直紀, 坂本 栄, 壁谷知樹, 高瀬弘嗣, 土井孝良, 岩尾岳洋, 松永民秀

リン脂質症のスクリーニング系としてのヒト iPS 細胞由来肝細胞 (hiPSC-HLCs) の有用性.
2017 年度生命科学系学会合同年次大会, 2017 年 12 月 6 日-9 日 (神戸).

(招待講演)

松永民秀

創薬研究支援材料として期待されるヒト iPS 細胞: 消化管への分化誘導を中心として.
金沢医科大学大学院医学研究セミナー, 2017 年 6 月 16 日 (金沢).

松永民秀

ヒト iPS 細胞を用いた創薬研究の未来: 小腸と肝臓を中心として.
東京大学大学院薬学研究科 ヒト細胞創薬学寄附講座設立記念講演会, 2017 年 7 月 24 日 (東京).

松永民秀

ヒト iPS 細胞を用いた創薬研究の未来: 小腸、肝臓、血液脳関門モデル.
大塚製薬株式会社徳島研究所 講演会, 2017 年 9 月 5 日 (徳島).

5 科学研究費等補助金

科学研究費

研究種目	研究課題/ 領域番号	研究代表者	職名 (採択時)	研究期間(年度)	29年度 配分額	研究課題名
新学術領域研究(研究領域提案型)	16H01366	服部 光治	教授	2016-04-01 - 2018-03-31	¥4,810,000	中枢性リボタンパク質受容体を介した神経細胞のリボクオリティ制御とその疾患との関連
新学術領域研究(研究領域提案型)	17H05537	山村 寿男	准教授	2017-04-01 - 2019-03-31	¥2,600,000	ミトフュージンを中核とした細胞内酸素およびカルシウム制御機構の解明
新学術領域研究(研究領域提案型)	17H05890	矢木 宏和	講師	2017-04-01 - 2019-03-31	¥6,500,000	アッセンブリーシャペロンが関わるプロテアソームの動的成熟過程の活写
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)	15KK0352	田上 辰秋	講師	2016-06-10 - 2019-03-31	¥14,560,000 (総額)	炎症性肺疾患に対する温度応答DDSの基盤技術に関する研究(国際共同研究強化)
基盤研究(A)	15H02491	加藤 晃一	教授	2015-04-01 - 2019-03-31	¥10,790,000	多角的構造生物学アプローチによるプロテアソーム形成機構の解明と創薬への展開
基盤研究(B)	26293021	今泉 祐治	教授	2014-04-01 - 2018-03-31	¥2,080,000	創薬標的としてのカルシウム依存性イオンチャネル機能複合体群の分子薬理学的研究
基盤研究(B)	15H04276	白根 道子	准教授 (九州大学)	2015-04-01 - 2018-03-31	¥5,200,000	PKDの活性制御機構とモノアミン分泌への関与
基盤研究(B)	16H05103	中川 秀彦	教授	2016-04-01 - 2019-03-31	¥6,110,000	新規ケージドNO化合物等の反応性拡張と生体応用
基盤研究(B)	16H05460	大澤 匡弘	准教授	2016-04-01 - 2019-03-31	¥5,850,000	疼痛認知における体性感覚と情動反応の分離に着眼した慢性疼痛治療法の開発
基盤研究(B)	17H03635	星野 真一	教授	2017-04-01 - 2021-03-31	¥4,030,000	細胞質ポリA鎖伸長による新しい遺伝子発現制御機構の解明
基盤研究(B)	17H03985	服部 光治	教授	2017-04-01 - 2020-03-31	¥6,500,000	脳の形成と機能に重要な分泌タンパク質リーリンの機能解明と、その創薬への応用研究
基盤研究(B)	17H04000	樋口 恒彦	教授	2017-04-01 - 2020-03-31	¥7,540,000	生理的条件下で効率よく機能する化学発光型センサー分子の開発
基盤研究(C)	26460072	長田 茂宏	准教授	2014-04-01 - 2018-03-31	¥1,170,000	前がん病変で発現上昇するクロマチン関連因子による細胞死制御
基盤研究(C)	15K07935	矢木 宏和	講師	2015-04-01 - 2018-03-31	¥1,950,000	筋ジストロフィー原因遺伝子産物LARGEによる糖鎖の伸長機構の解明
基盤研究(C)	15K07936	井上 靖道	准教授	2015-04-01 - 2018-03-31	¥1,560,000	翻訳後修飾制御によるTGF- β のがん抑制因子から悪性化因子への転換機構
基盤研究(C)	15K07937	林 秀敏	教授	2015-04-01 - 2018-03-31	¥1,430,000	新規がん遺伝子TRBファミリー分子による発癌作用の分子基盤の解明
基盤研究(C)	15K08027	梅澤 直樹	准教授	2015-04-01 - 2018-03-31	¥1,430,000	構造制約をもつポリアミン: 固相合成と生理活性評価
基盤研究(C)	16K08171	山越 博幸	助教	2016-04-01 - 2019-03-31	¥1,690,000	抗腫瘍性サポニン・シラシロシドE-1の全合成研究

研究種目	研究課題/ 領域番号	研究代表者	職名 (採択時)	研究期間(年度)	29年度 配分額	研究課題名
基盤研究(C)	16K08242	今川 正良	教授	2016-04-01 - 2019-03-31	¥1,690,000	脂肪細胞分化を制御する新規遺伝子が有する新たな生理機能の解明
基盤研究(C)	16K08278	山村 寿男	准教授	2016-04-01 - 2019-03-31	¥1,430,000	門脈圧亢進症に関与するTMEM16チャネルの発現および機能解析
基盤研究(C)	16K08297	寺坂 和祥	講師	2016-04-01 - 2019-03-31	¥2,210,000	基質特異性と配列相同性の相関による機能未知二次代謝糖転移酵素の同定と応用
基盤研究(C)	16K08298	牧野 利明	教授	2016-04-01 - 2019-03-31	¥1,430,000	神経障害性疼痛に対する加工ブシの緩和作用とその有効成分の作用メカニズム
基盤研究(C)	16K08345	伊藤 佐生智	講師	2016-04-01 - 2019-03-31	¥1,560,000	黄色ブドウ球菌毒素SSLファミリーの病原性における役割の解明と創薬への応用
基盤研究(C)	16K08744	田中 正彦	准教授	2016-04-01 - 2019-03-31	¥1,690,000	小腸の機能制御と恒常性維持における腸管グリア細胞とカルシニューリンの役割
基盤研究(C)	16K10101	青山 峰芳	教授	2016-04-01 - 2019-03-31	¥1,560,000	新生児期虚血低酸素時の脳内エリスロポエチンによるミクログリア活性化制御脳保護効果
基盤研究(C)	17K04990	山中 淳平	教授	2017-04-01 - 2020-03-31	¥2,600,000	粒子間摩擦力の制御による対称性に優れた正四面体型荷電コロイド粒子会合体の構築
基盤研究(C)	17K08215	中村 精一	教授	2017-04-01 - 2020-03-31	¥1,690,000	イソベンゾフランの新規発生法を活用する生物活性天然物合成
基盤研究(C)	17K08280	築地 仁美	講師	2017-04-01 - 2020-03-31	¥1,820,000	抑制性介在ニューロン変性の前頭側頭葉変性症発症における重要性の解明
基盤研究(C)	17K08281	河野 孝夫	講師	2017-04-01 - 2020-03-31	¥1,690,000	巨大分泌蛋白質リールのシグナル活性機構と、その精神神経疾患における重要性の解明
基盤研究(C)	17K08282	西塚 誠	講師	2017-04-01 - 2020-03-31	¥1,950,000	脂肪細胞のインスリン抵抗性惹起におけるカリウムチャネルの役割と機能の解明
基盤研究(C)	17K08389	肥田 重明	教授	2017-04-01 - 2020-03-31	¥1,950,000	常在細菌による免疫制御ネットワークの解明
基盤研究(C)	17K08421	岩尾 岳洋	准教授	2017-04-01 - 2020-03-31	¥1,950,000	薬物動態および相互作用の新規予測系としてのヒトiPS細胞由来腸管上皮細胞の応用
基盤研究(C)	17K08422	坡下 真大	講師	2017-04-01 - 2020-03-31	¥1,560,000	新規ヒトiPS細胞由来血管内皮前駆細胞を用いた血液脳関門モデルの構築
基盤研究(C)	17K08456	尾関 哲也	教授	2017-04-01 - 2020-03-31	¥1,170,000	機能性吸入DDS製剤のone step調製を可能にするスプレードライ技術の研究
基盤研究(C)	17K08571	富田 淳	助教	2017-04-01 - 2020-03-31	¥1,820,000	ショウジョウバエとマウスで共通するNMDA受容体による睡眠制御機構の解明
挑戦的萌芽研究	16K15127	鈴木 良明	助教	2016-04-01 - 2018-03-31	¥1,430,000	貪食細胞におけるサイレントカリウムチャネルのon-offスイッチング機構の解明
挑戦的萌芽研究	16K15128	今泉 祐治	教授	2016-04-01 - 2018-03-31	¥1,430,000	タンデム型2ボアカリウムチャネル作用薬超高効率探索システムの創成
挑戦的萌芽研究	16K15144	中川 秀彦	教授	2016-04-01 - 2018-03-31	¥1,820,000	ラジカル特異的反応性を利用した新規NO蛍光プローブの開発
挑戦的萌芽研究	16K15164	松永 民秀	教授	2016-04-01 - 2018-03-31	¥1,950,000	ヒト及びサルiPS細胞を用いた腸管毒性試験用モデルの構築と毒性バイオマーカー探索
挑戦的萌芽研究	16K15308	鈴木 匡	教授	2016-04-01 - 2018-03-31	¥1,690,000	薬局「検体測定室」を活用したセルフメディケーション推進効果の検証
挑戦的萌芽研究	16K15693	堀田 祐志	助教	2016-04-01 - 2018-03-31	¥1,170,000	4次元制御可能なNOドナーによる新規ED治療法の開発
挑戦的萌芽研究	17K19500	服部 光治	教授	2017-06-30 - 2019-03-31	¥3,770,000	脳神経細胞の膜脂質組成を好転させる方法の開発

研究種目	研究課題/ 領域番号	研究代表者	職名 (採択時)	研究期間(年度)	29年度 配分額	研究課題名
挑戦的萌芽研究	17K19357	星野 真一	教授	2017-06-30 - 2019-03-31	¥3,120,000	mRNA医薬を成功に導くmRNA安定化技術の開発
若手研究(A)	16H06215	鈴木 良明	助教	2016-04-01 - 2020-03-31	¥5,850,000	興奮-転写連関による転写遺伝子の特異的選択機構の解明
若手研究(B)	16K18851	久松 洋介	助教	2016-04-01 - 2018-03-31	¥1,950,000	がん治療薬を指向した新規カチオン性金属錯体の設計・合成と標的分子の同定
若手研究(B)	16K18951	保嶋 智也	助教	2016-04-01 - 2018-03-31	¥1,560,000	ホルモン感受性乳がんにおけるエストロゲン供給経路の分子基盤
若手研究(B)	16K18952	田上 辰秋	講師	2016-04-01 - 2019-03-31	¥1,430,000	光刺激応答性リポソームを用いたがんのセラノスティクスに関する基盤研究
若手研究(B)	17K15467	石内 勘一郎	助教	2017-04-01 - 2020-03-31	¥1,300,000	有用物質生産基盤の確立に向けた糸状菌における二次代謝発現調節メカニズムの解明
若手研究(B)	17K15517	長部 誠	助教	2017-04-01 - 2019-03-31	¥1,690,000	重症薬疹の発生リスク回避を目指した革新的HLAタイピング法に基づく診断薬の開発

その他の研究補助金

【助成金等】

補助金等名称 氏名 金額（千円）	大陽日酸株式会社 学術奨励寄附金 加藤 晃一 300
補助金等名称 研究課題名 氏名 金額（千円）	公益財団法人堀科学芸術振興財団 研究助成金 フラタン類の酸化/不可環化連続反応を利用する縮環天然物合成 山越 博幸 1,000
補助金等名称 研究課題名 氏名 金額（千円）	エジプト大使館 文化・教育・科学局 学術奨励寄附金 フラタン類の酸化/不可環化連続反応を利用する縮環天然物合成 津田 洋幸 110
補助金等名称 研究課題名 氏名 金額（千円）	一般社団法人 全日本コーヒー協会 平成28年度研究助成金 コーヒー成分ががん細胞の上皮間葉転換 (EMT)に与える影響とその分子機構の解明 西塚 誠 1,500
補助金等名称 研究課題名 氏名 金額（千円）	公益財団法人日本食品化学研究振興財団 平成29年度研究助成金 配糖体の消化管吸収過程におけるLPHの特性評価 寺坂 和祥 800
補助金等名称 研究課題名 氏名 金額（千円）	一般財団法人新製剤技術とエンジニアリング振興基金 2016年度後期研究助成金 機能性吸入製剤の調整に有用な新規粉末化技術の開発 田上 辰秋 1,000
補助金等名称 研究課題名 氏名 金額（千円）	公益財団法人 日中医学協会 学術研究奨励 Development of novel functional lipid-based nanoparticles for lung related diseases 尾関 哲也 300
補助金等名称 氏名 金額（千円）	株式会社ダイセル 学術研究奨励 山中 淳平 500
補助金等名称 研究課題名 氏名 金額（千円）	大川原化工機株式会社 学術研究奨励 スプレードライヤーを用いた研究 尾関 哲也 600
補助金等名称 研究課題名 氏名 金額（千円）	公益財団法人一般用医薬品セルフメディケーション振興財団 平成29年度調査・研究助成 薬局が行う継続的なロコモ予防活動によるセルフメディケーション推進効果の検証 菊池 千草 1,100
補助金等名称 研究課題名 氏名 金額（千円）	公益財団法人東洋医学研究財団 平成29年度研究・調査助成 生薬成分の消化管吸収プロセスにおけるLactase~phlorizin hydrolase の機能解明 寺坂 和祥 500
補助金等名称	公益財団法人東洋医学研究財団 平成29年度研究・調査助成

研究課題名	がん抑制遺伝子P53活性化作用を持つ化合物の同定とその作用機序の解析
氏名	井上 靖道
金額(千円)	600
補助金等名称	公益財団法人武田科学振興財団 2017年度薬学系研究奨励
研究課題名	イソベンゾフランの新規発生法を基盤とするアルカロイド合成
氏名	山越 博幸
金額(千円)	2,000
補助金等名称	公益財団法人愛知県がん研究振興会 第42回(平成29年度)がんその他の悪性新生物研究助成金
研究課題名	メチルトランスフェラーゼSET8によるTGF- β シグナル制御を介したがん悪性化メカニズムの解明
氏名	井上 靖道
金額(千円)	500
補助金等名称	公益財団法人武田科学振興財団 2017年度特定研究助成
研究課題名	人工mRNA・非コードRNA分解機構の解明とRNA医薬安定化技術の開発【特定研究助成】
氏名	星野 真一
金額(千円)	40,000
補助金等名称	有限会社中村薬局 学術研究奨励
研究課題名	ハスカップのカゼ予防作用
氏名	牧野 利明
金額(千円)	1,000
補助金等名称	学術奨励寄附金(個人寄附)
氏名	平嶋 尚英
金額(千円)	1,000
補助金等名称	公益財団法人コスメロジー研究振興財団 第28回(平成29年度)研究助成金
研究課題名	メラノソーム膜に局在するOCA4型アルビノ原因遺伝子MATPを標的としたメラニン合成阻害剤の開発
氏名	保嶋 智也
金額(千円)	2,000
補助金等名称	小林製薬株式会社 学術研究奨励
研究課題名	辛夷清肺湯の有効性研究
氏名	牧野 利明
金額(千円)	1,000
補助金等名称	公益財団法人金原一郎記念医学医療振興財団 第32回基礎医学医療研究助成金
研究課題名	メチルトランスフェラーゼSET8によるTGF- β シグナル制御を介したがん悪性化メカニズムの解明
氏名	井上 靖道
金額(千円)	500
補助金等名称	公益財団法人大幸財団 海外学術交流研究助成
研究課題名	World Meeting on Sexual Medicine 2018(世界性機能学会総会2018 ポルトガル リスボン)
氏名	堀田 祐志
金額(千円)	120
補助金等名称	公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団 平成29年度調査研究助成金
研究課題名	海馬アストロサイト選択的機能調節による糖尿病時の認知機能障害改善の機序解明と創薬への応用
氏名	大澤 匡弘
金額(千円)	1,000
補助金等名称	公益財団法人加藤記念バイオサイエンス振興財団 国際交流助成

研究課題名	Light controlled relaxation of rat penile corpus cavernosum (学会名:World Meeting on Sexual Medicine 2018)
氏名	堀田 祐志
金額(千円)	300
補助金等名称	公益財団法人小野医学研究財団 第30回(平成29年度)研究助成
研究課題名	神経細胞の脂肪酸組成を制御する新たな分子機構と、その疾患との関連解明
氏名	服部 光治
金額(千円)	2,000
補助金等名称	公益財団法人小野医学研究財団 第26回(平成29年度)研究奨励助成
研究課題名	SREBPタンパクの安定性を制御する新規脱ユビキチン化酵素の同定と治療への展開
氏名	井上 靖道
金額(千円)	1,000
補助金等名称	公益財団法人テルモ生命科学芸術財団 2017年度研究開発助成
研究課題名	神経精神疾患におけるモノアミン分泌機構の解明
氏名	白根 道子
金額(千円)	2,000
補助金等名称	公益財団法人中富健康科学振興財団 平成29年度(第.30回)研究助成金
研究課題名	小腸基底膜に局在する新規クロライド感受性薬物トランスポーターの同定とクロライド恒常性破綻が薬物の消化管吸収に与える影響
氏名	保嶋 智也
金額(千円)	1,500
補助金等名称	花王メラニン研究会 第4回(2018年度)研究助成金
研究課題名	メラノソーム膜に局在するOCA4型アルビノ因遺伝子MATPによるメラニン合成経路の分子基盤研究
氏名	保嶋 智也
金額(千円)	1,000
補助金等名称	小野薬品工業株式会社 学術研究奨励
氏名	木村 和哲
金額(千円)	3,000
補助金等名称	厚労科研費・化学物質リスク研究事業(分担代表)
研究課題名	カーボンナノチューブ吸入暴露による気道クリアランスと肺胞マクロファージへの影響
氏名	山村寿男
金額(千円)	999

【受託研究等】

補助金等名称	国立研究開発法人科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業(個人型研究 [さきがけ])
研究課題名	コロイド結晶の構造制御と新規波長選択光学材料の創製
氏名	豊玉 彰子
金額(千円)	3,744
補助金等名称	大学共同利用機器法人自然科学研究機構 融合発展促進研究プロジェクト
研究課題名	糖鎖の合成と分解を可視化する高速AFM/一分子FRET複合機の開発
氏名	矢木 宏和
金額(千円)	1,050
補助金等名称	ヤエガキ醗酵技研株式会社 受託研究
研究課題名	ハチミツ醗酵物の機能性評価
氏名	牧野 利明
金額(千円)	118

補助金等名称	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 医療分野研究成果展開事業 産学連携医療イノベーション創出プログラム(ACT-MS)
研究課題名	アルツハイマー病の改善を目的としたリーリン分解酵素群阻害薬の開発
氏名	服部 光治
金額(千円)	20,000
補助金等名称	文部科学省 先端研究基盤共用促進事業 新たな共用システムの導入・運営
研究課題名	共用機器センター
氏名	林 秀敏(共用機器センター長)
金額(千円)	18,938
補助金等名称	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 医療品等規制調和・評価研究事業(代表)
研究課題名	東アジア地域での薬剤応答性における民族差と国際共同治験や医薬品使用の実態に関する調査研究
氏名	頭金 正博
金額(千円)	17,150,000
補助金等名称	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 医療品等規制調和・評価研究事業(分担)
研究課題名	薬剤疫学データベースを用いた医薬品副作用の発現頻度に係る民族差に関する研究
氏名	頭金 正博
金額(千円)	500,000
補助金等名称	独立行政法人日本学術振興会 平成29年度学術研究動向調査研究等
研究課題名	化学系薬学分野・創薬化学分野と生物無機化学の分野融合的研究の動向
氏名	樋口 恒彦
金額(千円)	1,690
補助金等名称	日産化学工業株式会社 受託研究
研究課題名	難溶性薬物の溶解性改善に関する研究
氏名	尾関 哲也
金額(千円)	600
補助金等名称	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業
研究課題名	糖鎖利用による革新的創薬技術開発事業
氏名	矢木 宏和
金額(千円)	10,000
補助金等名称	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 「統合医療」に係る医療の質向上・科学的根拠収集研究事業
研究課題名	甘草の副作用、偽アルドステロン症発症予防のためのバイオマーカーの開発
氏名	牧野 利明
金額(千円)	6,292
補助金等名称	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業
研究課題名	個別化医療に対応したゲノム編集技術による肝臓内HBVゲノムの完全不活化を目指した革新的治療法の包括的開発
氏名	星野 真一
金額(千円)	15,000
補助金等名称	クラシエ製薬株式会社
研究課題名	人参養栄湯の骨格筋量に及ぼす影響
氏名	大澤 匡弘
金額(千円)	1,080
補助金等名称	内閣府食品安全委員会事務局 平成29年度食品健康影響評価技術研究(分担)

研究課題名	インビボ毒性試験成績のデータベース化とそのインシリコ解析・評価への応用に関する研究
氏名	頭金 正博
金額(千円)	3,500
補助金等名称	株式会社ベックス
研究課題名	電気式遺伝子導入装置を用いた遺伝子導入効率に関する基礎的研究(～29年10月末まで分)
氏名	井上 靖道
金額(千円)	589
補助金等名称	国立大学法人 大阪大学 機能強化経費(プロジェクト分)ー高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発ー
研究課題名	高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発
氏名	鈴木 匡
金額(千円)	4,318
補助金等名称	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 再生医療実用化研究事業(分担)
研究課題名	ヒトiPS細胞由来肝細胞を用いた医薬品の肝毒性を予測・評価するin vitro試験法の開発研究
氏名	松永 民秀
金額(千円)	3,250
補助金等名称	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業 再生医療技術を応用した創薬支援基盤技術の開発
研究課題名	分化制御培養法によるiPS細胞由来血液脳関門モデル細胞の安定的な製造・供給体制の構築
氏名	坂下 真大
金額(千円)	10,000
補助金等名称	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業 再生医療技術を応用した創薬支援基盤技術の開発
研究課題名	生体模倣小腸-肝臓チップ: バイオアベイラビリティ予測と安全性評価in vitroモデルの開発
氏名	松永 民秀
金額(千円)	50,000
補助金等名称	株式会社ベックス
研究課題名	電気式遺伝子導入装置を用いた遺伝子導入効率に関する基礎的研究(29年11月スタート分)
氏名	井上 靖道
金額(千円)	858
補助金等名称	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業(分担)
研究課題名	HBV抑制効果を有する医薬品候補化合物のスクリーニングと機構解析
氏名	松永 民秀
金額(千円)	4,000
補助金等名称	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 創薬支援推進事業創薬総合支援事業(分担)
研究課題名	難治性乳がんの新規抗がん剤の探索-分担4
氏名	中川 秀彦
金額(千円)	1,800
補助金等名称	文部科学省 特色ある共同研究拠点の整備の推進事業
研究課題名	創薬基盤科学技術開発研究拠点
氏名	中川 秀彦(拠点代表)
金額(千円)	19,709

【名古屋市立大学特別研究奨励費】

種別	科学研究費獲得のための活性化事業
研究課題名	In vivoでの応用を志向した近赤外光制御PeT型NOドナーの開発
氏名	家田 直弥
金額(千円)	900
種別	科学研究費獲得のための活性化事業
研究課題名	タンパク質特異的な糖鎖修飾機構の構造基盤の解明
氏名	佐藤 匡史
金額(千円)	600
種別	科学研究費獲得のための活性化事業
研究課題名	マルチオミクス解析によるストレスに伴う男性性機能障害の発症機序の解明と臨床応用
氏名	堀田 祐志
金額(千円)	600
種別	科学研究費獲得のための活性化事業
研究課題名	ヒトiPS細胞由来肝細胞・腸管上皮細胞を用いた初回通過効果予測モデル系の構築
氏名	松永 民秀
金額(千円)	900
種別	科学研究費獲得のための活性化事業
研究課題名	薬局の健康サポート機能確立をめざした生活活動能力支援プログラムの開発
氏名	菊池 千草
金額(千円)	600
種別	科学研究費獲得のための活性化事業
研究課題名	薬剤疫学的手法を用いた新規2型糖尿病治療薬の有効性と安全性における民族差に関する研究
氏名	頭金 正博
金額(千円)	600
種別	科学研究費獲得のための活性化事業
研究課題名	多種の非機能RNAを一括して細胞から分解除去する新しい品質管理機構
氏名	細田 直
金額(千円)	600
種別	科学研究費獲得のための活性化事業
研究課題名	5FUによる核内RNA代謝阻害の解明
氏名	須藤 遥
金額(千円)	250
種別	科学研究費獲得のための活性化事業
研究課題名	気道上皮細胞におけるIL-33およびTSLPを介した漢方薬の抗アレルギー作用の検討
氏名	高梨 馨太
金額(千円)	250
種別	科学研究費獲得のための活性化事業
研究課題名	肥満患者への実体重を用いた抗がん剤投与量に関する検討
氏名	目方 茉柚
金額(千円)	250
種別	科学研究費獲得のための活性化事業
研究課題名	服薬支援機器システムのフィールド開拓と簡易版服薬支援機器の開発
氏名	川出 義浩
金額(千円)	165
種別	国の競争的資金獲得のための活性化事業

研究課題名	血液がんを標的とした分子標的薬による有効性と安全性のバイオマーカーの確立と個別化医療を目指した研究
氏名	頭金 正博
金額(千円)	2,800
種別	国の競争的資金獲得のための活性化事業
研究課題名	RNA医薬安定化技術の開発とその臨床応用
氏名	星野 真一
金額(千円)	4,200
種別	国の競争的資金獲得のための活性化事業
研究課題名	精神神経疾患の治療を目的とした、リーリン分解酵素群阻害剤の開発
氏名	服部 光治
金額(千円)	43
種別	国の競争的資金獲得のための活性化事業
研究課題名	毒性評価のためのin silico評価支援ツールの活用法に関する研究
氏名	頭金 正博
金額(千円)	50
種別	国の競争的資金獲得のための活性化事業
研究課題名	認知症の発症原因となりうる抑制性介在ニューロン細胞死の分子機構解明(2年目)
氏名	築地 仁美
金額(千円)	1,000
種別	国の競争的資金獲得のための活性化事業
研究課題名	ヒトiPS細胞を利用した創薬研究支援のモデル系構築に関する研究(2年目)
氏名	松永 民秀
金額(千円)	2,400
種別	国際交流の推進事業
研究課題名	シンガン大学との国際交流:大学間交流に向けた薬学部間交流の推進
氏名	岩尾 岳洋
金額(千円)	385
種別	国際交流の推進事業
研究課題名	韓国・梨花女子大学との大学間交流協定締結に向けた交流拡充
氏名	平嶋 尚英
金額(千円)	385
種別	国際交流の推進事業
研究課題名	南カリフォルニア大学との交流拡充
氏名	頭金 正博
金額(千円)	300
種別	国際交流の推進事業
研究課題名	瀋陽薬科大学および中国薬科大学との学術交流推進
氏名	牧野 利明
金額(千円)	325

6 新聞報道等

(2017年1月から2017年12月)

【新聞報道】

牧野利明

ハチミツから免疫賦活物質発見

FOOD STYLE 21、2017年1月1日

加藤晃一

「末梢神経系の髄鞘が形成されるメカニズムとは」

財経新聞 平成29年2月20日

服部光治

「脳機能鈍らず酵素特定 名市大グループ治療薬開発に光」

中日新聞 平成29年3月10日

松永民秀

「世界に先駆け、ヒト iPS 細胞から医薬品開発に使える小腸モデルを作る！」

科学新聞 特集記事 平成29年3月17日（金）掲載

松永民秀

「iPS 細胞を創薬研究に 薬物の吸収や毒性試験の小腸モデルへの利用」

中部経済新聞 連載企画「研究現場発」 平成29年3月14日（火）掲載

佐藤 直子, 青山 柚里奈, 山中 淳平, 豊玉 彰子, 奥菌 透

「水中ゲル、微粒子吸着容易に一名古屋市大が解明、バイオ・医薬に応用へ」

日本工業新聞 平成29年8月11日

なつやすみ親子薬学教室

「初の「なつやすみ親子薬学教室」 ―「調剤」や「化学発光実験」を体験―」

瑞穂フォーラム 平成29年9月23日

条 和彦

ノーベル医学生理学賞受賞者へのコメント掲載

熊本日日新聞 平成29年10月3日

条 和彦

ノーベル医学生理学賞受賞者へのコメント掲載「かつて体内時計は脳の中にしかないと思われていたが、遺伝子が特定されたことで「体中のあらゆる細胞の中に『時計』があることもわかった」

朝日新聞 平成29年10月5日

条 和彦

ノーベル医学生理学賞受賞者へのコメント掲載

熊本日日新聞 平成29年10月11日

今泉 祐治

「“一回の興奮で死ぬ細胞”の創成とその応用による創薬イノベーション」

中部経済新聞 平成29年11月14日

林 秀敏

「細胞内のタンパク質製造工場が感じるストレスとは？」

女性なごや 平成29年11月20日

【受賞】

堤 香菜子

「Two-pore-domain K⁺チャネル TASK1、TALK2 の異種 2 量体形成の解明」
第 90 回日本薬理学会年会 優秀発表賞、2017 年 3 月 15 日

柚木 康弘

「物理化学的計測による時計タンパク質複合体の構造解析」
第 81 回 日本生化学会中部支部会奨励賞 平成 29 年 5 月 20 日

與語 理那

「中性子小角散乱法を用いた溶液中でのタンパク質相互作用に伴う抗体の構造変化の解析」
第 81 回 日本生化学会中部支部会奨励賞 平成 29 年 5 月 20 日

佐伯 尚紀

「血管平滑筋におけるカベオラと筋小胞体膜間のシグナル伝達-変換機構を効率化させる Ca²⁺マイクロドメイン基盤分子の解明」
第 131 回日本薬理学会近畿部会 優秀発表賞、2017 年 6 月 30 日

長野 秀嗣

「パークレートリオンの合成研究－AD 環部の官能基化－」
第 63 回日本薬学会東海支部大会学生優秀発表賞 平成 29 年 7 月 8 日

岩尾岳洋

「ヒト iPS 細胞由来腸管上皮細胞を用いた新規薬物動態評価系の開発」
平成 29 年度 日本薬学会東海支部学術奨励賞 平成 29 年 7 月 8 日

山村 英斗

「低酸素培養下脳微小血管内皮細胞の細胞増殖に対する HIF-1 α -Dynamin2-Kir2.1 シグナルの関与」
生体機能と創薬シンポジウム 2017 優秀発表賞、2017 年 8 月 24 日

野田 さゆり

「気管支平滑筋における α サブユニットによる BK_{Ca} チャネル活性制御機構の解明」
次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017 優秀発表賞、2017 年 8 月 26 日

吉田理人

「Paclitaxel によるマウス神経障害性疼痛に対する加工ブシの緩和作用」
第 34 回和漢医薬学会学術大会優秀発表賞受賞
平成 29 年 8 月 26 日

Poster Award

Taiki Saito, Hirokazu Yagi, Shingo Tsuge, Chuwei Kuo, Kay-Hooi Khoo, and Koichi Kato
Mechanisms underlying the carrier protein-specific lewis X modification catalyzed by fucosyltransferase IX
The 1st International Conference on the Glycobiology of Nervous System
平成 29 年 9 月 5 日 (Seoul, Korea)

矢木 宏和

「糖タンパク質糖鎖の機能解明のための構造生物学的アプローチ法の開発と応用」
日本バイオイメーjing学会奨励賞 平成 29 年 9 月 16 日

大澤 匡弘

「痛み認知の無意識下の脳活動による調節」
意識の研究会吉田優秀賞 平成 29 年 9 月 25 日

山城貴弘

"Identification of the Amino Acid Residue Responsible for the Flavonoid Sensitivity of Human Proton-Coupled Folate Transporter"
21st North American ISSX Meeting 優秀発表賞 平成 29 年 9 月 27 日

Excellent Poster Award

Takanori Saeki

Functional molecular complexes of junctophilin-2 and caveolin-1 are essential for Ca²⁺-microdomain formation in vascular smooth muscle cells.
20th International Symposium on Calcium Binding Proteins and Calcium Function in Health and Disease, Oct 22-26, 2017

小林 里帆

「Sik3 による睡眠量、概日リズムの調節」
第 24 回日本時間生物学会優秀ポスター賞 平成 29 年 10 月 24 日

陰 未来

「新規イソベンゾフラン合成法を活用する連続型反応の開発」
第 48 回中部化学関係学協会支部連合秋季大会優秀賞 平成 29 年 11 月 12 日

松村 由佳

「マウスリウマチ因子 Z2 と IgG2a-Fc の相互作用解析」
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2017 ベストプレゼン賞
平成 29 年 11 月 26 日

岩尾岳洋

「ヒト iPS 細胞由来組織細胞の作製と薬物動態試験への応用に関する研究」
平成 29 年度 日本薬物動態学会奨励賞 平成 29 年 11 月 30 日

Nao Kodama, Takahiro Iwao, Tomoki Kabeya, Takashi Horikawa, Takuro Niwa, Yuki Kondo, Katsunori Nakamura, Tamihide Matsunaga

「Inhibition of mitogen-activated protein kinase kinase, DNA methyltransferase, and transforming growth factor- β promotes differentiation of human induced pluripotent stem cells into enterocytes.」
DMPK Editors' Award for the Most Excellent Article in 2016, 3rd Place 平成 29 年 11 月 30 日

Onozato Daichi

Travel Award of International Conference in The Japanese Society for the Study of Xenobiotics in 2017

Onozato Daichi

Travel Grant in 21th North America International Society for the Study of Xenobiotics meeting

小野里太智

加藤記念バイオサイエンス振興財団 第 30 回 加藤記念国際交流助成

平嶋 尚英

平成 29 年度日本学術振興会科研費審査委員表彰

牧野利明

「漢方処方の中での生薬の役割」

平成 27 年度和漢医薬学会学術貢献賞

7 進路および就職状況

区分	卒業者	就職希望者 (有職者・自営業含む)	就職決定者 (有職者・自営業含む)	就職地域別 就職先業種別	市内	県内	岐阜三重	中部 (愛知・岐阜・三重以外)	京浜	京阪神	その他	計	就職未決定者	進学・その他			
大 学 院 前 期	37 (13)	30 (10)	29 (9)	A 農業・林業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	アルバイト・パート	0 (0)		
				B 漁業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	大学院進学	6 (2)	
				C 鉱業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	海外の大学・大学院進学	0 (0)	
				D 建設業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	専門学校進学	0 (0)
				製 造 業	E-1 食料品・飲料・たばこ・飼料	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (0)		3 (1)	1 (1)	国家資格等試験準備	0 (0)
					E-2 繊維工業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)		公務員試験準備	0 (0)
					E-3 印刷・同関連産業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)		その他(進路未定を含む)	1 (1)
					E-4 化学工業・石油・石炭製品	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (1)	7 (3)	1 (0)		15 (5)		計	7 (3)
					E-5 鉄鋼業・非鉄金属・金属製品	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)		※別途、人数を集計してください 既の有職者（現職継続） 0 (0) 自営 0 (0)	
					E-6 汎用・生産用業務器具	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)		1 (1)			
					E-7 電子部品・デバイス	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		1 (0)			
					E-8 電気・情報通信機械器具	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)			
					E-9 輸送用機械器具	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)			
					E-10 その他の製造業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)			
				F 電気・ガス・熱供給・水道業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
				G 情報通信業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
				H 運輸業・郵便業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
				I-1卸売業	I-1卸売業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)		1 (0)			
					I-2小売業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)			
				J-1金融業	J-1金融業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)			
					J-2保険業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)			
				K-1不動産取引・賃貸・管理業	K-1不動産取引・賃貸・管理業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)			
					K-2物品賃貸業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)			
				L-1学術・開発研究機関	L-1学術・開発研究機関	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)			
					L-2法務	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)			
				L-3その他専門・技術サービス	L-3その他専門・技術サービス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (1)	0 (0)	0 (0)		4 (1)			
				M 宿泊業・飲食サービス業	M 宿泊業・飲食サービス業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)			
				N 生活関連サービス業・娯楽業	N 生活関連サービス業・娯楽業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)			
				O-1学校教育	O-1学校教育	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)			
					O-2その他の教育・学習支援業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)			
				P-1医療業・保健衛生	P-1医療業・保健衛生	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	0 (0)		3 (1)			
					P-2社会保険・社会福祉・介護事業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)		1 (0)			
				Q 複合サービス事業	Q 複合サービス事業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)			
				R-1宗教	R-1宗教	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)			
R-2サービス業（その他）	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
S-1国家公務	S-1国家公務	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
	S-2地方公務	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
計					2 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	17 (5)	7 (3)	2 (0)	29 (9)					
全体の地域別割合					6.9%	0.0%	3.5%	0.0%	58.6%	24.1%	6.9%	100.0%					
女子の地域別割合					(11.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(55.6%)	(33.3%)	(0.0%)	(100.0%)					

() は女子で内数

8 在籍者名簿

名古屋市立大学院薬学研究科（薬学部）所属教員一覧

(平成29年4月現在)

講座	分野	教授	准教授	講師	助教
医薬化学	薬化学	中川 秀彦			家田 直弥 川口 充康
	精密有機反応学	樋口 恒彦	梅澤 直樹	久松 洋介	
	薬品合成化学	中村 精一	近藤 和弘		山越 博幸
	機能分子構造学		池田 慎一		
生命分子薬学	生体超分子システム解析学	平嶋 尚英	田中 正彦		
	コロイド・高分子物性学	山中 淳平	奥菌 透	豊玉 彰子	
	生命分子構造学	加藤 晃一 (兼任)	佐藤 匡史	矢木 宏和	
	分子生物薬学	白根 道子 (平成29年5月1日着任)	長田 茂宏	西塚 誠	
	薬物送達学	尾関 哲也		田上 辰秋	
	マイクロRNAゲノム創薬学		藤井 陽一		
医療分子機能薬学	生薬学	牧野 利明		寺坂 和祥	石内 勘一郎
	衛生化学	肥田 重明	伊藤佐生智		
	遺伝情報学	星野 真一		細田 直	尾上 耕一 (平成30年1月1日着任)
	細胞分子薬効解析学	今泉 祐治	山村 壽男		鈴木 良明
	病態生化学	服部 光治		築地 仁美 河野 孝夫	
医療薬学	薬物動態制御学	湯浅 博昭			保嶋 智也
	病態解析学	青山 峰芳	朝霧 成挙	岩城壮一郎	
	細胞情報学	林 秀敏	井上 靖道		
	神経薬理学	条 和彦	大澤 匡弘	富田 淳	
	レギュラトリーサイエンス	頭金 正博			長部 誠
	病院薬剤学	木村 和哲 (兼務)	川出 義浩 (特任准教授)	前田 康博 堀田 祐志	(特任助教) 加藤 順子 (特任助教) 中村宗一郎 (特任助教) 大橋 一輝 (特任助教) 西出 景子 (特任助教) 高梨 馨太 (特任助教) 須藤 遥 (特任助教) 目片 茉柚 (特任助教) 和知野千春 (平成29年8月1日着任)
	臨床薬学	松永 民秀 鈴木 匡	岩尾 岳洋	菊池 千草 坡下 真大	(特任助教) 堺 陽子 (平成30年1月1日着任)
附属研究所 創薬基盤科学研究所				(特任助教) 喜多 泰之 (平成29年5月1日着任)	
連携大学院	腫瘍制御学 (県がんセンター研究所)	青木 正博 <small>客員教授</small> 小根山千歳 <small>客員教授</small>	藤下 晃章 <small>客員准教授</small>		
	加齢病態制御学 (国立長寿医療センター研究所)		木村 展之 <small>客員准教授</small> 飯島 浩一 <small>客員准教授</small>		
	医薬品質保証学 (国立医薬品食品衛生研究所)	佐藤 陽治 <small>客員教授</small> 合田 幸広 <small>客員教授</small>			
	生体システム制御学分野 (自然科学研究機構)	西田 基宏 <small>客員教授</small>	椎名 伸之 <small>客員准教授</small>		
	医薬品医療機器審査科学 (医薬品医療機器総合機構)	柴辻 正喜 <small>客員教授</small>			

平成29年度大学院生名簿

平成29年10月1日現在

専攻	講座	分野	学年		博士前期課程			博士後期課程			博士課程				非正規生
			1年	2年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	4年				
創薬生命科学	医薬化学	薬化学	関本 英里子 山内 彩樺 山田 輝	小口 瑠菜 田丸 廉太 若森 久幸	太田 悠平										
		精密有機反応学	寺前 将太	天野 太成			國枝 一輝								
		薬品合成化学	長野 秀嗣 山内 裕貴	有馬 竜平 陰 未来					澤山 侑季						
		機能分子構造学											坂崎 美香 森田 友香		
	生命分子薬学	生体超分子システム解析学		大倉 宇海 草田 智之 服部 幸希					鈴木 瑠理子						
		コロイド・高分子物性学	青山 柚里奈 野場 亮汰								関 友崇				
		生命分子構造学		柚木 康弘 與語 理那											
		分子生物薬学	川尻 愛子 中野 友香	小島 舞子											
		薬物送達学		後藤 瑛一 太根 将史	石川 治雄 善田 直樹			Ibrahim Shaimaa 竹内 堂朗		瀧 萌子				LIU JIN (外国人研究生)	
		マイクロRNAゲノム創薬学													

専攻	講座	学年	博士前期課程		博士後期課程			博士課程				非正規生
			1年	2年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	4年	
医療機能薬学	医療分子機能薬学	生薬学	大野 雄也 鈴木 卓馬 村口 真凜	久保 優人			高 勝莉 張 伏子 山田 亜紀				小西 徹	
		衛生化学	北野 拓真 小林 正都					森川 ありさ				
		遺伝情報学	小林 純果 坂元 健太郎 志水 良亮	永井 貴広 古舘 和也 堀田 昂志		西浦 久達	福島 真		稲垣 佑都	野木森 拓人		
		細胞分子薬効解析学	稲垣 奏 栗栖 紘基 神藤 秀基 前田 和輝	萩原 由実子 古川 奈美	山村 英斗	佐伯 尚紀		鈴木 貴久	野田 さゆり	川崎 桂輔	松木 克仁	
		病態生化学	梅本 銀河 奥川 英介	牧野 誠 加藤 路尚	荻野 ひまり			近藤 佑多			水上 智晴 山影 祐子	
	医療薬学	薬物動態制御学	秋野 翔伍 篠田 裕太郎 竹中 理沙 田嶋 柊也	鈴木 香帆 菱川 洋輔			山城 貴弘				三村 佳久	
		病態解析学	大塚 勇斗 鳥内 皐暉									
		細胞情報学	住田 丈典 筒井 聖人 徳川 宗成	杉田 直央 鈴木 千晶 田中 孝仁 田中 輝		吉川 優 Baatar Bolormaa	西川 佐紀子	福浦 啓史		都築 香里 川原田 祐貴	加藤 直樹	
		神経薬理学	石崎 千晶 稲波 千尋 大森 翔太 山口 翔	石倉 啓一郎 中川 寛之 坂 豪祐 丸岡 純也 高 天翔		山田 彬博 佐藤 由美	矢野 裕恭	飯尾 彩加 宮本 啓補				
		レギュラトリーサイエンス 医薬品安全性評価学	槇野 隆太	岡本 秀人	後藤 貴浩		浅野 邦仁 八木 聡美 野中 友香 池田 貢	渡邊 崇				
		病院薬剤学	森 泰毅	北川 絢恵 富田 なつみ			高木 三千代 山本 優子	前田 琴美 矢萩 亮			高橋 瀬奈 後藤 佳奈 真川 明将 長崎 彩子	
		臨床薬学	中西 杏菜 水野 翔太 山下 美紗季	大西 琢 杉本 章 邱 施萌		齊藤 将之	小枝 暁子 坂本 栄 堀 英生 近藤 聡志		青木 啓将 成田 敦貴	奥村 啓樹 小野里 太智 壁谷 知樹	榊原 明美 堺 陽子 堀場 亜佐子	

専攻	講座	分野	学年	博士前期課程		博士後期課程			博士課程				非正規生	
				1年	2年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	4年		
		腫瘍制御学		藤川 遥加										
		加齢病態制御学						藤崎 尚規						
		医薬品質保証学												
		生体システム制御学												

平成29年度卒業研究実習研究室配属

分野	薬学科			生命薬科学科	
	4年	5年	6年	3年	4年
薬化学	岡 由実奈	鈴木 あゆみ	谷 卓磨 三宅 洋平	鈴木 脩平 中村 旭良 古瀬 友梨	菰田 潮 齋藤 大介 本部 竜馬
精密有機反応学	吹上 雄大	龍田 直輝	井鍋 佳菜子	大谷 紘生 矢野 雄輝 山口 真史	北川 宙輝 高橋 和希
薬品合成化学	木村 昂平	加藤 美里 木村 文香 坂上 友花梨 中津川 瑛美 鳴神 大祝	稲富 早紀 渡部 智啓	大田 陽野 小林 誠 山下 智圭	大迫 将弥 加藤 万吏衣 斎藤 彩有里
機能分子構造学		市原 淳一朗 小島 剛史 山田 夏海			岡田 朋美
生体超分子システム解析学	井原 敦思 川添 拓朗 小坂 朱里 與那覇 和希	川合 皓征 成瀬 美結 牧原 未来 松村 綾子 中田 康介	森 大輔 荒目 俊明 橋本 侑昇	寺本 光 二宮 里帆	宮瀬 智仁 古澤 遥
コロイド・高分子物性学	山本 和史 大矢 絢香 竹田 優志 福嶋 文徳	岸田 孝一 近藤 陽子 藤波 さやか 松浦 侑輝 山本 瑠璃	阿部 夏実 今田 祐介 曲 嘉 服部 肇 高木 美緒	佐藤 結 藤田 みのり 三木 裕之	西尾 文貴
生命分子構造学	シム ジンボ	吉田 早希 姫田 美咲	尾林 卓幸 河村 裕樹 成 徳鏞 松村 由佳	梅澤 芙美子 佐々木 雄大	小藤 加奈 齋藤 泰輝 関口 太一朗
分子生物薬学	佐藤 希帆 徐 美香 竹本 龍介 中村 優里	飯田 萌子 大村 隆之 北村 葵 田部井 寿隆 松尾 奏江	橋本 竜弥 池田 雪那 駒田 莉奈 澤田 妙子 成田 沙智世	國松 滯奈 林 直希 松本 悠希 山畑 育子	平山 輝
薬物送達学	伊藤 恵里奈 北原 恵 鯉江 真帆	浦野 真帆 川口 恵里奈 林 直美 森村 知紗 吉村 夏実	安藤 睦美 長田 典子 柳樂 美月 林原 純季	古閑 健人 近藤 康人 中村 和哉	神谷 悠乃 小松 美穂
マイクロRNAゲノム創薬学					
生薬学	杉浦 由姫 十川 志穂 平澤 明日香 三田村 実秋	浅井 恒志 柏原 郁恵 セイゴト アイシャ アンパル 谷村 陽平 中崎 絢子	中山 和香 水上 貴史 山田 和輝 吉田 理人	牧 靖人	奥村 雄一

分野	薬学科			生命薬科学科	
	4年	5年	6年	3年	4年
衛生化学	竹内 亮人 林 知仁 前原 有紀子 元木 優也	荒岸 洋輝 田中 雄一朗 西村 太一 蓮池 浩太	柴田 将成	金 光東	河野 克洋 藤岡 直人
遺伝情報学	飯塚 悠 永川 由依 笠井 詩織 中山 綾乃	大角 愛 菊川 拓磨 坪井 奈緒子 野間 崇秀 村上 のぞみ	東 由菜 蒲池 美友 名和 優紀子 翠 ひとみ	植杉 周平 菅野 大志 山口 奈都美	宮原 彰太 大石 結香 合田 凌也
細胞分子薬効解析学	石田 昌 平井 聖司	近澤 佳南	岩谷 優希 木全 茂利 花田 菜摘 山方 基寛	黒瀬 梨沙 出口 朱理 三島 寛貴	小澤 拓海 澤井 優輝 楯野 真也
病態生化学	石塚 拓巳 森 由紀子 上原 理加	横川 美丹衣	末永 舞	重信 奉文 中尾 洋介 中島 鼓美	石井 圭介 大嶋 智葉 興梠 勝成
薬物動態制御学	山下 紗瑛奈 山原 由梨香 山本 有沙	黒田 大祐 高橋 駿介 武井 秀樹 宮崎 早希 村田 彩乃	石川 千尋 河野 綾香 古澤 香菜 吉田 朱里	奈良 佳幸 間竹 勇	難波 莉子
病態解析学	大石 大祐 太田 桃花 木村 友香 村上 絢香	井手 さくら 榎本 拓也 大田 晴香 杉野 早貴 土居 紋子	伊藤 萌 川畑 結衣 近藤 崇雄 永井 薫	泉 和弥	白川 菜由 安富 栄人
細胞情報学	内田 滯 尾関 優 桂川 結貴 吉田 航	長坂 真衣 丹羽 奈津美 野木村 藍 安田 早希 吉田 真南香	大久保 翼 加藤 一雲 田中 仁美 橋本 亮子	柏原 翔陽 菅野 真由美 水野 佑哉	金子 沙羅 渡辺 信
神経薬理学	原 純太	小林 里帆	長尾 柚香	上田 莉奈 加藤 善章 渡邊 僚介	岩城 杏奈 幡鎌 輝 藤本 真里奈
医薬品安全性評価学	甘利 涼香 大矢 和幸 中嶋 琢人 宮路 康平	植松 紘規 榊原 由子 高橋 祐太 富吉 紘史 武藤 樹也	小林 牧由 平石 千紘 牧野 隼及 三沢 あずさ	亀位 涼	落部 達也 早瀬 稔起 松本 貴大
病院薬剤学	川田 龍哉 日高 隼也 松田 夏鈴 三宅 玲香 山内 歌恋	土屋 絵莉子 佐々木 菜央 鈴木 純 中田 明代 平野 花奈	中村 大学 浅野 岳人 飯田 悠貴 戸田 裕二 中根 裕人 村瀬 美和	西川 敦士	下井 涼平
臨床薬学教育研究センター	小田切 州広 神納 由美 瀬浪 孟明 樽井 亮太 中山 瑞希 山口 京子	沖村 里咲 木田 有里子 西村 祐香 堀池 理沙 三好 真琴 八木 亮夕子	赤川 巧 関谷 茜 日比野 桃菜 柳生 直紀 末松 菜月 鈴木 理珠	由井 宏明	小川 勇 外山 智視

平成29年度研究員名簿

許可NO.	配属分野	氏名
1	生体超分子システム解析学	井上 悠
2	生体超分子システム解析学	足立 浩章
3	生命分子構造学	石井 健太郎
4	生命分子構造学	平松 佳永
5	生命分子構造学	千田 紀代美
6	生命分子構造学	服部 久美子
7	生命分子構造学	山口 拓実
8	生命分子構造学	矢木 真穂
9	生命分子構造学	谷山 怜子
10	生命分子構造学	谷中 冴子
11	生命分子構造学	鈴木 達哉
12	薬物送達学	福重 香
13	生薬学	許 鑫
14	生薬学	太田 美里
15	生薬学	趙 伯陽
16	生薬学	白 帆
17	遺伝情報学	山岸 良多
18	細胞分子薬効解析学	近藤 るびい
19	薬物動態制御学	石黒 雅江
20	薬物動態制御学	片野 貴大
21	薬物動態制御学	山本 俊輔
22	病態解析学	高須 倫彦
23	病態解析学	齊藤 美加
24	病態解析学	小泉 恵子
25	病態解析学	後藤 洋
26	病態解析学	垣田 博樹
27	細胞情報学	中田 佳宏
28	細胞情報学	吉田 康子
29	神経薬理学	小笠原 治
30	病院薬剤学	片岡 智哉
31	臨床薬学	Tsedenbal Narantuya
32	臨床薬学	三木 健義
33	臨床薬学	松本 和也
34	病態生化学	周 春雨
35	薬品合成化学	関 耀
36	臨床薬学	野田 雅人
37	生薬学	大渡 勝史
38	薬物送達学	斎田 雄基
39	薬物送達学	趙 瑩
40	薬物送達学	星川 晃宏
41	遺伝情報学	山本 肇
42	薬化学	荒井 卓也
43	生薬学	倪 昊
44	臨床薬学	Kim Gi Beom
45	生体超分子システム解析学	宮地 克真
46	神経薬理学	市之瀬 敏晴
47	生薬学	Kübra Uzen
48	生薬学	Yasin Genç

教員採用・昇任・退職

区分	分野	補職名	氏名	辞令年月日	前職・移動先等
採用	病院薬剤学	特任助教	高梨 馨太	H29.4.1	
採用	病院薬剤学	特任助教	須藤 遥	H29.4.1	
採用	病院薬剤学	特任助教	目片 茉柚	H29.4.1	
採用	分子生物薬学	教授	白根 道子	H29.5.1	九州大学 生体防御医学研究所
採用	創薬基盤科学研究所	特任助教	喜多 泰之	H29.5.1	九州大学 生体防御医学研究所
採用	病院薬剤学	特任助教	和知野 千春	H29.8.1	
採用	遺伝情報学	助教	尾上 耕一	H30.1.1	理化学研究所 研究員
採用	臨床薬学	特任助教	堺 陽子	H30.1.1	愛知学院大学助教
昇任	精密有機反応学	講師	久松 洋介	H29.4.1	助教
昇任	病院薬剤学	講師	堀田 祐志	H29.4.1	助教
退職	細胞分子薬効解析学	教授	今泉 祐治	H30.3.31	定年
退職	分子生物薬学	准教授	長田 茂宏	H30.3.31	第一薬科大学 教授
退職	分子生物薬学	講師	西塚 誠	H30.3.31	弘前大学 准教授
退職	レギュラトリーサイエンス	助教	長部 誠	H30.3.31	日本薬科大学 講師
退職	病院薬剤学	特任助教	中村 宗一郎	H30.3.31	任期満了 他就職
退職	病院薬剤学	特任助教	西出 景子	H30.3.31	名古屋市立大学高度医療教育研究センター 講師

職 員[2017年4月1日現在]

総合機器分析施設

衛生技師：加藤 節子，岩澤 加奈

薬学部事務室

事務長：井上 誠

学務係長：森 薫

主 事：丹羽 隆，佐々木 綾

業務士：山田 俊也

事務系職員：松永 佳子，宮田 晴子，塚本 尚美、諸岩 陽子

総合情報センター-田辺通分館-薬学部

分館長：糸 和彦（神経薬理学分野教授兼務）

司 書：吉根 佐和子

事務系職員：杉 七瀬，荻原 彩乃

職員の異動（2017年3月31日～）

異 動：水野 栄子（2017年3月31日転出 →芸術工学部事務室へ）

諸岩 陽子（2017年4月1日転入 ←新規採用）

政谷 浩子（2017年3月31日転出 →川澄分館へ）

吉根佐和子（2017年4月1日転入 ←学術情報室より）

平成 29 年度 名古屋市立大学大学院薬学研究科 自己点検・評価報告書

自己評価・点検委員会

担当者： 湯浅博昭（責任者），奥園 透，矢木 宏和